弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科

平成 23 年度　教育改善に向けたアンケート調査

報　告　書

平成 24 年１１月１６日

弘前大学農学生命科学部

自己評価委員会

巻頭言

農学生命科学部長　鈴木　裕之

平成14年度に，農学生命科学部における教育に対する評価をする必要性に迫られ「卒業生を対象としたアンケート調査」を実施したのが端緒となり，平成15年度のアンケート調査は当時の委員会の都合で実施されなかったが，それ以降毎年度継続されている。国立大学が国立大学法人に移行して以来，学部教育に対する内外の評価が重要視されるようになってきた。現在，多くの大学において教育改善（FD）委員会等が立ち上げられ，「講義・授業方法，学生への教育指導方法の改善・工夫方法」について種々の検討がなされている。本学部においても，年に数回の開催が恒例となっており，その中で「卒業生を対象としたアンケート調査」の結果報告会も開催され，委員会による分析結果に対して教員による意見交換も行っている。

弘前大学の第２期中期目標・中期計画では，学生に対する教育の質の向上を図るため，カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの設定と公開を掲げている。本学部でも検討され，最終案が策定されるところである。また，平成25年度には７年毎に実施される大学の認証評価を弘前大学として受審する予定であり，農学生命科学部／農学生命科学研究科においても平成24年度始めからその準備に入っている。これらの作業の中で「教育の質の向上」やその達成度の評価の問題を議論する場合や，学部の教育研究目標の評価を実施する際に，「卒業生を対象としたアンケート調査」の毎年の結果が貴重な資料として活用されている。さらに，平成24年度推薦入試Ｉによる入学者から，入学前教育や初年度教育を実施している。これらの学部独自の取り組みの評価も今後の調査の中で明らかにされていく必要があろう。

平成24年６月に文部科学省から「大学改革実行プラン」が示され，弘前大学においても大学の持っている本来の役割を社会全体に認めてもらえるよう大学のビジョンを明確にすることが求められている。大学進学者の学習・勉学意欲の変化などを読み解くにも，「卒業生を対象としたアンケート調査」は必要であり，これらの結果が本学部／研究科の教育の充実のために積極的に活用されることを期待したい。

最後に，本調査を継続実施し，分析結果をとりまとめて頂いた自己評価委員の各位に深甚なる謝意を表したい。

目次

巻頭言 1

はしがき 3

Ⅰ. 学部卒業時学生対象　教育評価アンケート 4

１．アンケート調査内容 4

２．調査結果 6

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート 54

１．アンケート調査内容 54

２．調査結果 56

Ⅲ．教員対象授業アンケート（学部授業および研究科授業） 79

１．アンケート調査内容 79

２．学部授業に関する調査結果 80

３．研究科授業に関する調査結果 90

Ⅳ　教員対象教育評価アンケート 97

１. アンケート調査内容 97

２．調査結果 98

Ⅴ．アンケート調査結果に対する各学科の見解 117

生物学科 117

分子生命科学科 117

生物資源学科 118

園芸農学科 119

地域環境工学科 120

Ⅵ．教育改善委員会（平成２３年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見） 121

学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて 121

教員対象授業アンケートについて 122

教員対象教育評価アンケートについて 123

はしがき

農学生命科学部の自己評価委員会は，学部ならびに研究科の教育の適正化，カリキュラムの改善などを目的に，学部４年の卒業予定学生及び研究科２年修了予定学生を対象にした授業評価と，各教員を対象とした専門科目の授業評価についてアンケート調査を実施してきた。平成 14 年度(15 年 2 月実施)以降，これまで 8 回行われ，今回は第 9 回目である。平成 17 年度からの調査では，それ以前の内容に加えて学生と教員を対象として教育評価アンケートが実施された。そのアンケートにおいては，学生および教員対象の各アンケートに同種の質問項目を設けており，学生と教員との間における意識の相違についても読み取れる。本年度もこれまでのアンケートとの継続性に配慮し，それらの内容を踏襲して次の４種類とした。

Ⅰ．学部卒業時学生対象教育評価アンケート

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート

Ⅲ．教員対象授業評価アンケート　・学部授業に関する調査　・研究科授業に関する調査

Ⅳ．教員対象教育評価アンケート。

各アンケートの設問内容は，それぞれのアンケート調査結果の冒頭に示した。設問は主に選択肢の中から１つを選ぶものと，その回答理由を記述させるもので構成した。選択肢として，「強くそう思う」，「そう思う」，「どちらとも言えない」，「そう思わない」，「全くそう思わない」等の５段階を設定した場合は，順に 1～5 の番号を付して選択するものとした。設問の回答に関する分析では，「強くそう思う」と「そう思う」を併せて「肯定的な評価」とし，「そう思わない」と「全くそう思わない」を併せて「否定的な評価」とした。また，学生の回答理由の記述は，明らかな誤字や個人名以外は，できるだけ原文のまま箇条書きで記し，各学生が選んだ選択肢番号を行頭に付し，学科別に掲載した。

本アンケートの設問の設定については，昨年度と同様大きな変更はせず，設問の趣旨が的確に受け取られるような範囲の変更にとどめている。これは，本報告書の内容は、教育改善や組織評価等に活用されると想定され，さまざまな取り組みの成果や問題点の把握を可能にする経時的データの役割をなすためである。但し，今年度は農学生命科学部が従来の 4 学科から 5 学科の体制に組織改編されたことから，学科ごとの前年度との比較は基本的には行っていない。

本アンケートの結果は教育改善に活用されるべきことから，昨年度と同様に教育改善委員会と各学科の学科長にも本報告(案)の一読を願い，それに対する見解，意見を提出してもらい，本報告の最後に掲載した。

今回の卒業・修了時学生によるアンケート結果にも，本学部・研究科の授業や教員の教育方法に対して厳しい意見や，教育体制に関する建設的な意見が数多く含まれている。関係各位および教育改善委員会におかれては，カリキュラムの教育内容や方法の改善のためにはもちろん，教育体制の充実を図るためにも，それらを大いに参考にされることを望む。

Ⅰ.学部卒業時学生対象　教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，４年間この学部で教育を受け，今まさに卒業しようとしている学生を対象に，学部教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：指導教員をとおして研究室所属の学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。回収は正面玄関に設置した回収箱で行った。

調査対象：平成 24 年 3 月学部卒業予定者 187 名

調査期間：平成 24 年 2 月 13 日～2 月 20 日

有効回答者数： 130 名　（回答率 70%）

調査項目：設問は以下のとおりである。（ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。）

設問 1．あなたの所属学科をお答えください。

[学部・学科の教育目標等の認識]

設問 2．本学部の教育理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 教育目標について　　(2) アドミッションポリシーについて

設問 4．

(1)あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが，学科のカリキュラム（21 世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。

(2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[学科の専門教育について]

設問 5．本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが，ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。

設問 6．シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 7.

(1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[教員の指導について]

設問 8.

(1) 所属する学科の教員の，講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問 15 で別に聞きます)。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったときは、学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが、あなたはそれをしましたか。した場合、その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

[学生の主体的学習について]

設問 10．講義や演習の受講に当たり，あなたは 1 日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

設問 11．大学教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 実験・実習についてはどうですか。

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。それぞれについて簡潔に記入して下さい。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12．本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，下記のような 10 のルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。(　) 内に番号を記入して下さい。 (1) 学業(　　) (2) 学生生活(　　) (3) 進路(　　)

設問 13．本学部図書室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

設問 14．本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

[卒業研究について]

設問 15.

(1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 16.

(1) あなたの卒業後の進路は次のどれですか。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

[本学部の教育のあり方について]

設問 17.

(1) あなたが本学部を卒業するに当たり，大学卒業者としての知識や学力を身に付けたと感じていますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 18.

(1) 本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

設問 19.

(1) 総合的に判断して，本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

２．調査結果

設問 1．あなたの所属学科をお答えください。

表１．各学科の卒業生と回答者数の推移

所属学科	H23 年度			H22 年度			H21 年度		
	卒業生数	回答者数	回答率（%）	卒業生数	回答者数	回答率（%）	卒業生数	回答者数	回答率（%）
生　　物	36	27	75						
分子生命	39	28	72						
生物資源	29	24	83						
園芸農学	38	19	50						
地域環境	31	23	74						
生物機能	3	1	33	39	35	90	39	38	97
応用生命	3	4	133	48	27	56	54	44	81
生物生産	2	1	50	52	36	69	62	55	89
地域環境	6	3	50	33	29	88	36	24	66
合　計	187	130	70	172	127	74	191	161	84

平成 23 年度の卒業予定学生 187 名のうち，回答者は 130 名，回答率は 70%で，平成 22 年度（旧学科体制）と比較して約 4 ポイント低くなった。学科別（新学科）では，生物資源学科が 83%と最も高かったのに対して，園芸農学科では 50%と最も低かった。

[学部・学科の教育目標等の認識について]

設問 2．本学部の教育理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

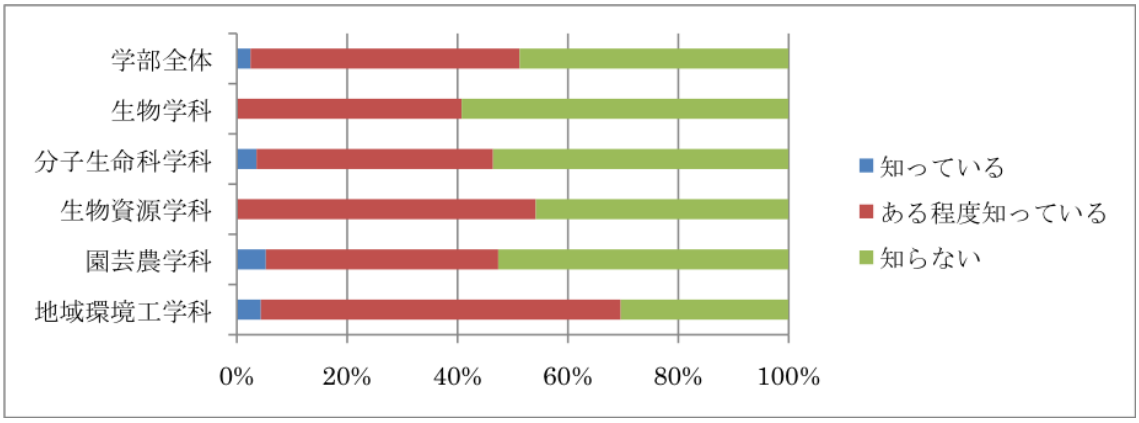

図 1．理念，教育目的および教育目標の認識

学部全体で見ると，「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 50%強で，昨年度（旧学科体制）と比べて 10%以上上昇した。この急激な上昇は，学部改組により教育理念，教育目的，教育目標が明確になったことによる面が大きいものと考えられる。また，ガイダンス等における入学時教育に力を入れてきた効果もあると考えられる。

設問 3. あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 教育目標について

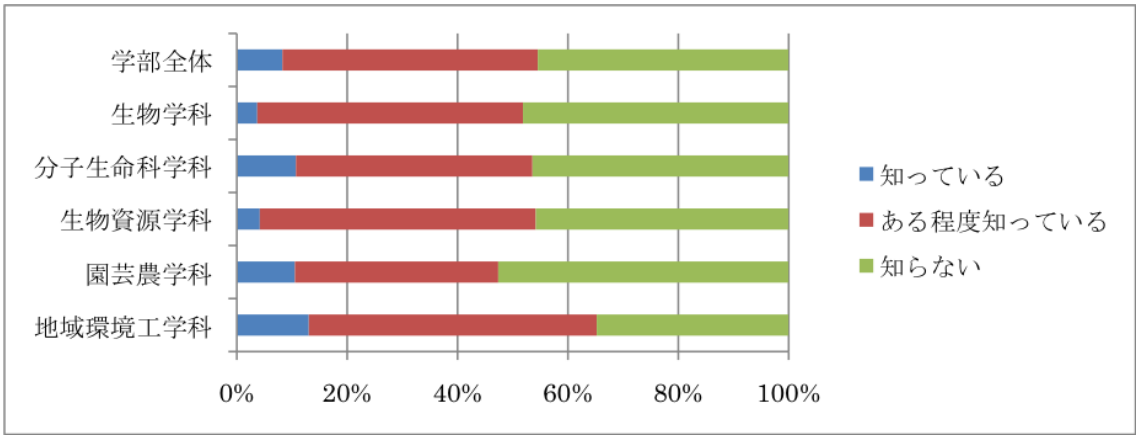

図 2. 学科の教育目標の認識

学部全体では，「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 50%強で，昨年度（旧学科体制）と比べて 15%以上上昇した。この急激な上昇は，学部改組により教育目標が明確になったことによる面が大きいものと考えられる。また，ガイダンス等における入学時教育に力を入れてきた効果もあると考えられる。

(2) アドミッションポリシーについて

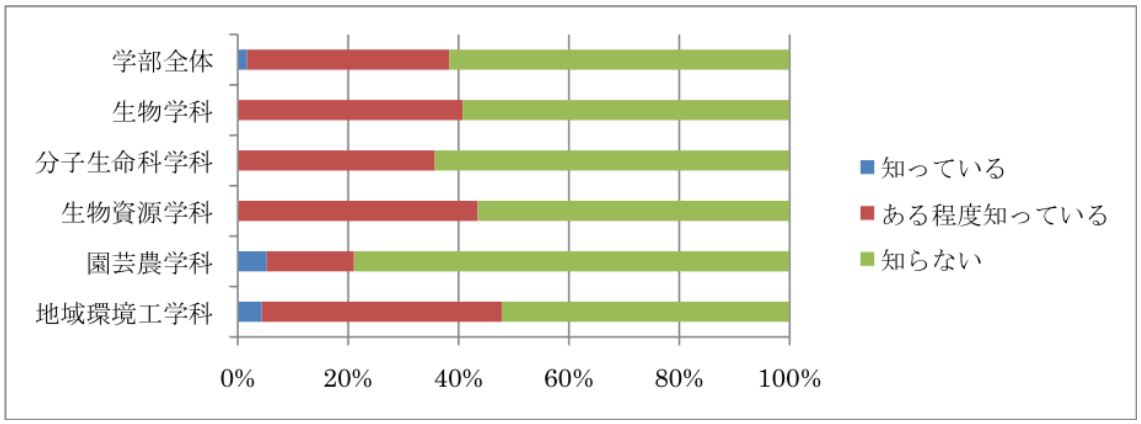

図 3. 学科の入学者受入れ方針の認識

学部全体では，「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 40%弱であり，昨年度（旧学科体制）と比べて 2 倍に上昇した。この急激な上昇は，学部改組によりアドミッションポリシーの内容が明確になったことに加えて，ガイダンス等における入学時教育に力を入れてきたことによるものと考えられる。学科（新）別では，園芸農学科が低かった。教育目標および入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）は最近の 3 年間とも地域環境工学科あるいは（旧）地域環境科学科が最も高かった。これは，JABEE に関連してガイダンス等で周知徹底が計られているために，その効果が表れていることを反映するものと推測される。

設問 4．(1) あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが，学科のカリキュラム（21世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。

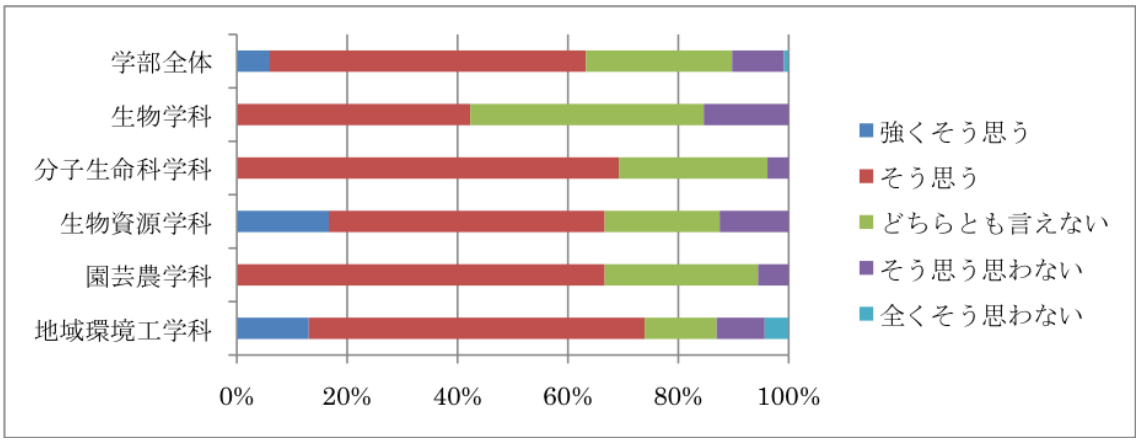

図 4．学科の教育目標とカリキュラムの合致

学部全体で見ると，肯定的な評価が 70%を超え，昨年度（旧学科体制）より 30%以上も増加した。改組に伴い，カリキュラムが良い方向（学生にとってわかりやすい方向）に改善されていることの表れと推測される。学科別では，生物学科において肯定的な意見が低かった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1．強くそう思う　2．そう思う　3．どちらとも言えない　4．そう思わない
5．全くそう思わない

［生物学科］

2　生物についての専門的な知識を学ぶことができると思ったため。
2　内容に不満がなかったため。
2　生物について，機能・生態の両方を学ぶ機会があったから。
2　生物を習う際にいづれも必要であると思われ，それ以前の基礎的な内容も学べるから。
2　野外で学ぶ機会を増えてきており，かつ実験等のデスクワークも充実しているから。
2　まんべんなく学べた。
2　目標に沿ったカリキュラムを受けることができたと思うので。
3　特にカリキュラムを意識したことがないため，自分のやりたいこと，進路は自分で決めます。そのために良い講義が受けられれば問題ないと考えています。
3　第 2 外国語は意味がなかった気がする。
3　幅広く様々な教科について学ぶことができた。
3　２１世紀科目の履修構成が複雑。もっと簡潔にするべき。
3　専門科目は合致していたが，２１世紀科目は合致していなかった。高校までの授業の延長線上で，大学らしさを感じず，つまらなかった。基礎知識を統一させたいのなら，シラバスに「この講義は（高校の）生物Ⅱの～分野に相当する」と分かりやすく書くか，基礎ゼミみたいに少人数体制にして高校までに学んでおいてほしい内容を復習するなど，工夫してほしかった。

3　生物というより植物にかたよったカリキュラムだと思う。
3　学科の教育目標を知らない。
3　どちらとも言えないため。
3　正直必要のない科目が多かった。
4　一見網羅しているように見えるが，森林・生態系の教員が多いため，そちらに偏りが生じているため。
4　英語の他にＯＣの単位があればいいと思った。
4　全体的に″人材育成”というワードが出てくるが, 教員によっては人材を潰していると感じる。

［分子生命科学科］
2　所属する先生方の専門分野をある程度網羅した内容を示す目標となっていると思うので，カリキュラムが目標にある程度合致するのは当然と考えます。
2　内容に沿っていると思う。
2　バイオテクノロジーの最先端を勉強できたから。
2　実際に４年間カリキュラムを経験し，目標の達成を実感しているから。
2　一応，教育目標に合った科目は一通り受講したと思うから。
2　必要な知識だと思うから。
2　実際にバイオマスに関する研究を行い，学ぶことが出来たため。
2　専門講義を通して，分子生物学，遺伝子，細胞学等の広い範囲で知識を得る機会があり，おおむね目標に合致していると思う。
2　幅広い分野を同時に学べるカリキュラムになっていると思う。
2　ある程度の知識は習得できたと感じるため。
2　生物系の２１世紀教育や専門教育科目は今の研究室で研究に取り組む上でとても役に立っている。
2　学科に所属して得た知識を自らの職業選択のさいにできるだけ活かしたいと思えたから。
2　生物学科や生物資源学科と区別しにくい・２１世紀科目でも専門的な内容は学べたから。
3　わからない。目標等はアンケートの最初に書くべき。
3　目標を知らない。
3　特になにも考えてないです。
3　編入してきたため，ほとんど２１世紀科目を受けてないから。
3　物理はいらない。
3　実際にその目的通りになってるかわからないから。
3　教育目標を知らないため。
4　専門教育科目を１年生の時期から多く行えるようにしてほしい。２１世紀教育科目をもう少し減らしてもよいと思う。

［生物資源学科］
1　添付資料とカリキュラムが一致していた。
1　目標を達成するのに必要な知識を学べるカリキュラムだと思ったため。
1　合致していると思います。

1　学科のカリキュラム通り学べれば，教育目標に記載されているようなことが学べる。
2　それにならったカリキュラムであったと思うから。
2　ゲノムから土壌までは幅広い授業を受けれたから。
2　必修科目を履修すると目標を達成できると思うから。
2　授業を受けてそう思う。
2　専門の授業を受けて，幅広く学んだから。
2　研究内容が教育目標に半じているから。
2　その学科に在席する上で，ある程度必要な知識であるから。
2　環境レベルのマクロな視点と，個体レベルのミクロな視点の両方を学ぶことができた。また，それらを農学に応用する考え方も学べたので。
3　専門教育は合致していると思うが，21 世紀教育科目は教育理念から外れるものも学習しているので，合致はしていない。実際のところ 21 世紀教育科目に必要性を感じない。専門教育を増やし，研究室配属を早くするべき。
3　植物に関する授業は多いが，食品関係の授業が極端に少ないので，バランスが悪いと思う。
3　専門教育科目は農生の先生方が授業して下さるので専門的な知識が身につくが（当たり前かもしれませんが）21 世紀では理系ではない人向けの理系授業もとらないといけなくて，無駄な授業をとっていると感じたことがあったので。
3　特に教育目標について考えることがなかったし，そういう人が多いと思うので。
4　21 世紀教育科目の受けられる科目をもう少し自由にした方がいいと思うから。
4　食品の取りあつかいにかかわる分野を担当できる幅広い知識と専門技術を身につけたと思われなかったから。

［園芸農学科］
2　幅広く学び，多面的・応用的な能力を身につけるような考え方をして下さったから。
2　21 世紀や専門で様々な教育を受けられたから。
2　園芸にかかわる科目を幅広く学べたと思うから。
2　多面的・実学的という部分は他学科と比べてもそのような傾向があると思うから。
2　栽培技術等の知識や経済等の知識両方が身に付いたのである程度は合致していると思うので。
2　比較的広く色々な分野について学べたから。
2　実験や実習の時間がしっかりととられているから。
2　自然科学分野が多いこと（21 世紀教育）専門教育ではコースに関係なく，学科全体の授業を選択できるため。
2　生産から経営経済流通まで幅広く学ぶ応用的な能力を身につけるといった点で多くの科目を学習する。実習や実験など実践的な科目を学べるので目標に合致していると思います。
2　自分の専門としたいものだけでなく，他の分野の講義も受けなければならなくて面倒だと思ったが，多面的な視野を養うには重要だと思った。
3　園芸農学科の評価がわからないから。
3　学科によって異なると思うから。
3　外部の人の（現場で働いている人）の話をもっとたくさん聞く機会がほしい。
3　確かに幅広い分野について学べるように「選択科目」として多くの科目があって，そこは合

致してりうと思う。でも選択だから自分の意思で学ぶ分野と学ばない分野に傾りがでてしまうのでは？私も実際好きな興味のある分野しか選択しなかったので。
4　カリキュラムに各教員の指導意識が合致していないものがある。

［地域環境工学科］
1　地域環境工学科は特に JABEE のカリキュラムの下で計画された学科を取得しているので。
1　JABEE 修了者を目指すため，他の学科より強くこの目標を目指していると思う。
1　全ての科目がつながっており，欠いてしまうと充分な理解を得ることができないと思われるから。
2　目標に沿った内容の講義だった。
2　専門科目で農業土木系が多いから。
2　JABEE 修得のため細かく時間割が決められているから。
2　実際に勉強してみてそう感じた。
2　現場実習が多くなされるため知識を身につけやすいため。
2　幅広い分野の勉強ができたと思う。
2　専門分野の教育を中心としたカリキュラムとなっていて社会に出たときに活用できると思うため。
2　卒論研究に役たったから。
2　大体合っている。
2　専門科目が多いため，多くの知識を習得できる。
2　土木系統や水理系統など広い分野の知識を得ることが出来たと思うから。
3　就職活動をしていて，地域環境工学科は専門的な技術が（知識）が他の専門学校などと比較して，深く学べたと思えないのでもう少し就職に役立つものを学ばせて欲しいと思った。
3　よくわかりません。
3　具体的な現場のイメージがない。
4　授業内容がマッチしている。
4　農業土木技術者としての基礎は学べたと思いますが，両方のコースがそうとは感じません。
5　物理系の授業が多すぎな気がしたため。

設問 5. 本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが，ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。

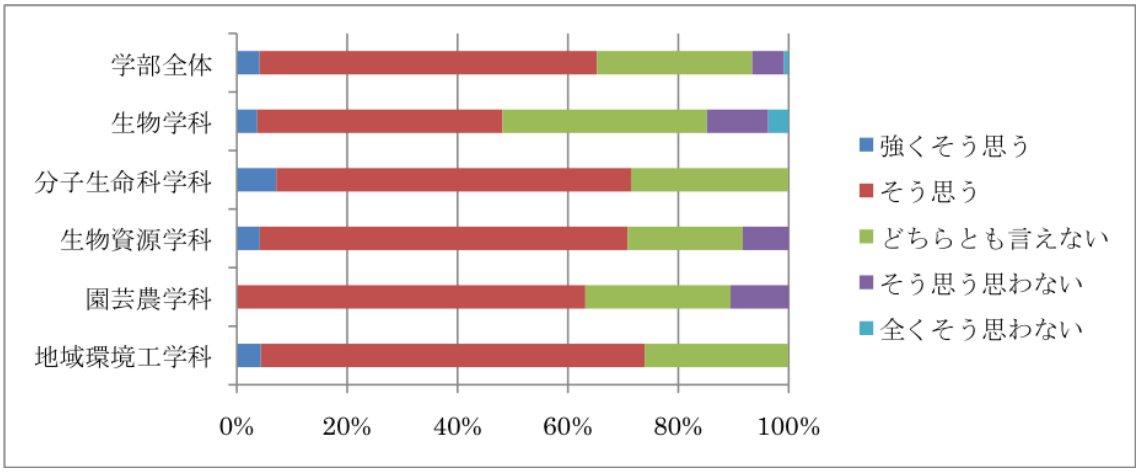

図 5. ガイダンス内容が適切だったか

学部全体として，肯定的な意見の割合は昨年度（旧学科体制）と比べて若干増加した。

設問 6. シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

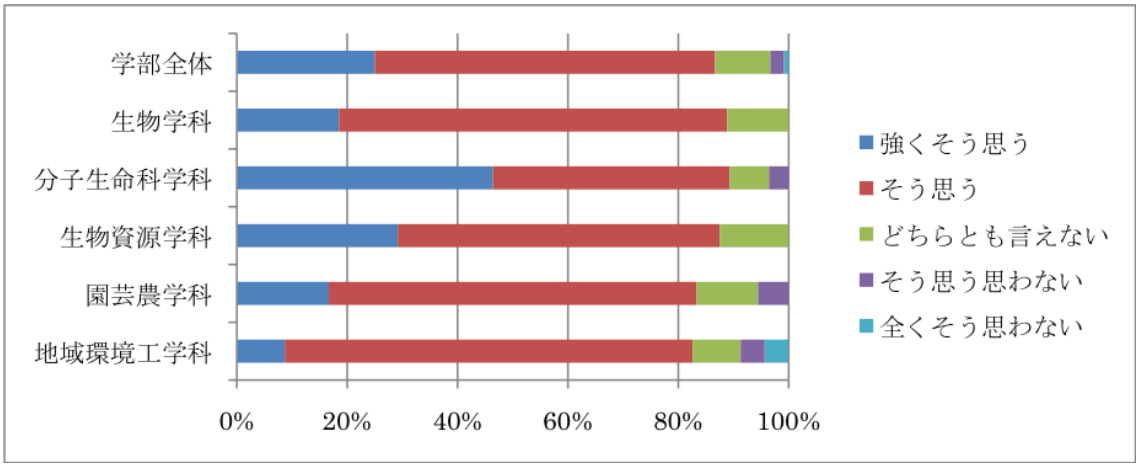

図 6. シラバスは役立ったか

学部全体として肯定的な意見が大多数を占めるが，この傾向は昨年度と比べて更に強まった。

設問 7. (1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。

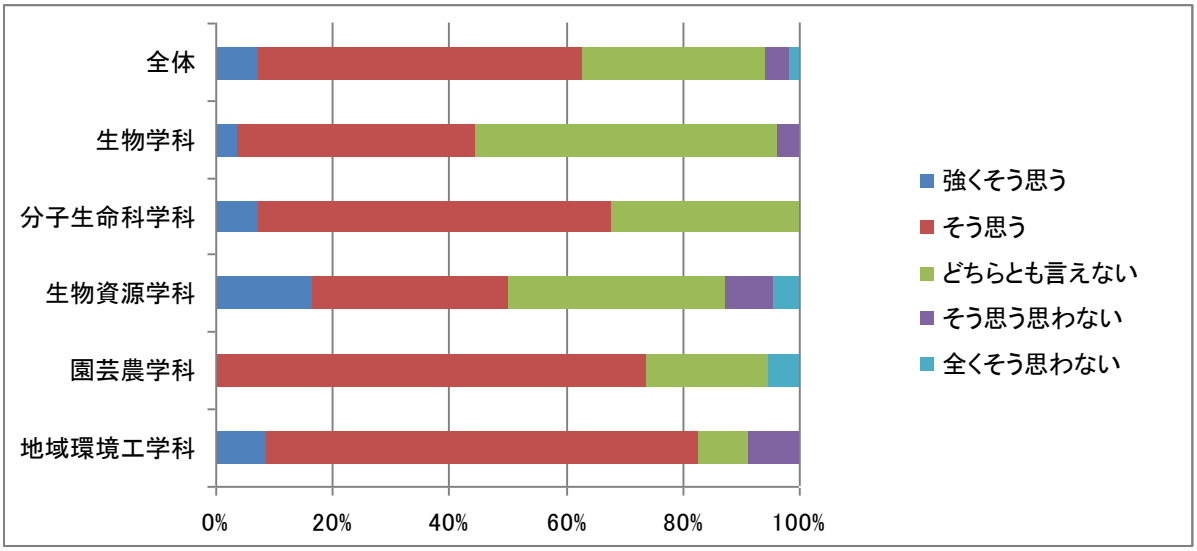

図 7. 専門教育に満足したか

学部全体では, 肯定的な意見が 63%であり昨年度の 54%よりも上昇した。また否定的意見が昨年度は 13%あったが, 今年度は 6%と一桁台にまで低下した。このことから専門科目に満足を感じる学生が増えていることがうかがわれた。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない
5. 全くそう思わない

概ね好意的な回答が多かったが, 「どちらとも言えない」の選択者で時間割の問題や, 専門科目の選択方法などに対する不満など, カリキュラム上の意見があった。今後改善してゆく余地があると考えられる。

[生物学科]

1 知識を身につけることができた。高校の生物の授業より実践的な内容でおもしろかった。
2 多種多様な専門知識を得ることができた。
2 自分の興味のあることについて広く学ぶことができたため
2 生物学としては, 満足しているが, 農学生命科学部なので, 農畜産業や環境などの講義を受けてみたかった。
2 自分のやりたい事をでき, 更に深い所まで知ることができたから。
2 専門知識を得ることができる
2 満足しているため
2 知識が深まった
3 評価が一過性のものが多い, もっと総合的な評価を行ってほしいと思いました。

3 野外での実習が少ないと思う。
3 生態系がよくわからなかった。
3 哺乳類に関する学問などをもっと学びたかった。
3 基礎生物と生態を一緒にするのは厳しいと思った。
3 希望する専門コースに行けなかったから
3 興味ある内容でも，教え方が悪いと思います
3 卒業研究のテーマやゼミといった偏った分野は記憶に残り，活かされているが，その他のジャンルの専門教育についてはほとんど覚えていないため。
3 特に無し
3 研究に役立った部分もあったが，不必要な部分もあった。
3 実際に使うかわからない授業もあったため。
3 満足している講義もあったが，教員の自己満足としか思えない講義がいくつかあった。
4 より，専門の内容に特化した授業を多く受講したかった。

［分子生命科学科］
1 広く，先端の勉強ができたから
1 いろいろなジャンルのことを学べたため
2 比較的幅のある講義を受けることができ，興味ももてた。
2 どの講義も興味深いものばかりで，満足していました。ただ，理解しにくい講義がいくつかあったのも事実です。
2 必要な知識を得ることが出来たから。
2 先生の特長がよく出てました
2 興味をもてたことが多かったから
2 どれも楽しく，生活の中で役立つものもあったため
2 充実した学校生活であったと思う。学びたい科目を深く学ぶことができたから。
2 上に同じ（幅広い分野を同時に学べるカリキュラムになっていると思う）
2 より専門的なことを学べたことは研究に取り組む上でとても役に立った。しかし，その知識をアウトプットするやり方や取り組み方を教える授業や
2 生命の根本的な部分を深く学べただけでなく，浅いながらも生物に関しての広い領域をカバーできたから
2 そう思ったから
2 生物の仕組みを理解するのに適していたので
3 身についていないと思う科目があるから
3 教員によって満足度のバラツキがあった
3 教科に満足しているが，もう少し早い時期に多くの専門科目を受講したかったです。
3 良い点も悪い点もあると思うから
3 専門科目で時間割が重なりうけられないものがあった為
3 満足できるもの，できないもの色々あるため一概には言えない
3 科目によって難易度が違いすぎでいる

［生物資源学科］
1 大学入学前に学びたいと思っていたことが学べたため。
1 どれもおもしろかったです。
1 農学全体を広く把握できる。
2 教育理念に合致しているため。
2 幅広く学べたから。
2 専攻した分野の授業は受けられたから。
2 全体的に良かったと思うが，英語を使う授業をもっと多くしてほしいと思ったので。
2 とても内容的に深いところまで学んだと思うので。
2 選んだコース以外でも，実用的な内容だった。
2 講義を受けるとともに，どの先生がどういうことをしているかもわかるので。
3 専門内容が幅広いため自分の興味のない分野も選択しなければいけなかった。興味のある分野においては満足している。
3 授業はどれも楽しく専門的な内容から分野の壁をこえて様々な知識を得ることができた。しかし，実験などをもう少し早い時期からやりたかった。
3 学科の中の専門科目の分野がバラバラすぎて，そのバラバラの分野を一つの学科にしても，あまり意味がないと思いました。
3 受講すべき授業の種類が多い。選択必修をすればよいと思う。
3 幅が広すぎる。
3 学科で受けた専門教育には満足していますが，受けたい供花が必須科目とかぶっていて受けれなかったり，4 年次にならなければ受けることができない教科がある所が不満でした。
3 一般論の話だけでなく，教員の自論も知りたかった。
4 食品関係の授業が少ない。
4 もう少し食品系の科目を充実させてほしいです。

［園芸農学科］
2 ゼミがよかった
2 知識が増えたから
2 ある程度勉強したいことができたから
2 全ての科目に興味が持てたわけではないが，学習していておもしろい科目もたくさんあったから
2 多面的に農学を学ぶことができたから
2 農学についての知識を一通り学べたため
2 公務員試験等の役にも立ったため
2 学科に関係する授業を幅広く学ぶことが可能だったため
2 設問 4 にあるように興味のある分野に絞って学べた
2 不足しているとは思わなかった
3 1～2 年生の時に受けられる経済の講義が少ない気がしたから
3 最後のテスト等のために勉強することが多かったので，もっと学問的な面白さを知れる教育に

してほしいと思うので
3 もっと幅広く自由に専門科目を選択したかったから
3 専門科目の内容に特に不満はありませんでした　しかしコース所属後の開講科目もあり，2 年次のコース所属時までに各研究分野の専門基礎の部分が一通り学習できるよう，カリキュラムを工夫していただければコース所属の際に偏らない選択ができると思います
5　食農経済と園芸の科目の数には大きなかたよりがある

［地域環境工学科］
1 入学当時より農業土木を学ぶことを目的として入学したため十分満足している
1 先生方が熱心に教育して下さり大変満足している
2 やりがいがあった
2 農業土木の勉強がしたかったから
2 講義ごとにレポートや小テストがあって知識を得られた　また現地見学も多く，座学だけではなかったため
2 就職に役だったから
2 好きに選び専門性の高く経験も交えた話を聞けたから
2 今後将来で役に立つことだと思うから
2 やり切った感があるから
2 理解が難しいものもあったがなんとか頑張ってこれた
2 現場見学もでき，座学との併用がされているため
2 卒論研究に役だったから
2 満足した講義が多い
2 就職の専門試験に役立ちました
2 物理等高校時代に習得していなくても分かるように内容を説明して下さったから
2 公務員試験にも通じたから
3 良いのも悪いのもあった
3 概ね満足しているのだが，難しすぎるものに関してはもう少しくわしい内容を受けたかった
4 設問 4（2）と同じ（就職活動をしていて，地域環境工学科は専門的な技術が（知識）が他の専門学校などと比較して，深く学べたと思えないのでもう少し就職に役立つものを学ばせて欲しいと思った）
4 もう少し環境系の授業が欲しかった

設問 8. (1) 所属する学科の教員の，講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問 15 で別に聞きます）。

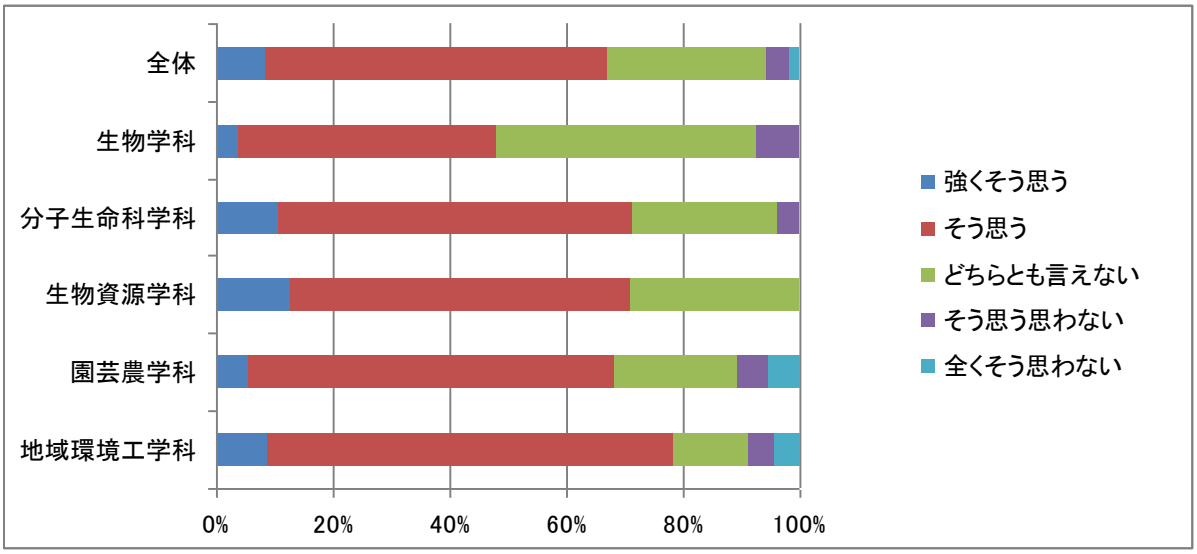

図 8. 教員の指導や対応に満足か

学部全体では，肯定的な評価が昨年度の 57%から 67%へと上昇した。また，否定的な評価（「そう思わない」「全くそう思わない」）は昨年度の 10%から 6%へと改善していた。このことから教員の指導や対応に満足した学生が増加したことが考えられる。一方，学科別に見ると生物学科の「どちらとも言えない」の選択者が 44%の他学科に比べると高い値であった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

概ね教員の対応を評価する意見が多かった。一方否定的な評価をした学生の回答としては，一部の講義などでの対応や講義に対する不満が原因となったようである。

[生物学科]
2 丁寧な指導をしていただいたので
2 教員の指導は熱心で，興味深い話題が多かった
2 親身になってくれた
2 実際に対応していただき，助かったことがあるので。
2 一部の先生方に指導をして頂き，良い進路を選ぶことができたから。
3 全員が同じ対応をするわけではない
3 板書が見えにくかったり，分かりずらかった時があった。
3 教員が学生に介入する場面がほとんどないため。一方的な講義が多く，介入する場面と言えばレポートへのコメント位。
3 評価基準が人によって大きく異なっていた。

4 満足していないため

[分子生命科学科]
1 不満はありません
2 質問に対して丁寧に答えてくれる教員が多かったからです。
2 どの先生方も優しく，わからない所はきちんと教えてくれたため
2 どの講義についても満足した
2 わからないことを優しく教えてくれた
2 人それぞれでいいと思う
2 質問に伺ったとき，丁寧に教えてくれた
2 分からない分野は個別に聞きに行けば教えてくれる
2 実験演習はとても良かった
2 講義で不明だった点は，教員に聞きに行ったが，対応が丁寧だったので。
3 教員により良い場合もあれば，悪い場合もあるため
3 板書のまとめ方は個人でするものだとは思うが，書かれたり，説明される内容があちこちとびすぎると困る
3 スライドをただ読み上げるだけの講義は大学生のための講義としては不適切であると思われる。
4 わかりづらいから

[生物資源学科]
1 熱心な先生が多くてよかったです。
1 どの教員の方も親切丁寧に教えていただき満足でした。
1 満足しています。
2 全体的に講義はわかりやすかった。
2 必要な事は学習できたから。
2 必修であっても，赤点の人は容赦なくおとすのは今後も続けていいと思います。
2 分からないことは，それなりにきちんと教えてくれたから。
2 ほとんどの教員が優しくていねいな講義を行っていたと感じているので。
2 親身になってくれる。
2 わかりやすく指導してもらった。
2 教員側からの対応は十分されている。
2 年ごとにアンケートを取っているし，特に問題はないと思います。
2 ほとんどの教員は親切に指導して下さった。
2 みんないい先生ばかりだから。
3 学科の教員一人一人によりけりであるから。ただしシラバス通り進められない教員はいけないと思う。
3 パソコンを使った授業で操作方法は生徒がしっているせいですすんでいたのでついていけなかったことがあったから。
3 学生の質問に対して親身に教えてくれた先生もいれば，授業中の声が聞こえない先生もいたから。

3 授業は分かり易かったが，教科書や資料を使用してほしいと思う講義もあったから。

［園芸農学科］
2 学科の教員はよかった
2 丁寧に教えてくれたから
2 質問などに対していろいろ答えてくれるから
2 色々とていねいに指導してもらったから
2 丁寧だったと思う
2 何を学ぶべきかきちんと教えてくれた気がするから
2 どの先生も講義はしっかりとやってくださっていたから
2 不明な点への対応は良かったと思います
2 先生方の各研究の経験をもとに，実際に研究が社会でどのように利用されているのかといったことが学習出来たことや学生と積極的に接して指導して下さる先生方ばかりだったことが良かったです
2 実習の前に理論を教えるのは良いと思った
3 学生のことをあまり考えていない教員が多い気がするので
3 わかりやすく生徒が興味を持つように講義して下さる先生もいれば，ただ黒板に書くだけという講義もあったため
3 講義は教員によるが，直接の質問には快く対応してくれた。実習・演習は講義とは違い，初めてのことが多いため，もう少し細かい指導が必要ではないかと感じている
5 わかりにくい　自分の研究内容を自慢しておわる先生がいる　生徒の話をきかない

［地域環境工学科］
1 大変難しかったが丁寧に指導していただいた
1 生徒と話し合う時間や指導の時間を設けてくれていました。
2 みんな熱心だったため
2 わからない部分があっても丁寧な指導を受けられたと思う
2 スライドを何度も見せて学生が理解しやすいようにしてくれるため
2 ほとんどの教員が熱心な指導をして下さったため
2 質問にしっかり答えてくれるので
2 質問に答えてもらえた。
2 質問に対し丁寧に説明して下さいました
2 細かい所までみてくれたから
5 自己満足の授業をする先生が多いため，意味がわからない授業だらけだったため

設問 9. 履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

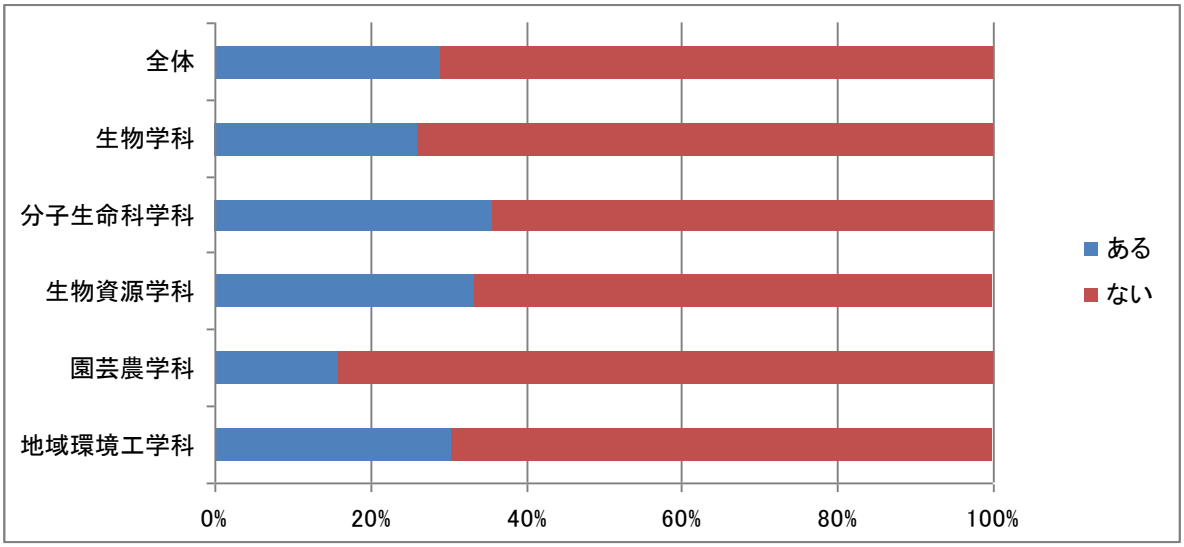

図 9(1). 成績評価への疑問や異議

学部全体で成績評価に疑問があったと回答した学生の割合は29%であり,昨年度と同じ値であった。

(2) 疑問や異議があったときは,学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが,あなたはそれをしましたか。した場合,その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

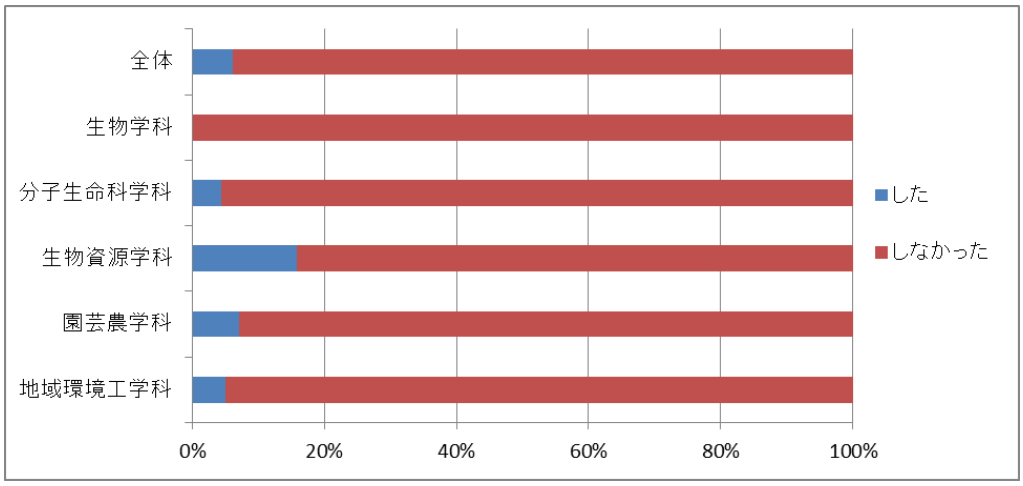

図 9(2). 成績評価の問い合わせをしたか

学部全体では成績評価について 94%の学生が学部教務に問い合わせの提出をしていなかったことが明らかとなった。自由記述の回答では新学科体制の混乱か,一部対応がスムーズにいかなかった事例があったようである。しかし,最終的には解決ができたようであった。

[生物学科]
ない

[分子生命科学科]
ない とくになし
ある 回答には納得したが，対応が遅すぎる

[生物資源学科]
ある 成績のことは大事なことだから特に間違えないでほしい。

[園芸農学科]
ない その制度をしらなかった
ない 疑問があり，教務に説明しに行ったが，担当者も良く理解できていないようで（学科編成が行われたためだと思われます）その場で解決しなかったが，その後問題は解決されていた

[地域環境工学科]
ない とくになし
ある 対応は少しいいかげんだったが，現在の単位で卒業に問題ないかは把握することができた

設問 10. 講義や演習の受講に当たり，あなたは 1 日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

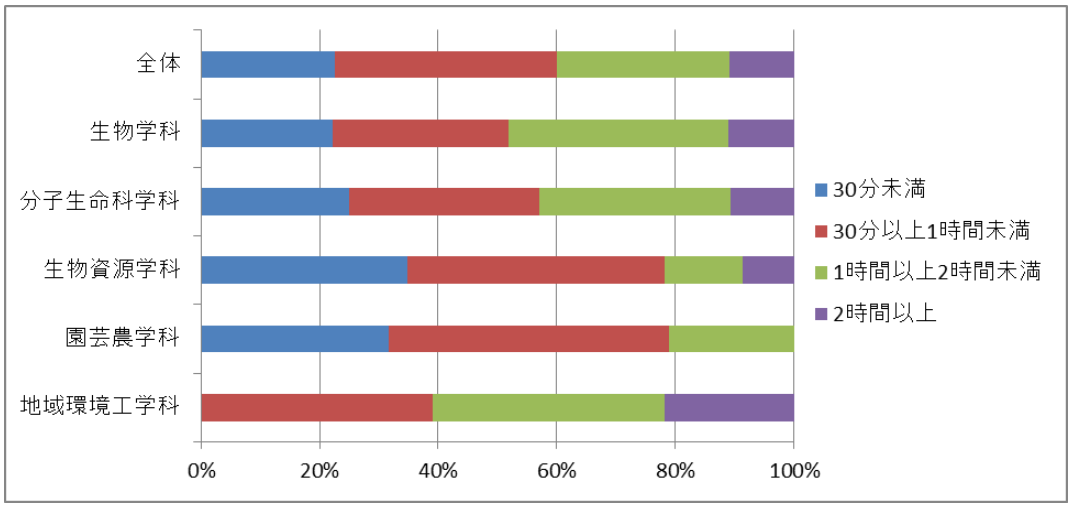

図 10. 1 日当たりの予習・復習時間

学部全体で 1 日の学習時間が「1 時間未満」と回答する割合はここ数年増加していたが(H19 年度 55%, H20 年度 60%, H21 年度 65%, H22 年度 67%)，今年度は 60%と 4 年ぶりに改善した。特に「30 分未満」の回答者が昨年度の 31%から 23%へと減少した。また「2 時間以上」の回答者が昨年度の 6%から 11%へと上昇していた。全体としては予習・復習時間についての改善傾向が見られたが，まだまだ半数以上の学生は，1 時間未満の学習時間である。今後更なる学習意欲の向上につながる対策を進める必要があるだろう。

設問 11. 大学教育では, 学生自身の主体的, 意欲的な学習が要求されます。
(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

昨年度の回答では, 講義に欠席しないことが主体的で意欲的な学習であるという認識している回答が多く見受けられたが, 今年はその傾向が更に高くなった。「板書を正確に写すこと」,「レポートをきちんと出すこと」,「試験をきちんと受けること」など, 主体的な学習の認識としてかけ離れた回答も多い。これまでの小中高校の教育において, 講義を受けることが学習であるという認識で学んできていると考えられる。講義から得た知識やから更に自ら学ぶという考えを広める必要があるのではないか。

[生物学科]
・できるかぎり全ての講義に参加し，理解できるように努めた
・積極的に取りくんだ。
・将来に役立たせようという姿勢
・とりあえず，板書はきれいに自分なりに分かりやすくうつしました。
・毎回参加，出席はするようにしていたものの，講義における興味の有無で授業態度が大きく変わったと思う。
・できる限り欠席はしないようにした
・単位が取れれば良し
・毎回出席し，講義を聞いていた
・誠実に
・興味のもてる講義は集中したが興味のない講義は集中できなかった。
・点をとれるよう勉強した
・最低，卒業が出来るとうにしました。中でも興味がわいたものはよく聞き，勉強しました。
・今後のために学ぼうと思い，取りくんだ

[分子生命科学科]
・知識を増やそうとしていた
・真面目に取り組んだ
・欠席だけはしないように講義に取り組みました。
・少しでも理解できるよう，ノートをしっかりまとめ話をきちんと聞くことを心がけた
・主に復習を中心に講義中の内容をしっかりと学んだ
・単位を落とさないように！
・パワーポイント形式の授業以外は休み時間に予習していた
・なるべく前の方にすわり，より理解できるようとりくんだ
・講義中にできるだけ理解できるように学習した
・１番に単位を取ること，いけそうなら高評価を狙う
・意欲的に取り組んだ。苦手なところは特に。
・講義では，黒板に記載されなかった口頭での説明も記録するよう心がけたほか，よく教科書を読み，疑問のないようにした。

・板書はてきとうでも写してあとで見やすくまとめる
・興味ある内容では，集中して取り組んだ

［生物資源学科］
・意欲的に取り組んだ。
・できるだけ多くいろんな講義をうけるようにした。
・黒板の板書以外に先生が口頭でしゃべった内容もメモしテストにそなえた。
・予習はできない授業がほとんどだったので授業をうけてから復習した。
・授業にでてる間は必ず集中して取組むようにしましたが，聞く必要がないと思った授業は出ていませんでした。
・できるだけ復習しやすいように，講義で大事そうなところをメモしたり，わからない部分は積極的に質問した。
・できるだけ前で先生方の話を聞くようにしました。
・講義の選択はもちろん自主的だったが，講義そのものは受け身の姿勢だった。
・特に予習をすることは少なかったが，試験の前などに集中して復習に取り組んだ。
・特に何もしていない。
・出席は必ずするようにした。
・4 年時では，前向きにその分野の課題が何か等を把握するようになった。
・興味ある授業は積極的に受け，後で見返せるようノートを取りました。
・受け身
・そこまで積極的にきちんと講義をうけようというかんじではなかった。

［園芸農学科］
・極力遅刻・欠席がないよう注意していたが，達成できない事も多々あった
・農学に対する知識を深めていこうという姿勢
・専門分野については，まじめに取り組んだ
・教員が面白さを伝えるような講義が少なかったので，低い意識で臨むことが多かった
・とくに意識はした
・先生の話を出来るだけ理解しながらきいた
・なるべく前の席で集中して受けるように取りくんだ
・予習等はあまり行わなかったが講義は楽しんで聴くようにしていた
・試験・レポート・課題等の提出物は最低でも出すようにした
・欠席をしないように心掛けた
・なるべく前方に座ることで，先生の話を聞き逃さないようにしていた　また，先生からの質問がある場合も，前にいることで真剣に考えることができた
・若干受け身の講義になることもありましたが，主体的・意欲的に取り組みたとおもいます
・興味のあるものには意欲的に取り組んだ

［地域環境工学科］
・本気で

・わりとマジメに取り組んだ
・あまり意欲的でなかったかも
・必修科目が多かったため，必ずしも興味がある分野ばかりではなかったが，意欲的に取り組んでいた方だと思う
・頑張りました
・講義に遅刻しないよう，またなるべく前例で聞くよう心掛けた
・講義は基本前列に座り，疑問点はその日のうちに質問し，解決するようにした
・前向きな姿勢
・集中していた
・積極的に取り組んだ
・授業に集中する
・できるだけ講義内で理解できるように努めました。
・自分で選択にいるため，内容を理解できるよう集中して聞いていた
・卒業するため，とりあえず受けてた
・真面目に取り組んだ

(2) 実験・実習についてはどうですか。

実験・実習については，「積極的に取り組んだ」と捉えられる回答が多い傾向であった。

［生物学科］
・失敗しないように注意するのが精いっぱいだった。
・ゼミを選ぶ参考になった。
・上記に同じ(授業の内容を事前に調べておく。)
・実験において，何を調べるために実験してるのか分からない時があった。
・積極的に作業には取り組んだが，計算や考察は他人任せな所もあった。集中力が続かず，結果が出ないこともあった。
・上記と同様（できる限り欠席はしないようにした）
・興味のあることに対しては意欲的に取り組めた。
・グループで協力し，実験・実習を行った。
・なるべく積極的に
・とくになし
・興味のあるものはおもしろかった
・比較的，実際に自分が体験したことで身に付きやすかったと思う。
・多様な作業・演習をやらせてもらえた。

［分子生命科学科］
・楽しんでいた
・作業に関しては積極的に取り組んだ
・同じ班員同士，不明（疑問）な点などを意見を交わしながら，実験を行った。また，他の人間に迷惑をかけないように心がけた。

・まじめに取り組むとともに，楽しく行えるように取り組んだ
・実験は様々な分野を学ぶことができ，毎日意欲的にとりくんだ
・単位を落とさないように！
・事前に軽く実験内容を調べた
・意欲的にとりくめた
・やっている内容が理解できるように学習した
・迅速かつ丁寧に
・学生実験では事前に各研究室の雰囲気なども知ることができた
・意欲的に取り組んだ
・とてもよかった。知的好奇心
・グループの人と協力して，互いに内容の理解に努めた。
・消極的ではあったが，やるべきことはやった。
・斑での作業となるため，よりスムーズに行えるように努めた

［生物資源学科］
・意欲的に取り組んだ。
・あらかじめ予習して流れを確認してから実験をうけた。
・実験内容が薄く，実験を行っている感じがしなかった。
・真面目に取り組んだ。
・基本原理など，わからないことはできるだけ実習中に解決し，レポート作成時も，自分で調べ物をしたりした。
・説明をしっかり聞き，自分が身に付けられるようにした。
・実験では専門知識だけではなく「チームワーク」の大切さを学びました。
・内容は満足しているが，1 年の頃から実験があってもよいのでは。
・実験の前に渡されたテキストを事前に読んで予習して実験に臨んだ。
・意欲を持って取り組んだ。
・実験が多くて，途中何をやってるかわからなくなる。
・（1）同様（4 年時では，前向きにその分野の課題が何か等を把握するようになった。）
・実験がうまくいくように手順に注意して行った。
・自ら進んで関連分野の文献を読んだ。
・楽しかったので，まじめに取り組んだ。ただ興味のないものに対しては，そこまで積極的ではなかった。

［園芸農学科］
・割と楽しんで学習できた
・だいがくでの生活では行ったことがないことだったので，集中して取組んでいこうと思った
・実験は内容が難しくあまり理解できなかった
・普段出来ないようなことを頭だけではなく身体等も使って学べたので
・人まかせにしていた部分があった
・実践的な授業のため，意欲的にとりくんだ

・実験・実習は同グループの仲間と協力し，積極的に参加する様にした
・必要と思えば事前に教科書等を読んで予習した
・実験・実習は講義より学べることが多いと思うので，自分から取り組むようにした
・積極的に行った
・積極的に動いた　実験では準備片付けから実験中においても中心となり，友人を助けながら取り組んだ。実習では，経験できることは全てしようと自らやることを見つけたりしながらとにかく人より動いてた
・主体的に取り組めば取組むほど得られる物が大きいとかんじました　おおむね取り組めたと思います
・意欲的に取り組んだ

［地域環境工学科］
・何かを得ようと取りくんだ
・楽しめた
・がんばったと思う
・時には説明が理解できず苦戦したこともあったが，考える力はついたと思う
・班の人と協力し頑張りました
・実験や実習は学習に大変役立つものだった
・要項を読み，自分なりに理解したうえで実験・実習にのぞんだ
・積極的に取り組みました。
・集中していた
・積極的に取り組んだ
・自ら進んで参加した。
・レポートで悩まないために，進んで積極的に取り組みました。
・時々言われたことだけをやるのが多かった
・実験・実習は非常に興味深く，真面目に受けていた
・積極的にいろんな経験をしようとした

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

実習系の科目の印象が良い結果であった。特に園芸農学科は農場実習の回答者が非常に多く，満足度の高い科目であったことがうかがえる。

［生物学科］
・スポーツＢ。まさか丁度体力測定される年になるとは思わなかったから。
・白神学
・国際農業論：もともと地理が好きで，世界の農業事情を知れておもしろかったし，説明が分かりやすかった。
・総合演習，発達心理学。教採を受験する人同士のつながりができた。討論・発表を通し考えも

多様化し，度胸もついた。
・野外実習：フィールドを使った初めての実験だった。
・哲学の基礎
・森林生態学。研究に直結する内容だったから。
・森林生態学，授業内容がわかりやすく，べんきょうになった
・生態野外実習（２年・前）：百聞は一見にしかずだったから。

［分子生命科学科］
・糖鎖工学
・人間の尊厳（Ｂ）この年では普段考えることの少ない人間の命について深く考え，命に対する考えをしっかり持つことができた
・生化学Ⅱ。先生が最高でした。
・実験！！実際に目で見て体を動かしてみることはとても理解を広げられたように思うから。
・ドイツ語Ⅰ・Ⅱ。英語以外で初めて学んだ外国語であったこと。いつかいってみたい国であったから。
・特になし
・学生実験。
・人畜共通感染症。唯一うけた医学分野の講義であり，とても為になった
・特になし
・概論Ⅱの白神山地へ行き散策など
・特になし
・人畜共通感染症：実際に観察できたので。中国語：おもしろかった
・有機化学：苦手分野だったので，それを克服できるように取り組んだ
・生化学Ⅱ：難しくも面白い内容であったので。
・特になし

［生物資源学科］
・エアロビの授業。楽しく汗をかけた。
・作物生理学　自分が興味ある分野だったから。
・生活習慣病と予防　白内症患者の治療法として，眼球中の白く濁ったレンズを超音波で破粋・かいしゅうし，新たに人工的に作ったレンズをいれている作業をビデオで見たから。
・最新医学の現状　医学部の先生のお話を聞ける貴重な機会だった。
・（21 世紀科目）「人畜共通感染症」授業の半分を前回提出した質問の回答をするのに費やして，残りの半分で授業をするのが印象的でした。医学部の先生でしたが，保持している動物（寄生虫）のホルマリン漬けをもってきたり，教室で魚を捌いて虫を観察したりしておもしろかった。（ユニークだとおもいました）
・植物育種学Ⅱ　成績評価のために，調べたことをまとめて，他の人の前で発表したから。
専門分野とは全く異なるのですが，「最新医学の現状」と「歴史学の基礎」はとてもおもしろかったです。
・農場実習は，普段体験できないことを体をつかって学べたので良かった。いっそのこと必修で

も良いと思う。
・食品安全学　特に分かりやすくて実生活でも役に立つ授業だと思います。
・実験
・昆虫・植物病理実験　カイコに触れるのは衝撃的だった。
・分子生物学Ⅰ　大学の授業の取り組み方等を考えるキッカケになった。
・フランス語　英語とは違う発音や独特のイントネーションが面白くてとても興味が持て楽しかった。
・昆虫生理学　一番勉強したから。
・学生実験　ほとんど初めての実験だったので楽しかった。

［園芸農学科］
・とくになし
・農場実習　実際の農家の方々のつらさを少しは理解出来た気がしたから
・農場実習　初めての体験が多くとても勉強になった
・農場実習　食農経済専門演習
・とくになし
・農場実習　実際に体を動かして農業の体験ができたため
・植物生理学Ⅰ　個人的に興味があった　また先生の講義面白かった
・農場実習　疲れたり大変なことも多かったが，おもしろいと思いえるものだった
・通年の農場実習　学生と農場の先生方や職員さんとの距離が近くて楽しかったです　積極的に動くことで先生方もそれに応えてくださって，人より多くの経験ができた
・園芸農学基礎実習専攻実習　実際に自ら農生物の生産に携わることができ，それによって生産することの大変さ生産者の重要性を感じることができたため
・農場実習　辛かったり楽しかったりとで印象に残っている

［地域環境工学科］
・人を育む営み　もともとそっち系の方が興味あったから
・農山村景観整備論
・文学の基礎：興味深い内容と講義形態だったため
・フランス語。フランスの文化等も学べた上に，フランス人の先生だったので発音等もきちんとしたフランス語も学べたので
・地域環境工学実習。実際に働くことで，専門分野に，より興味を持つことができました。
・国際社会を考える（土持ゲーリー法一担当）毎週図書室に行き調べるのだが，ぞう書が少なく大変だった。
・特になし

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，下記のような 10 のルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。(　) 内に番号を記入して下さい。

(1) 学業

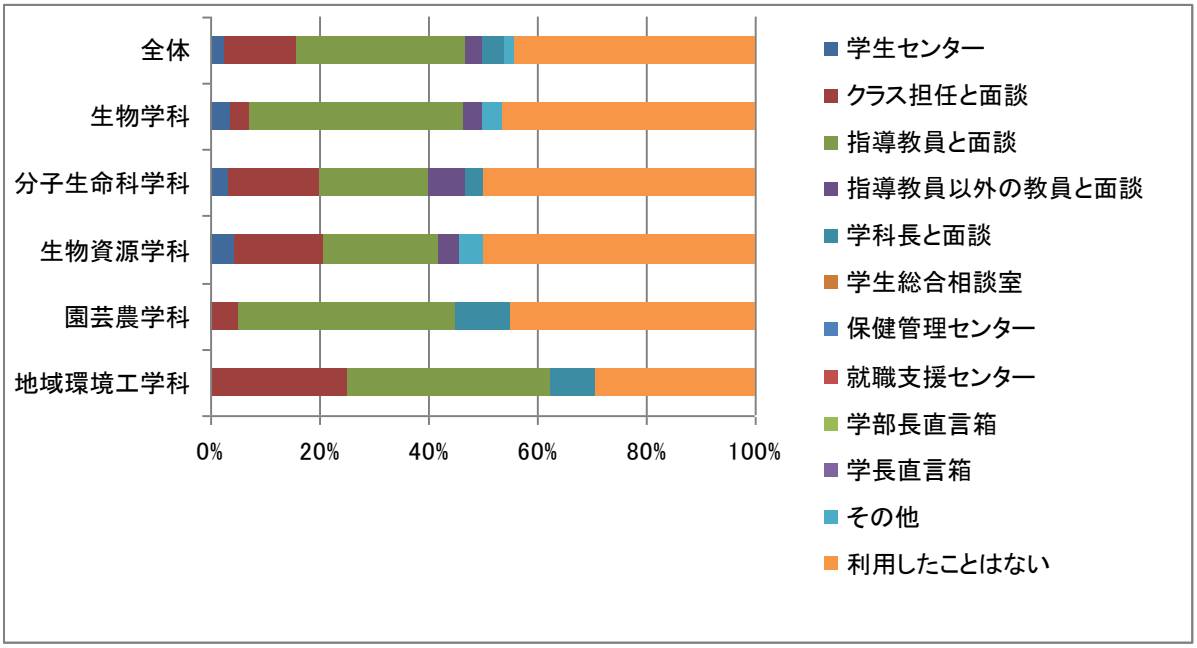

図 11(1)．学業に関する相談や苦情の窓口

学部全体では昨年度，一昨年度と同様にほぼ半数の学生が利用したことがないとの回答であった。最も相談対応として多かったのが「指導教員との面談」で 31%であった。これは昨年度と同じであり，学業に対する相談は卒業研究などのこともあり，指導教員が重要な役割を果たすことがわかった。地域環境工学科は他学科と異なり，71%がなんらかの相談ルートを利用しており，特色としては「クラス担任と面談」が 25%と高いことである。このように利用が多いということは，学生が気軽に相談や助言を求めやすい工夫をおこなってきた成果であると考えられる。

(2) 学生生活

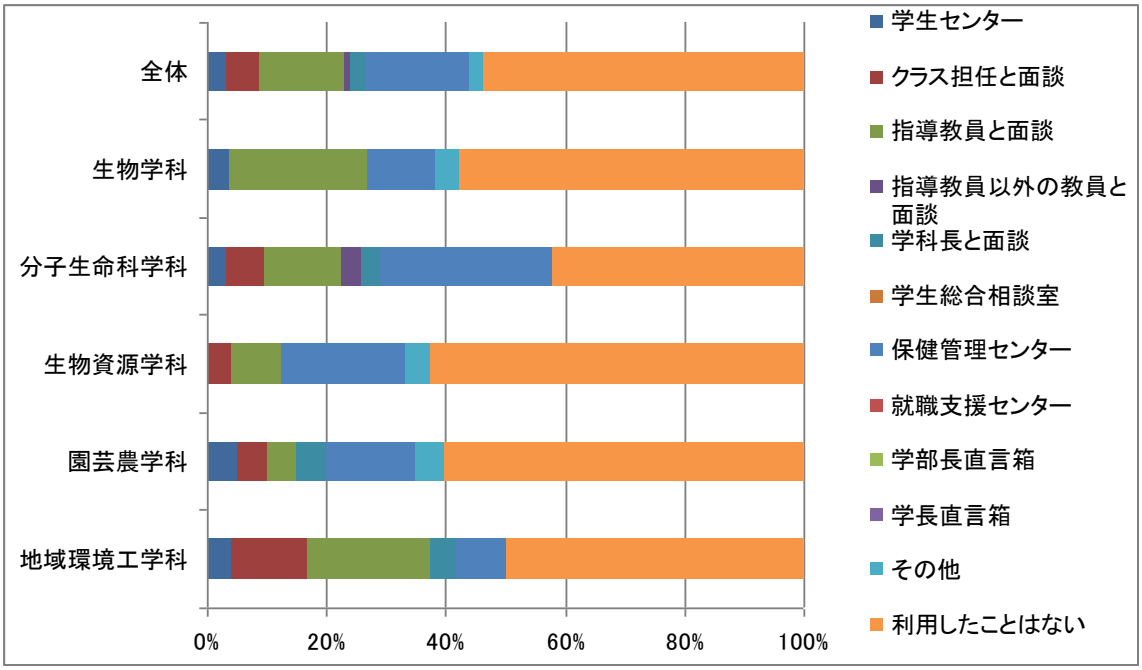

図 11(2). 学生生活に関する相談窓口

学部全体では「利用したことがない」の割合が 54%であり，昨年度(57%)と同程度であった。最も利用が多いのは「保健管理センター」で 18%あった。次いで「指導教員との面談」で 14%であった。

(3) 進路

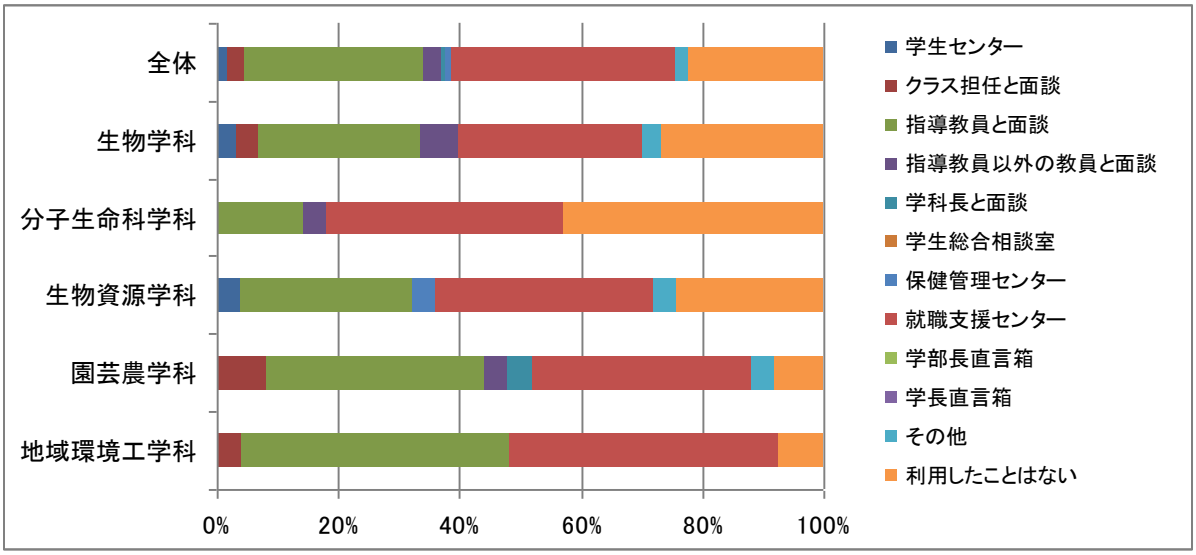

図 11(3). 進路に関する相談窓口

学部全体で進路についての相談を「利用したことがない」が昨年度は 35%であったが，今年度は 22%であった。不況であることもあり，就職に対する相談が増加したことが考えられる。最も回答が多いものは「就職支援センター」で 37%であり，昨年度の 28%よりも 10%以上上昇した。次いで

「指導教員と面談」で 30%（昨年度 25%）であった。就職支援センターは企業情報の提供の他，エントリーシートの添削，面接練習などもあることから，積極的な活用を呼びかけることが望ましいと感じる。

設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

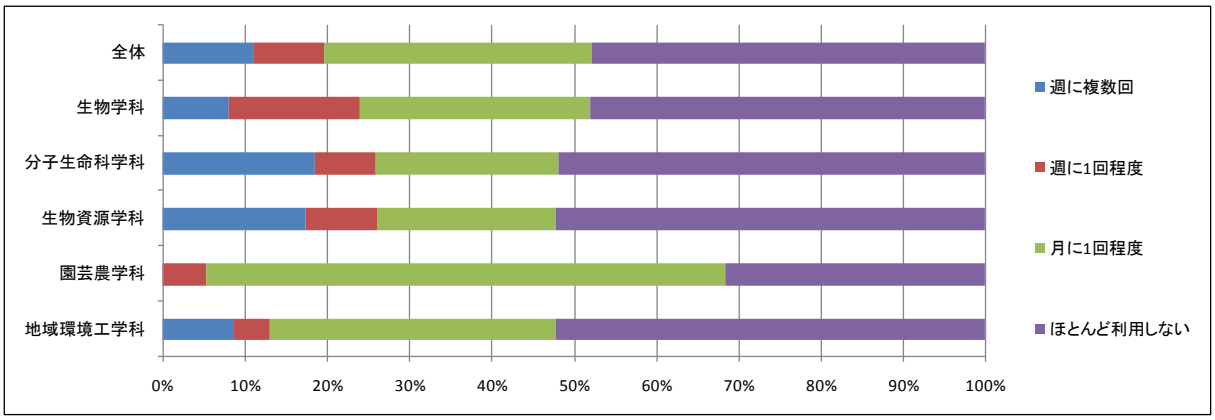

図 12(1)．図書館の利用頻度

図書館の利用頻度を学部全体で見ると，「ほとんど利用しない」との回答者が 48%であり，昨年度より 6%減少した。これに対して，「月に 1 回程度」の学生が 33%，「週に複数回」の学生が 11%といずれも昨年度より増加した。「ほとんど利用しない」学生は，地域環境工学科，生物資源学科および分子生命科学科がいずれも 50%以上で多く，園芸農学科は約 30%で最も少なかった。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

1. 所蔵図書（和書および洋書の単行本）

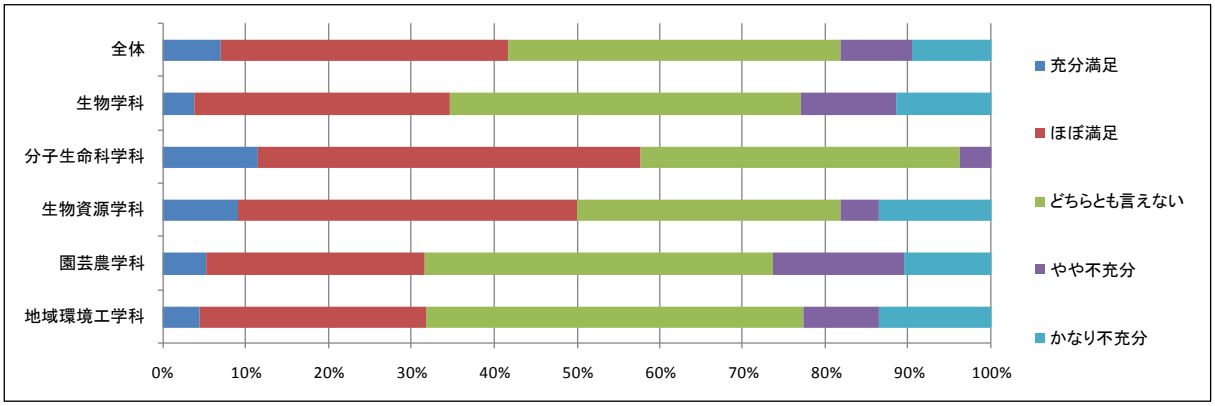

図 12(2)．所蔵図書

学部全体では，「充分満足」および「ほぼ満足」の合計が 42%となり，昨年度と比べて 13 ポイント増加した。「やや不十分」あるいは「かなり不十分」といった否定的評価は 18%であり昨年度と比べて 7%減少した。「どちらともいえない」という回答は減少したが，40%であり依然高く，図書館の利用頻度自体が低いためと考えられる。学科別に見てみると，園芸農学科の否定的な評価が 26%で最も高く，生物学科，地域環境工学科，生物資源学科，分子生命科学科の順であった。

2. 閲覧スペース

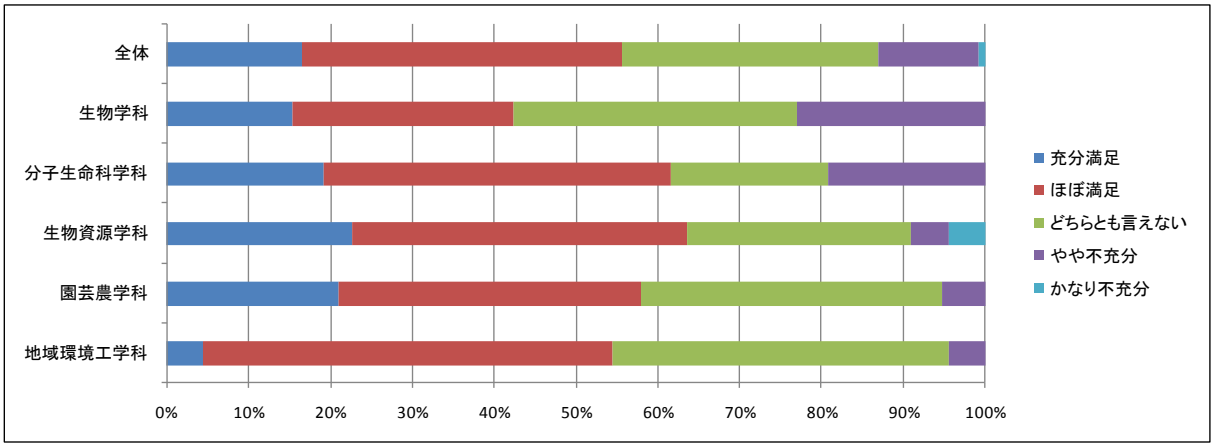

図 12(3)．閲覧スペース

学部全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の回答者が前年度に比べ 6%増加した，「やや不十分」と「かなり不十分」は 13%で，昨年度に比べてやや減少した。生物学科の否定的評価も最も多く，分子生命科学科，生物資源科学科，園芸農学科，地域環境工学科の順であった。

3. 開館時間

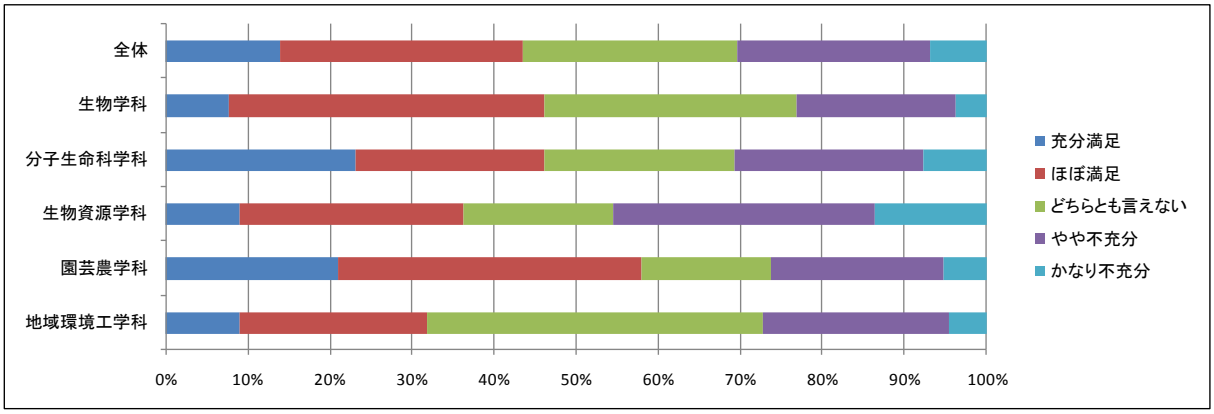

図 12(4)．開館時間

学部全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」を合計した肯定的な評価が 44%であるのに対し，「やや不十分」と「かなり不十分」は 31%で，昨年度より否定的評価が相対的に増えた。否定的評価に関しては，生物資源学科が最も高く，分子生命科学科，地域環境工学科，園芸農学科，生物学科の順であった。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

1. 講義室

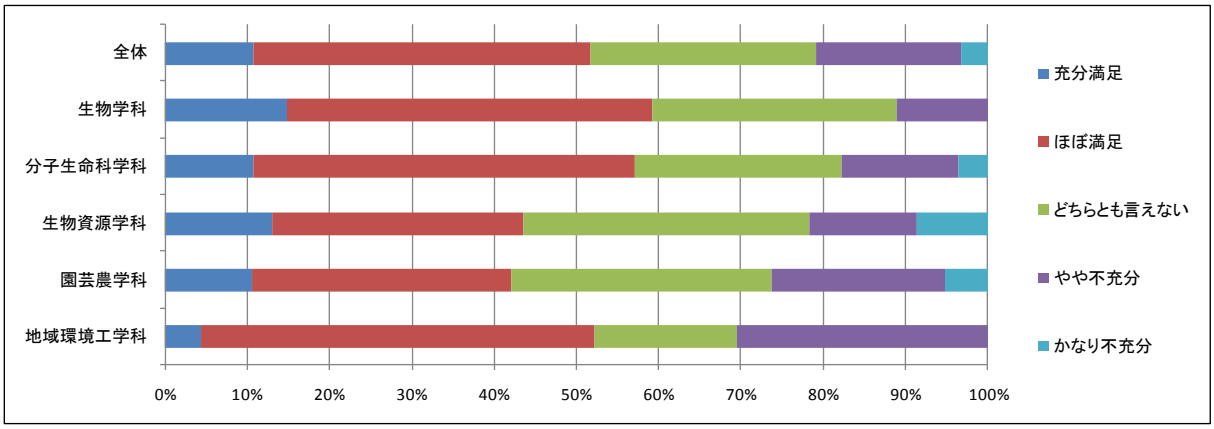

図 13(1)．講義室

学部全体では，肯定的な評価が昨年度は約 64%，今年度は約 52%であった。昨年度に比べると 12 ポイントの減少であった。否定的な評価 21%であり昨年度とほぼ同様であった。各学科とも例年と同様に講義室の冷暖房に関する不満が多かった。

2. 実験・実習室

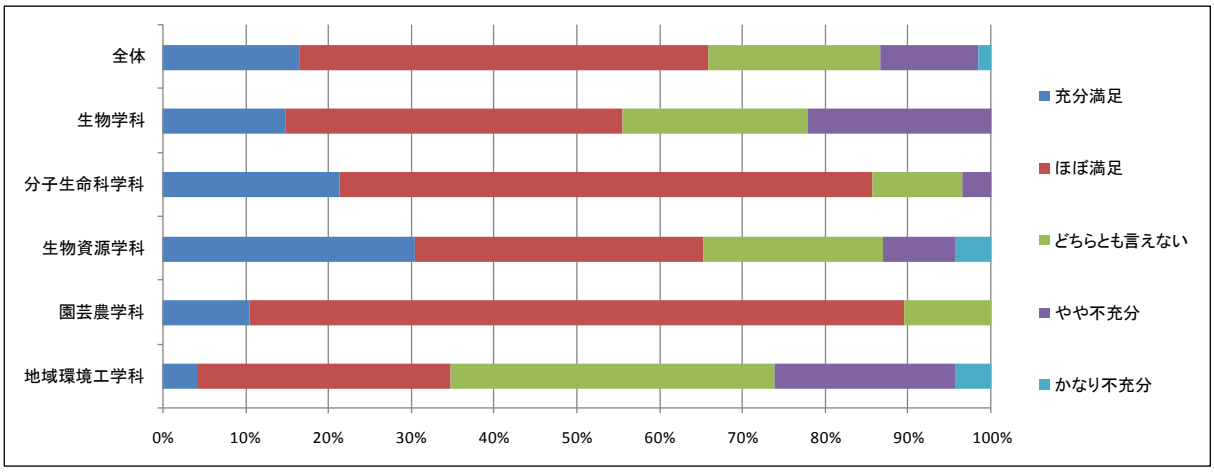

図 13(2)．実験室・実習室

学部全体では，肯定的な評価は 66%であり前年度より僅かに増加した。否定的な評価 13%でありは昨年度より僅かに減少している。否定的な評価は地域環境工学科が最も多く，分子生命科学科が最も少なかった。依然として設備不十分と暖房に関する不満が多かった。

3. 情報処理演習室

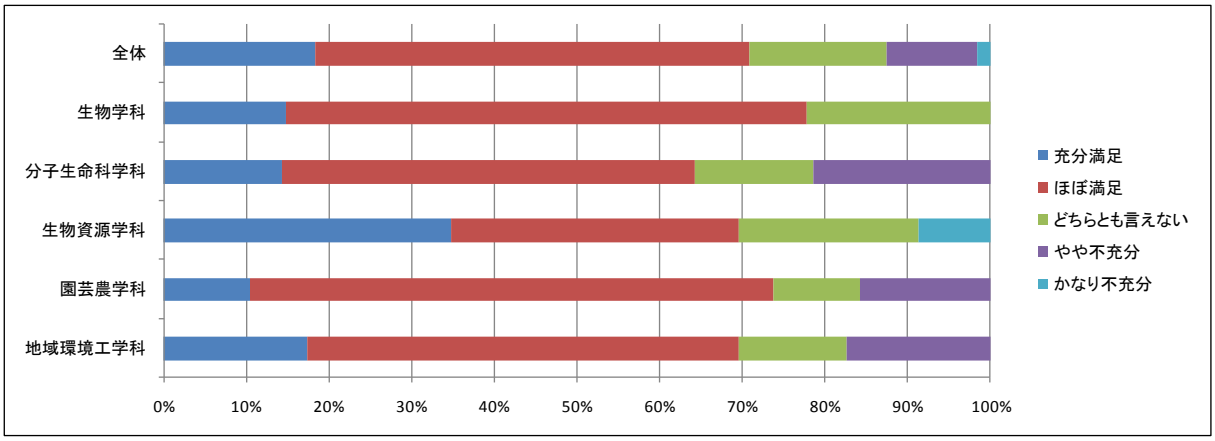

図 13(3)．情報処理演習室

学部全体では，肯定的な評価が 71%で過去 2 年間と大きな変化はなかった（21 年度 72%，22 年度 67%）。否定的な評価について分子生命科学科が最も多く，生物学科が最も少なかった。理由の記述では，印刷枚数の制限，パソコンの不具合および不清潔に関する不満が多かった。

4. 卒業研究を行った研究室

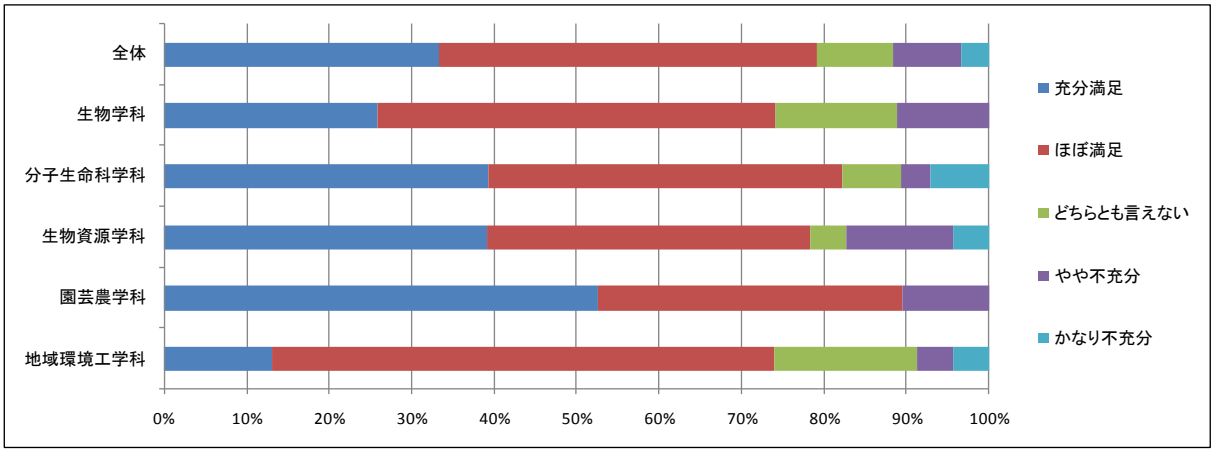

図 13(4)．卒業研究を行なった研究室

学部全体では，肯定的な評価は 79%で昨年度（65%）より大幅に増加した。園芸農学科が大幅に増加したことが影響している。否定的な評価は生物資源学科が最も高かったことに対し，他の 4 学科はほぼ同様であった。理由はスペース不足と冷暖房への不満が多かった。

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

今回の調査でも前回同様に講義室の冷暖房に関する記述が目立った。また，遺伝子実験施設と農生校舎間連絡通路の設置要望が複数あった。

[生物学科]

(講義室)

・夏の一定の時間だけでも冷房の設備がほしいと思った。

・他の国立大学クーラーがあるのに，弘大にはないのはなぜかわからない。

・空調がほしい

・冷房，暖房をもっと快適にしてほしい。

・冷房設備

(図書室・情報処理演習室)

・情報処理センターの windows7 は起動が遅すぎる。

・図書館の横の席の間隔をもう少し空けてほしい。情報室等のパソコンの席についても同様に思う。

(実験・実習室)

・研究室で，冬に土日に暖房がつかないのはキツイ。逆に，夏に冷房がないのもキツイ。

・実験室（農生・１Ｆ）のイスの間隔が狭すぎる。前の方にサンプル・器具を取りに行くとき移動しづらい上に試薬を扱う際危険。

・ちゃんと研究をしている所に，設備を与えてほしい。

(提案・その他)

・大体の場所が寒い，もしくは暑い。農生のトイレが冷たくてつらい。

・施設ではないが，掲示板に出ている情報を，デジタル（メールや WEB）でも確認できれば，時間や場所による制限がなくなり良いと思う。

・学内の PC が低スペックすぎる。

[分子生命科学科]

(講義室)

・１つの机にイスが複数の場合，退出する際に面倒くさい。

・夏の講義室はクーラーがないためとても蒸し暑かった

・夏になると講義中にハチが入ってきて，授業に集中できない時がたびたびあったので，アミドを付けてほしい。

・講義室の暖房の温度設定が出来ないため，室温が上がりすぎ，プロジェクタ-が高温停止するなどして講義中断という事態になったことがあったので，暖房の改善を願います。

・寒いので暖房入れて下さい。

・部屋が寒すぎて全然集中できない。

(図書室・情報処理演習室)

・記述なし

(実験・実習室)

・自動のセンサーをとりつけてから，実験室で操作をしている最中に明かりが消えて危険です夏にエアコンをつけないので，各機械や実験サンプルに影響してくる。

(提案・その他)

・特になし。

・GRC（Gene Research Center）との間に渡り廊下がほしかった。(ムリなのはわかっているのですが，実験器具を持って階段ののぼりおり，雪の中歩くのは辛かった)。

・トイレを全部ウォシュレットにしてください。
・寒い。トイレの便座が冷たい。本館を遺伝子とつなげるべき。
・休み時間にも冷暖房を。

［生物資源学科］

（講義室）

・階段等の明かりが夕方頃に消えるのを何とかしてほしい。何度か落ちそうになった。
・空調。
・モニターの位置は考え直すべき。この時代に見づらい液晶プロジェクターを使うのは如何かと思う。教室を暗くしなければ見えない。導入するなら必ず視野性を確認して導入すべき。
・講義室が夏場に暑くて講義に集中できないので冷房を導入してほしいです。
・講義室にて黒板の映像を上のモニターにどうにかして映せないか。人が多い時，やむを得ず後ろの座席に座ると，黒板の字が全く読めなく苦労したので。
・農生の講義室がくさい。（特に夏がひどい）冬場暖房が切れる時間が早い。5 コマが終わるまでつけておいてほしい。
・夏の実験室や講義室は暑かったので，どうにかしてほしかった。
・大講義室の空調環境を何とかしてほしい。暑いか寒いか極端であるので。

（図書室・情報処理演習室）

・図書館や情報処理室で飲食・談笑している人が多かった。
・農生 2 階図書室にパソコン等を使う用のコンセントを増やしてほしい。

（実験・実習室・研究室）

・学生実験室は，夏場クーラーが必要だと思う。白衣を着る気になれない。
・ゼミに広い実験室がほしいです。

（施設・提案）

・記述なし

［園芸農学科］

（講義室）

・夏の講義室の暑さが厳しい。
・イスが座りづらい。
・雪国なのに暖房の時間に限りがあるというのはおかしい気がします。冷房がないのはまだしも暖房は時間に限りをつけないべきです。
・講義室の夏は暑すぎる，冬は寒すぎるという温度管理は何とかしてほしい。講義どころではない。
・設備として暖房がついているのに冬期の午後 5 時にきれるのは寒いので，時間を講義終了までは延ばしてほしい。

（情報処理演習室）

・記述なし

（図書閲覧室）

・図書館の利用時間を長くしてほしい。

・閲覧スペースは，特にテスト期間中は人が多く，利用できない日が多いため改善した方が良い。
・農生図書館の閉館時間がもう少し遅いとよかった。
・所蔵図書の内容が少なすぎる。特に雑誌関係は最新のものも入れて欲しい。

(実験・実習室・研究室)

・記述なし

(施設・提案)

・農生と GRC をつなぐ廊下（2 階以上）を設置してほしいです。実験器具などをもっているときに GRC のドアをあけるのはかなり不便です。(CRG でドアがちゃんと閉められないのはドアが開けにくいせいだと思います)。

［地域環境工学科］

(講義室)

・イス・机など講義室にもよるが，ガタガタといって集中力が妨げられる。
・暖房が弱いと思う　講義室のプロジェクター先生たちが毎回手間取るのはどうかと　情報室は狭いです。
・暖冷房が暑すぎ，寒すぎなど極端だった。

(実験・実習室)

・実験の整備をもっと充実させてほしい。

(図書室・情報処理演習室)

・情報処理演習室が大変汚い。

(研究室)

・研究室に 1 人 1 人のパソコンが欲しい。

(施設・提案)

・特になし。

設問 15. (1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

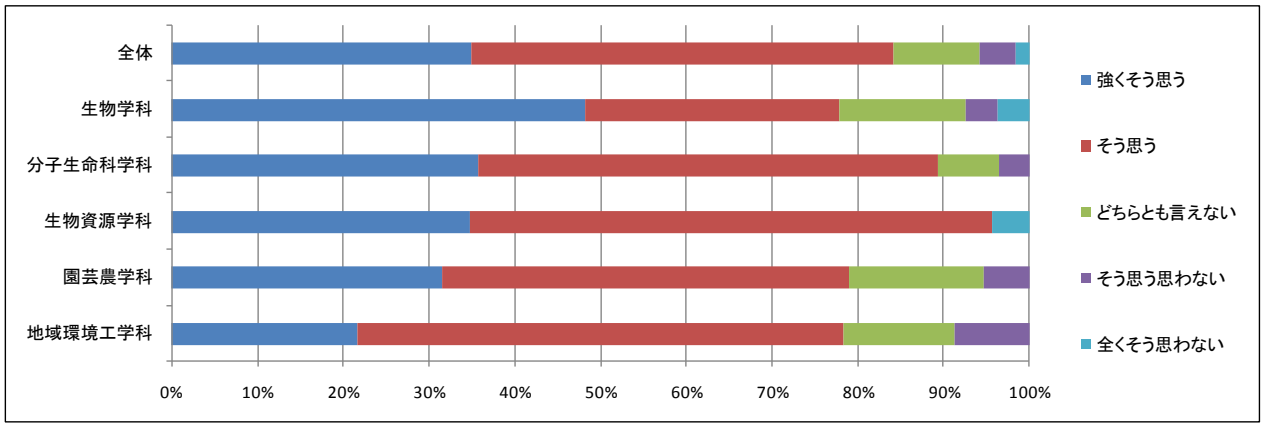

図 14. 卒業研究を行なったことに対する満足度

学部全体で肯定的な評価が 84%であり昨年度より 9%増加しほぼ過去最高であった。学科別見でも全学科が増加した，生物資源学科の肯定的評価は 96%であり最も高く注目される。その原因を明らかにして他学科が参考にするべきである。不満理由は希望内容と合致しないこと，人間関係などがあげられた。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

［生物学科］

1　ただ人に教わるだけではイマイチつかめない。やはり卒業研究として自分で試行錯誤を繰り返し，一から論文としてまとめることで実験のねらいやそれぞれの実験の関連がつかめてくると感じたため。
1　自分の力になったと思うから。
1　教員の指導が熱心だったため。
1　自分自身で考える能力をきたえられた。
1　自分で考え，学ことができた。論理的思考を養われた。
1　卒業研究の中で，自分の研究だけでなく，後輩や同級生の他の研究に関わる機会があり，様々な考えからの意見などを学べた。
1　実験に対する取り組み方，出た結果に対する解釈やとらえ方を学ぶことが出来たこと。また海外の論文を読み込んだり，学会に行くこともできたので，１人前の研究生として多くの経験をさせていただきました。
1　自分の知りたいことをより深く追究できさらに卒業研究を行う上で様々な副産物（経験や人脈）を得たから。
1　新しい発見があったし，人に伝えるにはどうしたら分かりやすくなるかを，ゼミの人と話し合ったのが，よい思い出です。
1　実験技術・技能はもちろんだが，得られた結果から様々な視点で考察できるようになったため。将来のことや，就職に大いに活かせるため。
1　非常に熱心な指導と適切な指示を頂きました。
1　やりたい研究ができたから。
2　満足のいく調査を行えなかったが，納得のいく研究をすることができた。
2　なかなかうまくいかないが，おもしろく研究できた。
2　新しく入った知識や興味のある分野を研究できたので。
2　自ら考え，研究を進めることができた 。
3　自分の研究が意味のあるものだったのか分からないため。
3　もっと早めに行動すればよかったと思う。
3　どちらともいえないため。
4　実験結果がでなかったため。
5　元々やりたいコースでない。研究室に誰かがいるだけで自分だけがある意味部外者であるということを強く感じて強い劣等感がして未だになじめない。

［分子生命科学科］
1　設備が整っているから。
1　研究を行う上で，知識だけでなく，研究する上での姿勢なども学ぶことができたから。
1　この学校へ来たことを形で残せると思うため。
1　すべてをやりきることはできなかったが，様々な実験を行い，その成果を出せたことに満足感を得たから。
1　主体的に考え，実験し考察する能力がついたと感じるため。
1　一つのことをやりとげた達成感を得られた。
1　自分の興味あることをやれるから。初めてのことが多く，授業で習う以外の知識も必要とされ，楽しかった。
1　引き継いだテーマを終わらせることができた。9.9 割は先輩・先生のおかげ。
1　自分が苦手な領域や，考え方の方向性等，良い自己分析になった。
2　貴重な経験になりました。
2　4 年間で１番内容の濃いものだった。
2　一年間の卒業研究を通して成長を実感できたから。
2　興味をもてた。
2　いい思い出になった。
2　大学生活で行った研究をまとめるのによい機会であるから。
2　学生実験とはちがい，一つの研究テーマにうちこめることはとてもよい経験だと思うから。
2　卒業研究を通して文章や図，グラフ等をまとめる情報処理能力を養うことができたから。
2　自分自身で発表するということはこれから社会に出てもやっていくことなので良かった。
2　知りたかったことについて，まとめる時など理解が深まった。
2　自ら問題を提起し，解決へと導くための手段を学ぶことができたため。
3　希望の内容と合致していなかった。
3　自分の長所・短所を１年通して発見する機会となったが，研究室内でのちょっとした出来事で同級生が１人，また１人と減っていく現状，その後の雰囲気にたえられなかった。苦しかった。
4　教員との折り合いが悪かった。

［生物資源学科］
1　達成感・責任感が得られる。
1　興味を持ったことについて深く研究できたから。
1　専門知識と技術が身いついた。忍耐力がきたえられた。
1　ゼミに配属してからの１年半は私にとって最も密度の濃い１年半でした。自分自身に本気で向き合うことの素晴らしさを実感しました。
1　自分の研究に実義をもてた。
1　自分でデータを集め，それを検討し，パワーポイントにまとめ発表するということを通して，課題に対する取り組み方や，パワーポイントを使った発表の仕方を学ぶことが出来たので。
1　大学生活で最も頑張ったので。
2　何か失敗した時，何が原因でどうすれば解決できるかという問題解決する力がついたから。

2　今まで勉強したことの集大成だとは思わないが，実際に自分で実験を進めてようやく専門的な知識を頭にたたき込んだ実感がしたので。
2　研究の課程や成果がでたところがあったことを面白く感じたため。
2　卒業研究を行ったことで専門分野をより理解できたと思うから。
2　自分の4年間の総まとめが出来た気がする。
2　卒業する上で，4年（コース選択は2年程度）のまとめになった。
2　卒業するにあたってひとつの区切りになるし，自分の実験結果がその研究室に役立ってくれるはずだから。
5　データを出すことを求められ，自分のためというより研究室のために実験をしている気分だった。正直追いつめられて精神的にかなりつらかった。院試の勉強や就活も行えないほど精神的に余裕がなかった。

［園芸農学科］
1　自分で1からつくることで4年間学んだことを考えなおす時間ができたから。
1　ためになった。今後に役だった。
1　たくさん勉強になった（研究以外にも人間関係など）から。
1　勉強になった。
1　大学で学んだことを活用出来たと思う。
1　計画し，まとめるまですべてにおいて達成感がある。
2　やりたいことができたから。
2　自分の勉強したいことができたから。
2　やり遂げたものがあるというのは自信につながると思うから。
2　担当の先生がきちんと対応してくれたから。
2　ゼミ内での交流を深めることができたため。文章の書き方，メールの出し方，調査の仕方，ワード，エクセルの使い方等得るものがあったので。
2　自分の力になった。
2　出た結果について，何故こうなるのかを過去の論文等読んで知識を得ながら深く考えることが身についてきたような気がします。社会にでてもこの能力は活かせると思うので，多少でも考える癖がついてよかったとおもいます。
2　自ら問題や課題に対して取組み解決しようと考えること，その過程で問題解決に必要な方法や取組を主体的に行うことなど，社会に出てからも必要なことを学ぶ良い機会になったと思います。
2　辛いが達成感が得られると思う。
3　自分のためにはなったかもしれないが，とても辛かったため。
3　自分の力になった卒業研究のおもしろさに気づくのが遅くなり不十分なまま進めてしまったから。
4　理解が不十分なままで進めてしまったため。

［地域環境工学科］
1　やりたいことをしたから。

1　興味のある分野で教授本人が積極的に研究に取り組む姿勢であったので，幸せな研究生活をおくれた。
1　研究者の気持ちになれた。
1　興味ある分野を研究することができたため。
1　専門知識の習得に役立ちました。
1　1 人で論文を作ることや，発表することが，将来役立つと感じたため。
2　わからないことを理解しようとする行動力がつくと思う。
2　気になることで理解することができたから。
2　4 年間で一番学校にいた時間が長くなった。
2　これから社会に出ても役立つ経験だったと思う。
2　学業的なことだけでなく，社会にでるために必要なことを学ぶきっかけでもあるものだと思うのでためになった。
2　研究が大変充実していたため。
2　既存のデータからさらに蓄積させ，より明確な実験結果を得られたから。
2　研究のやり方がわかった。
2　既存のデータから蓄積より明確な実験結果を得られたから。
2　長い期間を利用して，自分で結果までもっていく体験ができるから。
3　就職活動が長引いて，うまく研究できなかった。
3　自分の中であまり理解できてなかったから。
3　とにかく大変だった。内容も担当の教員により，一から始める場合と内容を指示されない場合があり，もう少し平均化してほしい。
4　出来ることが少ない。設備不充分。
4　学部生が卒論やる意味がわからなかった。

設問 16.（1）あなたの卒業後の進路は次のどれですか。

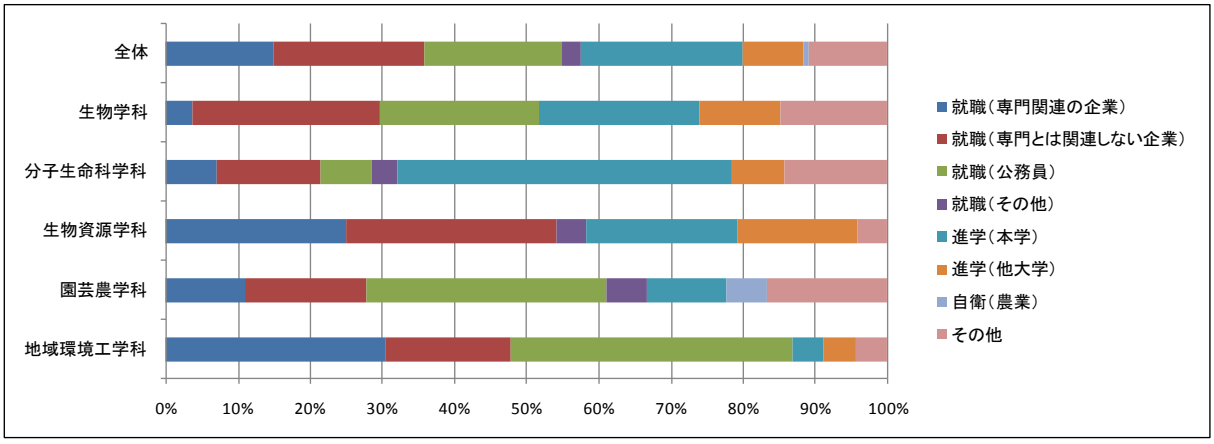

図 15(1)．卒業後の進路

全学科就職率は約 58%であり前年度よりやや増加した。地域環境科学科の就職率が 87%まで上昇し連続 2 年最高であった。地域環境科学科は専門関連企業および公務員への就職率とも他の学科より顕著に高かった。分子生命科学科の就職率は約 32%であり学科中最低で，前年度比べ 10%

以上減少したが，進学者が増加した。生物資源学科は公務員への就職率が 0%であることが注目される。進学率は生物機能科学科が 54%で最も高く，地域環境工学科 8%で最も低く，就職率と対応している。いずれの学科でも本大学院への進学率が 50%で多かった。自営農業従事者は今年度園芸農学科のみ(6%)であった。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路にどのように影響しましたか。

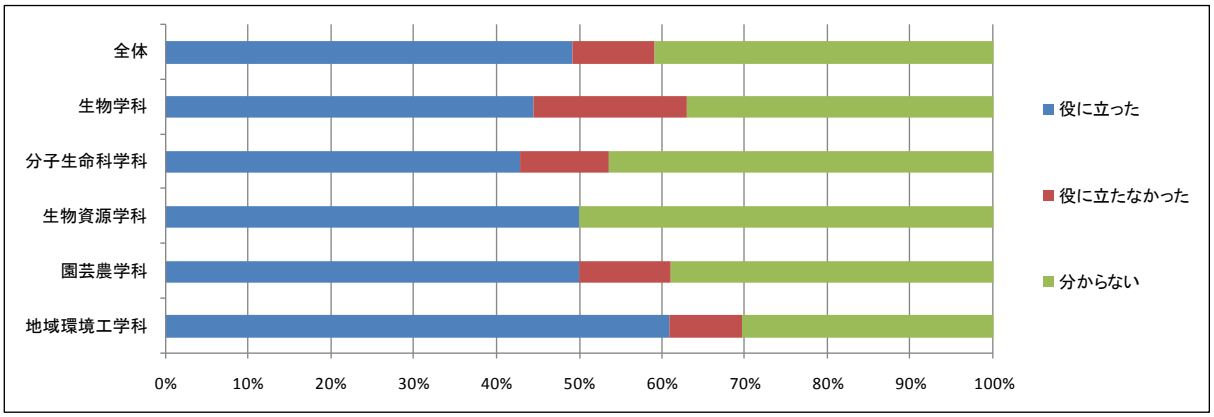

図 15(2)．カリキュラムで学んだことが進路に影響したか

学部全体では，「役に立った」とする回答が約 49%で昨年に比べ約 5%増加した。「役に立たなかった」が 10%と 9 ポイント減少した。「役に立たなかった」との回答は生物学科約 19%で最も高かった。

(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

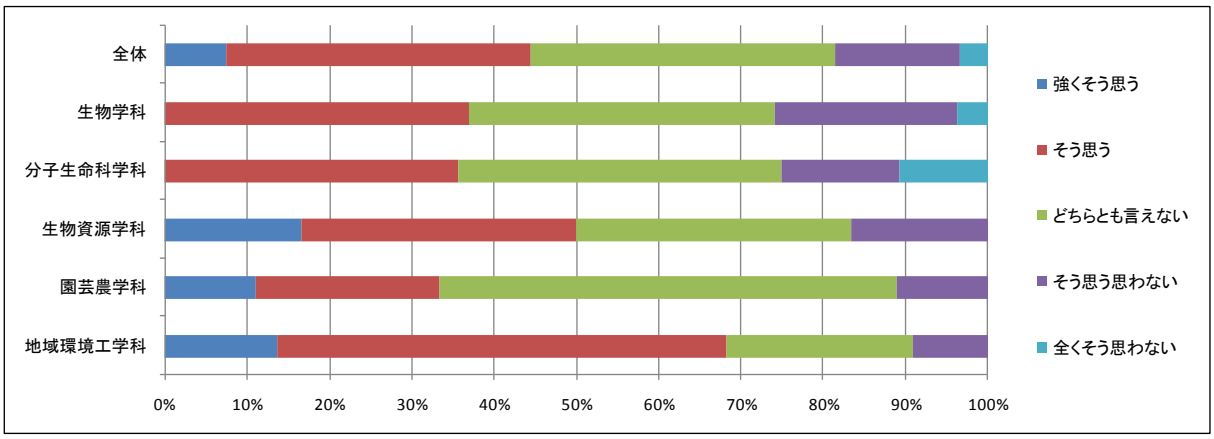

図 15(3)．本学部の就職支援の取り組み

学部全体では肯定的な評価が約 45%で，昨年度より約 15 ポイント増加した。否定的な評価は 19%であり昨年度に比べて約 10%減少した。地域環境工学科では 68%と肯定的評価がもっとも高かったに対し，就職率の低い分子生命科学科と生物学科では否定的な評価も多かった。学生の就職支援の取り組みへの評価は，就職率を大体反映している。

[本学部の教育のあり方について]

設問 17. (1) あなたが本学部を卒業するに当たり，大学卒業者としての知識や学力を身に付けた

と感じていますか。

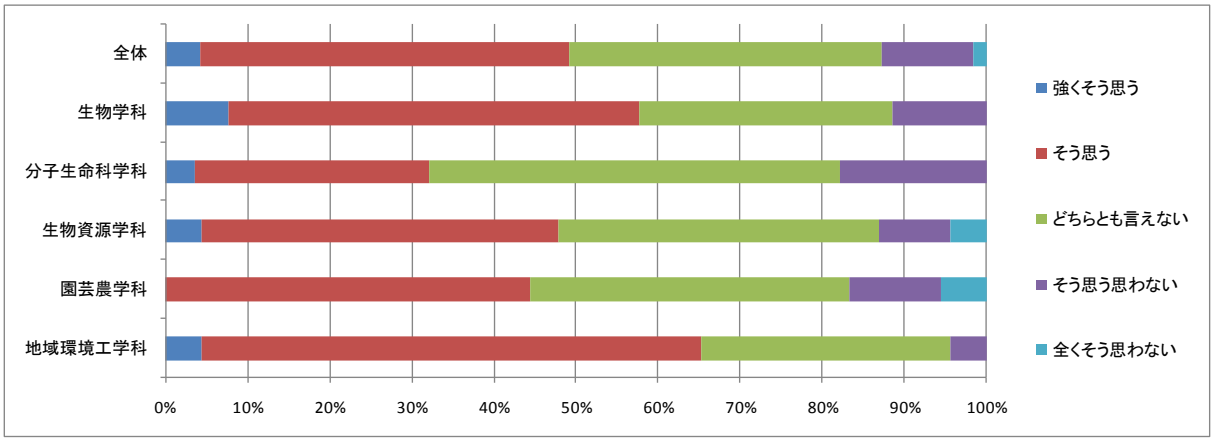

図 16. 大学卒業者にふさわしい教養および専門知識

学部全体では，肯定的評価は 49%で昨年度と比べ 12%増加し，否定的な評価は全学科 13%であり前年度より約 12%減少した。否定的な意見は分子生命科学科が最も高く，園芸農学科，生物資源学科，生物学科，地域環境工学科の順であった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

［生物学科］

1　学部卒の最低限の基礎知識・技術を身につけることができた。
1　学会で発表する場を設けてくださったので，十分です。
2　自分が必要と感じた分野については知識の習得に努めたから。
2　ゼミや研究を通して，社会で働く基礎力が身についたと思うから。
2　専門知識だけではなく，社会に必要な能力も身に付けられた気がする。
2　幅広い分野で研究している人達との交流を通してたくさんのことを学ぶことができたから。
2　大学でよく学ぶことができたので。
2　なんとなく。
2　専門に対しての知識は深まったと思う。
2　人前での発表を，よりわかりやすく伝えられたので，社会でも役立つ技術を得たから。
2　専門分野において多くのことを学び，それを就職に活かすことができたため。知識の input だけでなく，過去に学んだことも output することで考察することもできるようになったため。
2　まだまだ足りないので１. とはいかない。
3　それは社会に出た時初めてわかることだと思うから。
3　学科の卒論発表を聞いて，分からないことがたくさんあったから。
3　そのイメージがわかないから。

3　社会で生活する上では必要かもしれないが利用できるか分からないから。
3　卒業研究以外はあまり学力を身に付けることができなかった。
4　まだまだ学べた事はあったと思う。学業に対する取り組みの姿勢に反省すべき点があった。
4　基礎コースにいるくせに基礎コースにいる人達の卒論発表の内容が理解できなかった。
4　もっとしっかり勉学に励んでいれば得ることができた知識があるのではないかと思う。

［分子生命科学科］
1　実験に関する知識がある程度身についた。
2　専門だけでなく，数学，英語などの一般教養も身につけることができたから。
2　基本的な知識がしっかりついた。
2　意欲的に学んではいたが，いまだ十分ではないと感じている。
2　一つの専門について深く学べたから。
2　進学という選択肢があったから。
2　何かに集中し，結果を出すという繰り返し作業を継続したから 。
3　3，4 年次になると一般教養に触れる機会が少なくなり忘れる。
3　現状で社会に通用する自信もないが，全く通用しないとも思わないためです。
3　得た知識も多いが，同時にまだ分からない事も多数あるから。
3　学内では学業面以外で学んだことは特になかった。反面教師という意味で教員の方々から学んだことは多かった。
3　もう少し知識をつけたかった。
2　十分な部分と不十分な部分のどちらもあるため。
3　結局は自分から進んで身につけようとしないと，知識や学力は身につかない。
4　学力に関しては，まだまだ不足している点も多く，大学生にとって当然な常識等の不足も感じられるから。
4　大学卒業者としての知識や学力が不十分であると認識していることと，大学生活での研究において，良い成績を残すことができなかったため。
3　足りないと思う。
4　他大学と同じような学部生と比較するとやや劣るように思う。
4　研究室の更に一部のちょっとした知識程度なので。

［生物資源学科］
1　学ぶことの楽しさを改めて実感しました。
2　専門的な知識は身に付いたと感じる。
2　専門的な知識と，年齢幅広く交流がもてた。
2　農業について深く考えるようになったから。
2　卒業研究を行った結果，問題解決を行う上で，プロセスを理論的に考えることができたから。
2　卒業研究で専門分野に詳しくなったことに加えて，21 世紀教育で幅広く学ぶことがきでたと思うから。
4　大学に入学したことで，ここでした学べない物をたくさん学ぶことができたと思います。
2　一応 4 年間勉強したり色々やってきたので。

3　一部についてのみしか詳しくないから。
3　自分の専門に関する知識は身についたが，履習していない分野については全く知識がないため。
3　3年後期からのゼミ配属と学生実験の少なさは，専門的なことを学ぶ私達にとって，足りないと感じざるを得ない。
3　それなりの知識は得たものの，それが身についているかといわれれば，わからない。
3　一般教養をもっと身いつけるべきだった。
3　自分の必要な知識が得られなかった。
3　英語力が不足していると感じる。英語の教育を充実すべきだと思うから。
4　実験の経験はつかめたが勉強をしっかりやりきれなかった。（これは自分自身の責任）。
4　個人的に勉強が不足していると感じているため。
5　かなり基礎的な知識しか身についていないと思ったので。

［園芸農学科］
2　ゼミでよく学べたため。
2　ある程度はついたようなきがするため。
2　具体的にはないが，必然的にやらなければいけないこと（講義に出る自分で時間割を組む自ら教授の所へ出向くなどなど）が知識や学力吸収につながっていたと思う。
2　抜けている知識はたくさんあるとは思うが，専門外の科目の授業もたくさん受け広く浅く知識が身に付いたかなと思うから。
2　専門的な学力だけではなく，自由な時間を使って得たものもたくさんあるから。
2　少なくとも，公務員（農業専門職）に合格する程度には学力を身につけられたので。
2　自分の学科に関する分野での一般知識が身に付いたと思う　また，レポートなどを通して文の書き方まとめ方も学ぶことができた。
3　勉強で身につけたことが社会で役にどう立つかがよくわからないから。
3　発揮する場があまりないから。
3　就職先で大学で身につけた学力が役に立つかといわれたら何とも言えないから。
3　もっと専門知識を深めたかった。
3　目上の人との付き合いが多く力になった。
3　ある程度は身に付いたと思うが，全てにおいてそうかと聞かれたらそうでもないと思ったから。
2　まだ自分自身の専門的な知識が不足していると感じ将来的に社会で活用できる学力知識を得たいと思いました。
4　個人的に自主学習が足りなかった。また，講義やレポートをきちんとこなせていなかったように思う。
4　もっと自ら学べることもたくさんあったと思う　講義以外でも興味をもったことには全て挑戦すればよかったと思っています。
5　カリキュラムが悪いと思うわけではなく，自分が不勉強な学生であった。

［地域環境工学科］

1　農業土木に近い職についたため。
2　専門分野で知識が増えたから。
2　大学入学時は専門的な知識など一切なく専門的な職種に就職できるなど思っていなかったが，最終的にこの学科で学んだことをある程度活かせる職業に就職したため。
2　高校では取り扱わないような勉強を行った。
2　知識は，大学生として過ごしたこの 4 年間に集約されると思います。
2　たくさん勉強したから。
2　相応の勉強をしてきたと思っているから。
2　自分自身で興味のある分野の勉強をすることができて，さまざまな知識を意欲的に吸収することができたため。
2　専門的内容を学ぶことができたため。
2　たくさん勉強したから。
3　部活やサークルで上下関係の礼儀などを学べたことや，パワーポイント・ワード・エクセルなどのパソコンの使い方に詳しくなれたため。
2　公務員試験の勉強のために先生に協力してもらって学習したから。
3　忘れた知識が多い。
3　忘れたこともあるので，新たに勉強していくことが大切。
3　知識はあまりふえなかった。
3　まだ不十分であると思う（原因は自分の意欲や取り組み不足による）院進学も迷った。
3　単位を取るための勉強しかしていなかったからあまり身についてないと思います。
3　ある程度の知識は得られましたが，就職後に学ぶことの方が多いと思います。
4　まじめに勉強できなかったため。

設問 18.（1）本学部の教育活動の中でもっとも早急に改善すべきと思われる点は，次のどの項目ですか。

1. 学生に対する教員の指導方法　2. 授業の方法　3. 成績評価の方法　4. 補習授業
5. 教育・研究設備　6. 就職支援　7. 生活相談　8. 経済支援（奨学金など）　9. 健康相談
10. 留学生への援助　11. 身体障害者への支援　12. その他（　　）
13. 特に問題は無い

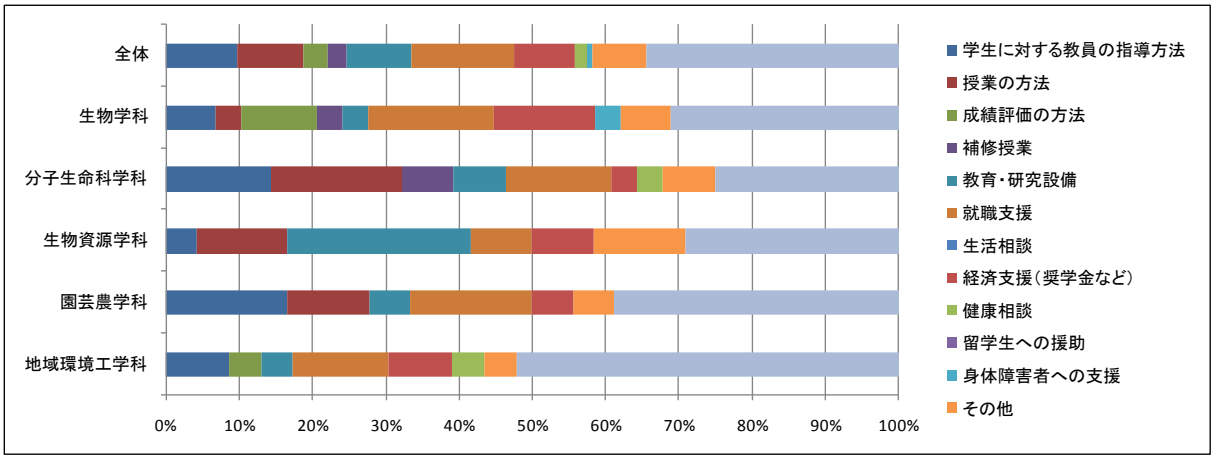

図 17.　早急に改善すべき事項

学科全体ではもっとも早急に改善すべきと指摘された上位 4 項目は,「6. 就職支援」(14%)「1. 教員の指導方法」(10%),「2. 授業の方法」(9%) および「5. 教育・研究設備」(9%) であった。「6. 就職支援」の回答率が前年度に比べて７%減少したのに対し，他の３項目について回答率は前年度と大きく変わらなかった。「1. 教員の指導方法」と「2. 授業の方法」をあわせた回答率はと分子生命科学科が 32%で最も高く，生物学科が 11%で最も低かった。「6. 就職支援」との回答は生物資源学科が 10%で最も低く，他の 4 学科は 15%前後でありほぼ同様であった。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

選択肢が多岐にわたっているため，他の設問と重複する記述が見られる。教員の指導や講義の方法等の改善は引き続き必要であると思われる。また，教員の学生への接し方，施設や実験設備の要望が複数あげられている。

［生物学科］

1 生徒の理解具合を確認してから，次の説明や板書を進めるとか。
2 教授によって，講義のレベルに差がありすぎる。
3 成績表の右枠が使えない上に「信用するな」とまで言われたこと。卒業単位が足りなかったらどうするつもりか。
3 不足単位を把握するのが困難で，こまった。
4 極力多くの授業で，補講を行うことで，単位取得率を増やせばいいと思った。
5 研究費の節約が大変だった。
6 教職を志望している学生への就職支援が全くないので改善した方がよい。
6 「就職支援センターに行けば良い」という態度ではなく，「農生である」ことを武器にできる就職方法をアドバイスしてくれる場所が（農生の中に）ほしかった。できなければ，就職支援センターが「農生の（もちろん他学部も）強みを生かそう！」というポスターでも貼れば，（←既に貼ってたらごめんなさい。気づきませんでした。）「理系に対するアドバイスもしてくれるんだ」と感じて行きやすくなると思う。
6 就職相談しに就職センターに行ったら「英語できない奴の相談なんかにのる気がしない」と職員が談笑しているのを聞いてしまった。見てしまった。好きで英語が出来ない訳じゃないのに。テーマ科目の相談に行った時も丸投げにされた。許せない。
6 教員採用に関する支援・サポート。調書などの書類の書き方・面接・試験対策。ＨＰやパンフレットに教員免許が取れると記載している割に教採に関してノータッチすぎる・・・。
8 総合的に評価をする講義を受けて不可をつけられたなら仕方ないが，一過性のものでしかない一試験だけで不可をつけられてしまった場合，その他の態度，姿勢などを考慮して何らかのチャンスを与えても良いのではないか。
8 支援幅をひろげてほしい。
8 奨学金のほとんどを生活費にあてざるを得ないので，他の金銭的部分で保護対策してもらえると良い。
11 障害者が身近にいるわけではないが，エレベーターの場所が暗い，教務や総務のドアは車イスでは開けにくい，東側にある 2 カ所の出入り口が階段しかなくて，しかもドアが重く，実

験器具を運ぶのに苦労したことがある，ということに気付きました。
12 入学前と入学後しばらくしてからの学科のイメージとの違い。特に研究室配属が始まる時に，問題が生じる。各研究室の人数のバラつきが大きすぎる。
12 海外の大学院進学を希望した際，全部自分 1 人で進めてくれといわれてこまった。多少支援して欲しかった。

［分子生命科学科］
1　極端な指導方法の教員は注意していくべき。
1　もっと学生の興味を煽る講義をしてほしい。
1　公務員就職に対する理解を先生方にはもっと持って欲しい（研究も大事だが)。
2　早期に専門科目を多く受講できるようにしてほしい。
2　おもしろくない。
2　パワポだけでバンバン進めて理解できない授業をする先生がいるから。
2　ただこなせば良いという態度には不満がある（一部で)。
4　急に授業外時間に入れたりで予定が合わせにくい。
5　実験で夜 11 時以降まで残っているのに，トイレの便座が冷えているのは本当にひどいと思う。温めて下さい。節電するところがおかしいと思います。
5　学科コース分けがいまいち意味があるのか疑問だった。
6　学部生にとって，本学での知識を生かして仕事につける場合がほとんどない。
6　就活でゼミを休みづらい。
6　精神論ではなく，実際に使える話が聞きたかった。
8　経済面で大変だったから。アルバイトしながら十分な研究を行うのは大変だと思うので，経済支援があると良いです。
9　指導教官，学科の先生は健康相談にのってくれますが，それ以外のところでの健康相談は適当に感じる。
12　学科改変後の 1 期生だったから，もう改善されているかもしれないが，比較的単位が重要な講義の時間がかさなって，一方を受講するのに 1 年待った。また，2 年後期から急に専門科目がつまった印象がある。2 年前期は余裕もあったので，もう少し早くからもっと専門科目に取り組めてもよかった。
12　受付の人の態度がよくなかったりしました。
13　特に問題なく学生生活をすごせたため。

［生物資源学科］
1　基礎の基礎から教えてほしい。
2　方法というか，授業中騒いだり寝ている学生にはもっと強く注意するなどしていいと思う。
5　図書館の利用できる時間が短い。
5　補講が多く，新学科なので仕方ないのかもしれないがいきあたりばったりなのではないかと思うことが多かった。
5　早くから実験・実習をやるべきだったと思ったので。（今では他の学年・学科と実験室の利用がかぶると思いますが)。

5　夏場にクーラーがあればよかった。
5　図書館に外国語の論文雑誌をもっと増やすべきだと思う。希望する論文をインターネットで見れないことが多かったので。
6　力を入れていると聞いたが，実際は大して何も支援というものを受けていない。
8　生活が苦しいのに紙面上の金額だけで判断するのをやめてほしい。
8　告知が下手。
12 講義のスケジュール必修科目の時間帯が重なっている。例えば1年時と2年時の必修が同じ曜日の同じコマにある。転学科したり1年時に単位を落とすとその科目のために留年の可能性がでる。
12 ゼミ配属を早め，学生実験を多くする。

［園芸農学科］
1　研究者としてだけでなく教育者としてのふるまいも身につけてほしい。
1　教員の学生に対する指導が悪い，ただの教員の自己満足で終わってしまい学生にとっては迷惑なだけである。
1　学生が二の次になっている教員が多いように感じる。教員自身の研究も大事だとは思うが，学生を相手にしている以上，教育もしっかり行ってほしい，仕事もしっかりしてほしい。
2　先生によってさまざまだから。
2　大人数での授業では必ずただ来ているだけの人がいる。授業の妨げになるものは注意してもらわないと，他の人に影響が出る。また黒板の字の大きさ声の大きさは考えて頂きたいと思う。
5　冷房をつける。
6　卒業論文と就職活動の時期が一緒のため時間的な余裕がないため。
6　就職活動が研究に取り組む上で妨げになってしまうことが少しでも減らせるように，1年・2年時からガイダンスや業界研究に触れる機会があればよいと思います。
12 尊敬できる人になってほしい。

［地域環境工学科］
1　授業のスライド等，学生にうまく教えることが出来ていないとかんじた。
1　わかりづらい授業が多かったため。
5　部屋が暑い。プロジェクターを使うとより暑い。
6　交通費などの費用が高くて大変。
6　就活の休講扱いや交通費の支援，関連企業の紹介 etc。
6　企画があっても参加している学生が少ない気がするから。
8　まわりに奨学金をもらって，バイトをして生活している人が多いため。
12 実験の設備がたりない。
13 特に困ったことはなかった。
13 雑誌（ジャンプやサンデー）への広告を出すよりもっとやることがあると思います　清掃などの設備管理や，教員数の確保など根本的な部分をなんとかして下さい。お金の使い方にムラがあってイライラします。

設問 19.（1）総合的に判断して，本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

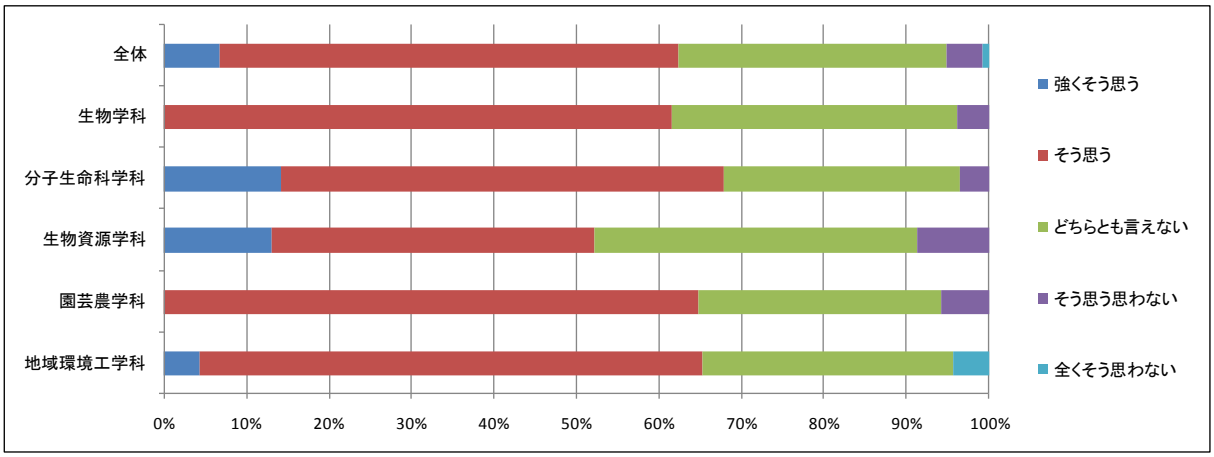

図 18. 本学部・学科の取り組みに満足か

学部全体では，肯定的評価は 19 年度 57%，20 年度 63%，21 年度 63%，22 年度 50%，23 年度 62%のように推移している。否定的評価は 19 年度 9%，20 年度 5%，21 年度 11%，22 年度 11%，23 年度 5%であった。今年度は比較的肯定的な評価が多かった。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない
5. 全くそう思わない

否定的な評価（4，5）についての記述件数は昨年同様に少なかった。これまでの設問の選択理由の中ですでに述べられているからだと思われる。

［生物学科］

1　自分の研究に集中できる環境がととのっていたから。

1　大学生活は本当にいい経験になったと感じるから。

1　充実した研究を行うことができたから。

2　概ね満足しているが，昨年度の分子生物学が突然集中講義になった際，詳しい説明がなかったことが少し気になった。

2　1 年生の時はつまらなかった（←後輩も言ってました。「だから部活に入った」とか。）が，毎週，実験が入ってからは楽しくなった。高校までは義務教育の延長線であるイメージが強いが，大学に入ったら，次は大多数が社会に出て行く身なので，「ただ知識を授けるだけ」では駄目だと思う。高校までは「受動的に勉強していれば進学できてしまう」ので，「自ら考え，行動できる」人ではなくても大学に入ることができる。むしろ，そんな人ではない人が多い。だから，「自ら考え，行動する」とはとういうことか，を教えてあげなければいけないと思う。これは結果ではなくプロセスの問題だから，ただレポートを課すだけではダメだし，100%手とり足とり教えると受動的な生徒のままだ。また，3 年後期になってくると就活を理由に逃げる人もいる。だから，まだウキウキしている一年生の前期から卒論みたいなことをさせるか，1 つの論文を作り上げるようにさせたらどうか？もしかすると基礎ゼミ

がそれに当たるのかもしれないけど「生徒の主体性を尊重する」とか言って，研究の何たるかを知らない生徒を野放しにしても意味ないです。まずは方法を教えてくれなければ何をどうして良いか分かりません。

2　基礎ゼミの「グループ分け」「少人数制」は良いと思うので，一年生の前期は「1 つの論文を読み込む（この研究の背景や結果，まとめ方など)」後期に「グループで 1 つの研究発表をする（先生も積極的に急かしたり，アドバイスしたりしてほしい)」という風にすればどうでしょう。半年で発表出来るかどうか分からないが（1 つの論文を読み込むのはもう 1 つの講義として設定しても良いかもしれません)，一年生の前期から「大学生っぽい！」と感じてくれる講義を行ってくだされば，もっと魅力的になると思います（生徒の発表をポスターにして地元の人にも見てもらえれば良い刺激になるのではないでしょうか。）結果的に，自分は良い研究室に所属することができたので，個人的には満足です。

2　学生の視野を広げられるから。

2　今までの 4 年間，充実した時間をおくることができたから。

2　教授の知識や調査に同行させて頂き，専門的な事を学ぶことができた。

2　全体的に満足しているため。

2　有意義な大学生活をすごせた。

3　お世話になった先輩方，先生方には大変感謝していますが，上記のようなことを意識したことがなく，関心もない。

3　良い面，悪い面ともにあったため。

3　生物学科という名前なのに，扱っている分野が植物大半だからです。

3　学科編成に伴い新カリキュラムの 1 年目ということで，教員間も教員・学生間も，教員・大学間も連携が上手くいっていないように感じたため。振り回されたこともあったが，充実した一面もあったため。

2　勉強面では感謝する面もあるが人間としては憎くてたまらない。

3　何のための研究活動なのかということがハッキリしてない教員が若干名いると思われるから。

4　教務は何をしているのかわからない。

［分子生命科学科］

2　本学部というより，学科の先生，個人個人が研究熱心だから。

2　不満なところが思いつかないため！！

3　大学で微生物，バイオマス，食品について学ぶことができたことが出来て心から良かったと思う。

1　楽しい 4 年間でした。ありがとうございました。

2　良かったと思います。

2　おおむね満足した。

2　いろいろとやってもらってる意識があるから。

2　学生を思って十分やってくれていると思う。

2　研究室での日々に満足していたからつけた。

2　この学科に入ってよかったと思えるため。

2　専門科目では熱意のある先生方がとても多かった。
2　で学んだことで見つけた自分の道をこれから一生懸命に歩もうと思えるから。
3　場面によって差が大きい。
3　教員の指導や授業内容に満足しているが，もう少し早く研究室配属を行って欲しかったです。
3　前に同じ。
4　教員間の連携がわるい。

［生物資源学科］
1　特に不満な点がないから。
1　農学生命科学の名にふさわしい総合的な研究をしていると思うから。
2　高校では学べないことを学べた。
2　楽しかったので。
2　学びたいことが学べたため。
2　皆，熱心に活動しているので。
2　研究などに対しては，熱心だと思う。ただ，事務的なミスが多く，少し困惑した。成績の生物生産学実習ⅠがⅡになっていたり，プリント枚数 50 枚が 0 になっていたり・・・。
2　自分の興味のあることについて深く学ぶことができたので良かった。またそのための空間もきちんと整えられていて良かった。
2　全ての研究室について把握しているわけではありませんが，どの研究室も素晴らしいと思うので。
3　私の所属している研究室は生物資源学科に適しているのか少し疑問に思います。
3　新しく 5 学科の制度になったばかりで思考どおりにいかないのはある程度しかたがないと思う。
3　基本的に授業は先生が一方的にしゃべるものばかりで学生と先生両方のやりとりがある授業を行えば濃密な授業をすることができると思うから。
3　学ぶ分野が広すぎて専門的とは言えない。
3　教員によっては，研究に熱心でない人がいると思う。学生もそのような人の研究室に入ると，熱心に研究しない人が多く見られるため。
4　実験に早く取り組めるようにしてほしい。

［園芸農学科］
2　よい環境で学べた。　　要望：アンケートが長いので簡潔にしてほしいです。シラバスがわかりにくいので改善して下さい。
2　多分ためにはなっていると思うので。
2　総合的に考えてこの学部・学科でよかったと思えているから。
2　特に不満はないから。
2　学科による違いがでていて分かりやすいと思う　学科では早いうちに面談が行われたため，自ら学校生活について考えることができ，よかったと思う。
2　特に不満はない。
3　よくわからないから。

3　上述したような理由です。
3　教員によって授業・卒論指導に対する対応のしかたに差がありすぎるため　生徒自身の向上力も大切だが教員から受ける指導によっても向上力が持てるかどうかが左右されると思う。
3　学科の区分が細かくなってしまったため受けたい講義が他学科の領域で受講できないことがあった（時間割が合わないなど)。
4　カリキュラムが悪い，　1年から専門の実践の場をもうけるべき。
4　熱心に指導して下さる先生が多くいると思います　学生が主体的に学習・研究する努力をすることも必要だと思いますが，学部には学生が自ら考えて主体的に取り組める選択肢を多く用意して支援して欲しいです

［地域環境工学科］
1　学科の先生には大変お世話になりました。
2　今後役に立つ経験だった。
2　全てに関して満足していたから。
2　先生が熱心　設備への不満。
2　大学生活がもし満足できなかったのであれば，大学の責任ではなく自分自身の責任であると考えるから。
2　いろいろな知識を身につけられた。
2　4年間を通し，先生・事務の方の親身な対応に感謝しています。
2　総合的に教育目標などがはっきりしていた　目標がはっきりしていたことで授業全体のビジョンが見えていたから。
2　平均的にみて満足した。
2　特には不自由なく4年間過ごすことができました。
2　4年間特に不自由なく学生生活を送ることができたから。
3　私たちの年から学科再編を行い，いろいろと実験段階であったと思う　そこを考慮すると満足できた部分も多くあったが改善点もまた多くあると思った。
3　カリキュラムの変更で学生を振り回したのはどうかと思った（集中講義とか)。
3　自分自身の努力に不足があった部分の大きいと思うので，納得はしていない部分もありますが，身の丈に合った学生生活かなと思います。
3　満足している点としていない点のムラが多すぎたため。
3　個人の先生は良いが全体の農学生命としてみると，バラバラな気がするから。
5　入学する前の想像と講義の内容が全然違ったため。

Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，２年間本研究科で教育を受け今まさに修了しようとしている学生を対象に，研究科における教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：教員をとおして研究室所属の研究科学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。

調査対象：平成 24 年 3 月研究科修了予定者 44 名

調査期間：平成 24 年 2 月 13～20 日

有効回答者数：29 名

調査項目：設問は以下のとおりである。（ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。）

設問 1．あなたの所属専攻をお答えください。

[研究科・専攻の教育目標等の認識]

設問 2．本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属する専攻の概要は添付資料の通りですが，専攻の概要および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 概要について

(2) 入学者受け入れ方針について

設問 4.(1) あなたが所属する専攻の概要は添付資料の通りですが，専攻のカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[専攻の専門教育について]

設問 5．シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 6．(1) あなたが所属する専攻で受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問１５で別に聞きます)。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 7．本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。

[教員の指導について]

設問 8．(1) 所属する専攻の教員の学生への指導や対応に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

[学生の主体的学習について]

設問 10. (1) 講義や演習の受講に当たり，あなたは 1 日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

(2)課題研究に要した時間は 1 日平均どの程度ですか。

設問 11. 大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 大学在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。(　) 内に番号を記入して下さい。

(1) 学業（　　）　(2) 学生生活（　　）　(3) 進路（　　）

設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

[修士研究について]

設問 15. (1) 修士研究について満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 16. (1) 研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

[本研究科の教育のあり方について]

設問 17. (1) あなたが本研究科を修了するに当たり，大学院修了者としての知識および学力を身に付けたと感じていますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 18. (1) 本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

設問 19. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために，希望する点や，大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

設問 20. (1) 総合的に判断して本研究科・専攻の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

２．調査結果

設問　１．あなたの所属専攻をお答え下さい。

表１．専攻別アンケート回答率

専　　攻	対象者人数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
研究科合計	44	29	66
生物機能科学	7	4	57
応用生命工学	12	9	75
生物生産科学	17	13	76
地域環境科学	8	3	38

研究科全体では 66%で昨年より 4 ポイント低下した。応用生命工学は前年の 58%から大幅に上昇，生物生産は例年並みであったが，生物機能科学は 13 ポイントの低下，地域環境科学は学生数が少ないものの 62 ポイントの大幅な減少が見られた。回答者数が 10 人未満の専攻が複数あったため，集計は研究科全体で行い，必要に応じて各専攻の内容を検討した。

［研究科・専攻の教育目標等の認識について］

設問　２．本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。

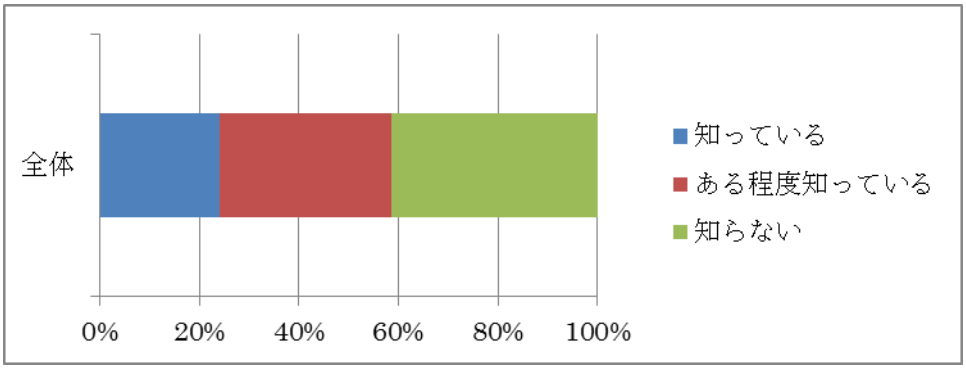

図１．本研究科の教育目的等の認識

研究科全体では，「ある程度知っている」以上の肯定的な回答が 59%で，昨年度の 46%にくらべ向上した。ただし一昨年と同じレベルである。専攻別では，生物機能科学が昨年とよりも高く 100%であったが，地域環境科学では 0%，応用生命工学 78%，生物生産科学 46%と学科間の差が大きかった。ただし，地域環境科学では母数が 3 名のため，正確な議論はできないが，低調であることは否めず改善の余地がある．

設問　３．あなたが所属する専攻の概要は添付資料の通りですが，専攻の概要および入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

（１）概要について

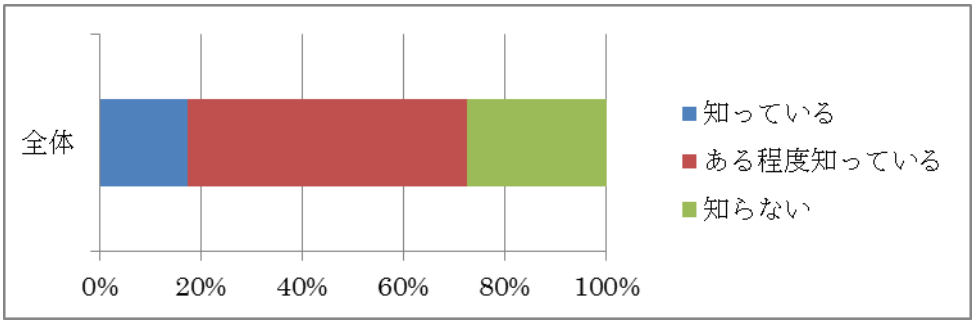

図２．所属専攻の概要の認識

（２）入学者受け入れ方針について

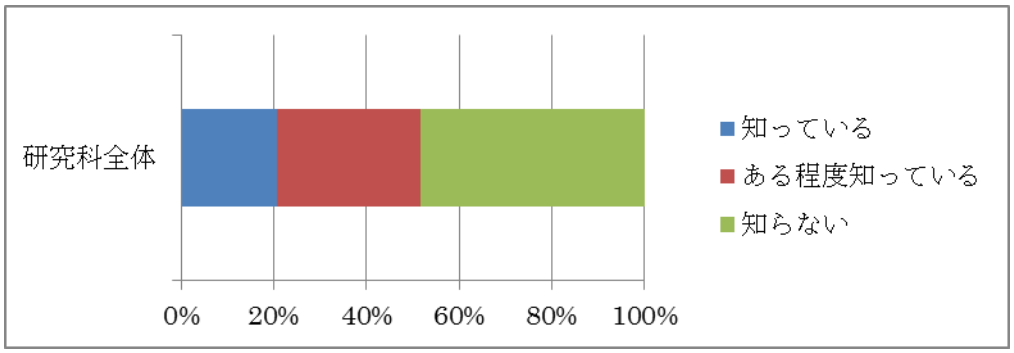

図３．受け入れ方針

研究科全体で見ると，（１）概要についての「知っている」と「ある程度知っている」の合計が約 66%昨年の 57%よりも上昇したが，一昨年度の 67%と同程度である。この設問３の（１）は，20 年度までは「概要」の代わりに「教育目標」にしており，21 年度は数値の向上が見られたものの，22 年度には再び低下が見られ，23 年度は再度同程度に回復したと見て取れる．（２）の入学者受け入れ方針については，研究科全体で見ると，「知っている」と「ある程度知っている」の合計が約 52%と昨年の 21%よりも大幅に回復している。それでも一昨年度の 36%よりから見ても高い値といえ，改善が認められている．

大学院説明会の実施が奏功した結果の表れと言えよう。また専攻科の改組を控え，旧専攻においても十分な対応が出来低他と考えることが出来る。

設問　４．（１）あなたが所属する専攻の概要は添付資料の通りですが，専攻のカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。

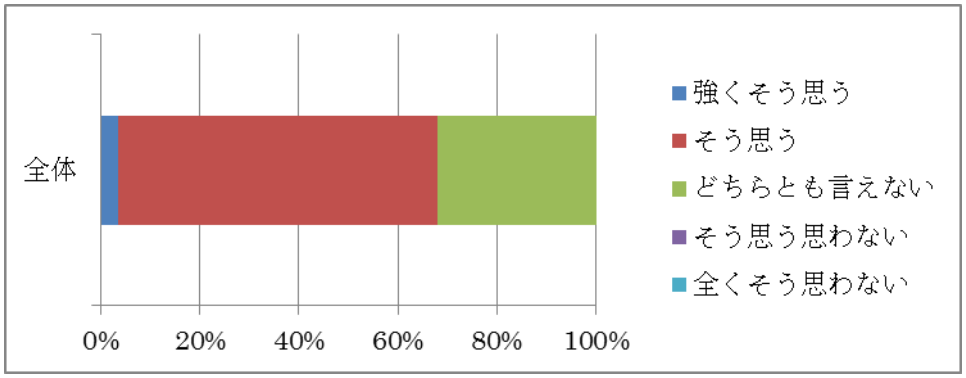

図４．概要とカリキュラムの合致度

研究科全体では，肯定的な評価は 75%であり昨年度の 56%よりも上昇し，否定的な評価無く，昨年の 14%よりも低下している。前年度と比較すると肯定的評価が増加し，一定の効果が認められる。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない　４．そう思わない
５．全くそう思わない

カリキュラムの内容は，ほとんど研究分野ごとの講義を主体に構成されているため，講義が「概要」の事項を網羅していると捉えれば肯定的評価に，各研究分野に特化する内容になると，学生の専門が近ければ高く，遠ければ低くと，分野ごとに評価が異なっているのではないかと考えられた．研究各講義が個別的で全体的な統一性がないと捉えれば「どちらとも言えない」や否定的な評価になる傾向にあった。また，目標が大きすぎると感じている学生もいるので，今後もう一度概要（教育目標）を見直す必要があるかもしれない。

[専攻の専門教育について]

設問　５．シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

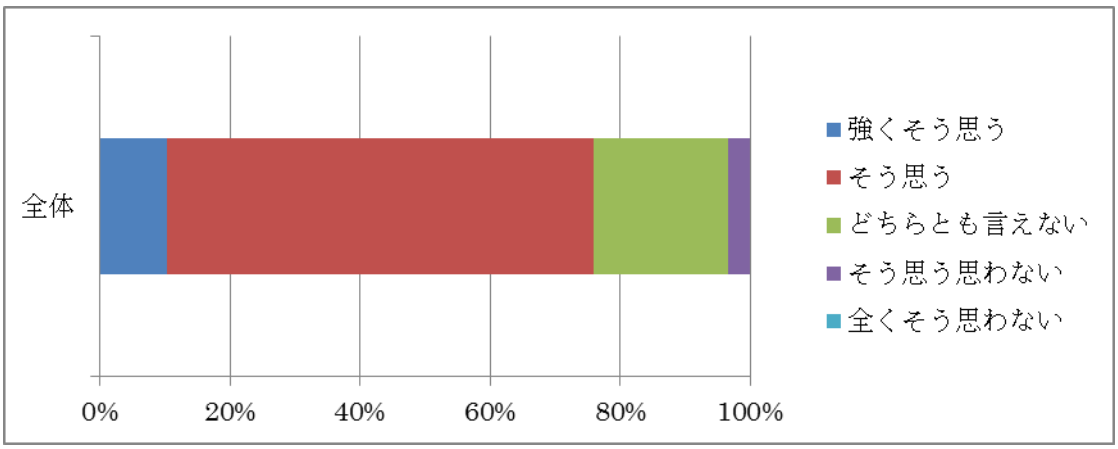

図５．シラバスの有用性

研究科全体では，肯定的評価が 79%と昨年の 59%に比較して向上しており，近年の減少傾向に歯止めがかかった上大幅な改善が認められた。シラバスと講義内容の整合性が向上したと見ることが出来る。

設問 ６．（１） あなたが所属する専攻で受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問 15 で別に聞きます）。

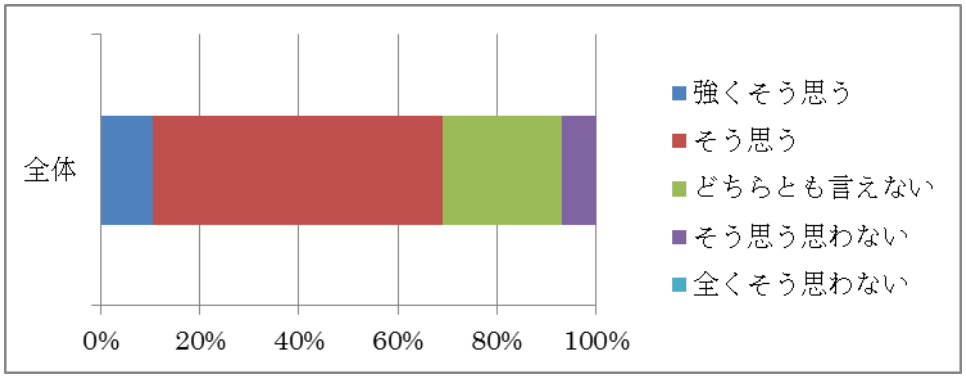

図６．所属専攻の教育に満足か

研究科全体では，肯定的評価が 69%，否定的評価が 7%とそれぞれ前年度の 67%，9%とほぼ変わらない。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない　４．そう思わない
５．全くそう思わない

［生物機能科学専攻］

2 問題なく学習できた

［応用生命工学専攻］

2　自分の行っている研究とは異なる視点からものを考えることができ，座学のみでなく発表する能力・経験が身につく

2　必要な知識が得られたので

2 幅広く学べたため

2 研究がある中での講義は，時間的に限られてくる　その中で行った発表や演習は直接力になり，同時に研究や専門知識の習得にプラスになるものであった

3　その講義が果たして大学院生に必要な内容なのか理解できないものがあった
必修科目の目的がよくわからない　ただ開いているだけってどうなのか

［生物生産科学専攻］

1　口頭発表形式の講義など，実用的なものが多かったから

1　充実してたから

2　講義では，発表させられることが多かったので良かった
2　実際に研究に役立つ講義内容があったから
2　学部生の時より，より専門性の高い講義だったため，専門分野外でもおもしろいものがあった
3　他専攻の授業でも興味をひかれるものはあった
3　講義は総じて満足だか，研究はそうではなかった
3　自分の研究と全く関係ない授業も受けたので，良く理解できていませんでした
4　生物生産科学基礎論の先生による内容の差が大きい　修士研究における内容や心がまえなど，参考になることをやってほしい

［地域環境科学専攻］
2　知識のみならず，ものの考え方の勉強になった
2　自分の希望に沿った学びができたから
2　学部時代と違い講義内容が充実していたため

前年度に比べ全体に高まった肯定的評価では，自らの専門を深められる内容や発表形式の講義，論文の書き方の指導など，学部教育に比べて有益な講義の形式が増えたことをその理由にあげているが，一方，分野外の難解さや本人の興味と遠いことなどで不十分という評価も複数みられた。学生の分野間の理解度の違いをどう克服するかが課題である。

設問　７．本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。

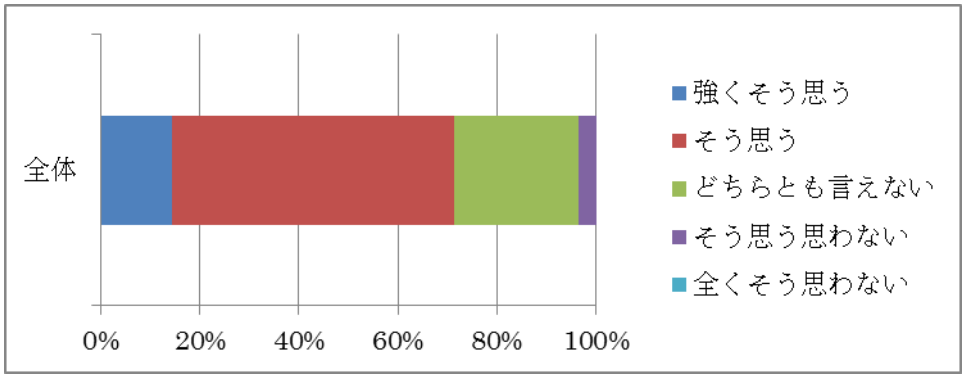

図７．ガイダンスは適切だったか

研究科全体では，肯定的な評価が 71%，否定的評価が 4%で，それぞれ前年度に比べ大きく改善している。年々改善傾向が認められ，適切なガイダンスが行われている効果が顕在化してきたと見て取ることが出来る。学科間のばらつきも少なくなり改善努力の成果が認められたといえる。

［教員の指導について］
設問　８．（１）所属する専攻の教員の学生への指導や対応に満足していますか。

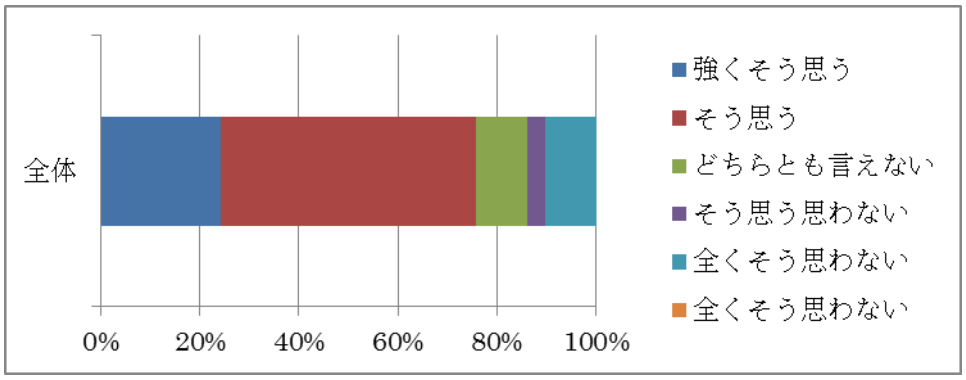

図８．教員の指導や対応に満足か

研究科全体では，肯定的評価が 76%と 7 ポイント減少し，否定的評価が 10%と 4 ポイントの上昇があった。平均的には肯定的な面が多いものの，低下の原因を検討するべきであろう。専攻別に見ると，地域環境科学は回答者 3 名ではあるが肯定的な評価が 100%と高く，応用生命工学が 66%と前年の 45%に比べ大幅に改善が認められた。生物生産科学が 93%から 77%と大幅に減少したが，極端に低い値とは言えない。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない　４．そう思わない
５．全くそう思わない

［生物機能科学専攻］

1　親身に丁寧に行ってくれた
1　質問に対して真面目に答えてくれる
3　先生によってバラバラだから

［応用生命工学専攻］

2　必要なことを学べるようしっかり導いてくれたと思うので
2　不満に感じることがなかったから
2　ちゃんと教えてくれる　自身でやるべき事には放置してくれ，自身の成長につながる
3　満足でも不満足でもないため
4　ここには書けない　ありずぎる
5　本専攻の先生方は，研究が第一であり，就職活動に対する理解がまだ低いと感じる　研究室によって，先生の考え方が異なる部分があり，生徒は困惑する　先生方は就職活動に関して理解していると思っているかもしれないが，されに理解が必要だと考える

［生物生産科学専攻］

1　学生数が多いが，とてもよくみてくださる
1　親身に指導いただいたから
2　いつでも指導してくれた
2　少なくとも所属する研究室の先生方にはよくしてもらった
2　ある程度，自由に研究させてもらえたから

2　学生の力量に配慮していると感じるが，心理的（精神的）な点（学生のとらえ方）にもう少し配慮していただきたい
2　対応が丁寧で優しいから
2　良く指導されたと思います
2　少ない内の時間で面倒をみてもらえた

各専攻とも，肯定的評価では「適切」「熱心」「丁寧」「真摯」「親身」な指導・対応が受けられたことを挙げ，個人の関わりの深さが有効であることが示唆された。「どちらとも言えない」や否定的評価では教員の指導や対応不足を理由とするものが見られ，研究と就職活動などの間に若干のギャップを感じている学生がいるようである。また，教員によるという意見や教員の多忙もあって，十分な意見交換ができなかったとの指摘もいくつかあった。

設問　９．大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。

（１）成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

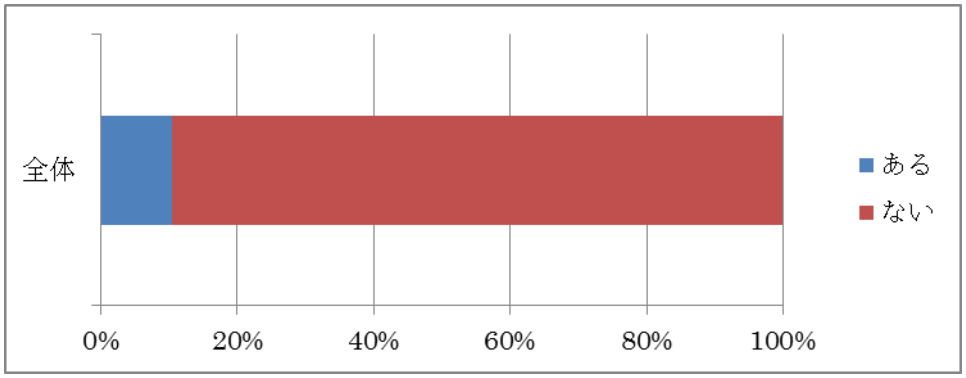

図９．成績評価に対する疑義

研究科全体では，「成績評価に疑問を持った」との回答は昨年に比べ約 4 ポイント上昇し減少して 10%であった。若干ではあるが疑問を持つ学生がいることに留意が必要である。

（２）疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。

［生物生産科学専攻］
1 ある授業では全クラスが”良”以上を取れる人がいなかったです　しかも授業が難しすぎたと思います
2 相談したことはない
2 学務

成績評価に疑問や異議がある場合でも，当該教員や関係部署への相談を控えた学生が数名いた。学生の引け目や諦めによる為と思われるが，成績評価や教員への信頼性を維持するためには，疑問や異議について積極的に相談するように推奨し対応する必要がある。

[学生の主体的学習について]

設問 10. 講義や演習の受講に当たり，あなたは１日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

1. 30 分未満　2. 30 分以上 1 時間未満　3. １時間以上 2 時間未満　4. ２時間以上

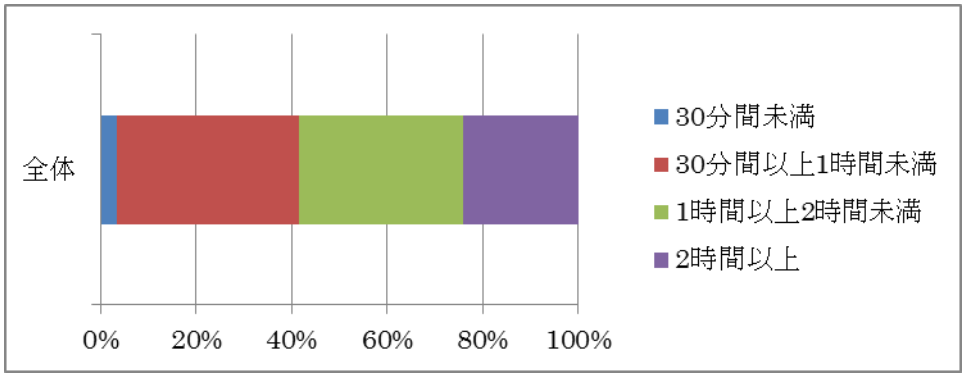

図 10（1）．予習や復習の時間

研究科全体では，１日当たりの予習・復習時間が１時間未満と回答した学生が 41%で昨年の 56%よりも減少し，一昨年とほぼ同等に回復した。

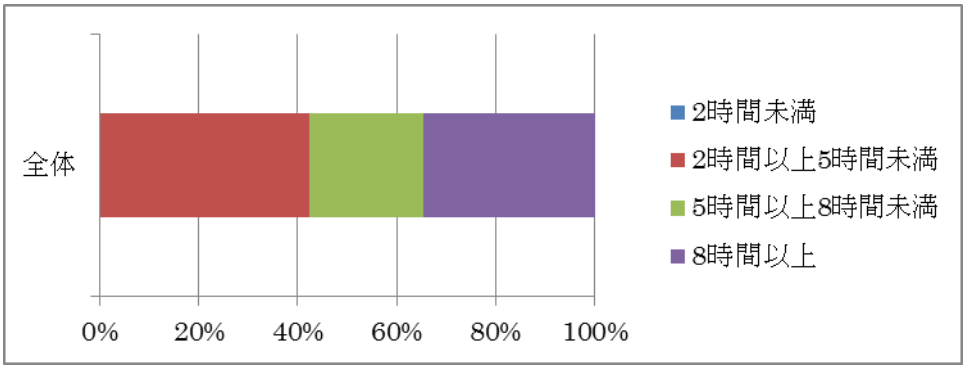

図 10（2）．課題研究に要した時間

新設の質問であるが，全て 2 時間以上であった。また，30%以上が 8 時間以上を示し，一部学生が研究中心の生活をしていることが示唆された。

設問 11. 大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

（１）あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

［生物機能科学専攻］

- 真剣に様々な内容の講義を受講するよう取り組んだ
- 単位を落とさない程度で

［応用生命工学専攻］

- 人の発表にしっかり耳を傾けること
- 必要な情報を整理し・集め・十分に理解することを心がけていました

・　なるべく休まず，出席しようと心がけた　大学院の講義は，1つも休んでいない
・　話を聞いて理解
・　意欲的に取り込んだ
・　自分の専門分野だけでなく，他の分野について知るよう，心がけた
・　新しいものは積極的に覚えようとした

［生物生産科学専攻］
・　発表をがんばった
・　自分が主に行う研究の知見をさらにふやすため及び別の興味のある分野にふれるため
・　欠席せず，課題はこなす
・　とにかく一生懸命取り組む　いつか役に立つかもしれないから
・　真面目にとりくみました
・　授業数が少なかったので，集中して取組むことができた
・　普通です
・　予習をやるよう心掛けた
・　自分の専門と関係ある講義を受けました
・　予習を行い，準備していく

［地域環境科学専攻］
・　なにか1つでも身につけれるように心がけた
・　学部時代は聞く講義だったが，修士では自ら発言し，意見交換する様になった
・　疑問に思ったことはその場で解決するようにしている

学部時代より意欲的に取り組んだとする学生が多く，自分の研究に有益だからという動機だけでなく，幅広く知識を得ようとする取り組み姿勢がみられた。学生により様々ではあるが，個々の問題意識を持って取り組む積極性の向上が伺えた。

（2）大学在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

［応用生命工学専攻］
・　科目名を覚えていません

［生物生産科学専攻］
・　植物真菌学
・　山地流域保全学　泊まりがけの実習を含む自然への興味及び知識を増やすことができた
・　山地流域保全学（実際現地に行って体験する事ができた）
・　山地流域保全学　宿泊実習が楽しかった　他大学の学生とも意見交換できたので
・　動物・保全生態学　発表について考え多くを学べた
・　山地流域保全学　他学科の授業で更に合宿があったため　他大学の人との交流が魅力的だ

った

- 動物生態学　研究分野外の論文を読むのが大変だったから
- 作物生産生態学　難しすぎてあまり理解できません

［地域環境科学専攻］

- これといってないが，全体的に有意義であった

［学生への教育支援，施設・設備について］

設問 12．本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の（１）～（３）の項目について主にどれを利用しましたか。（　）内に番号を記入して下さい。

（１）学業

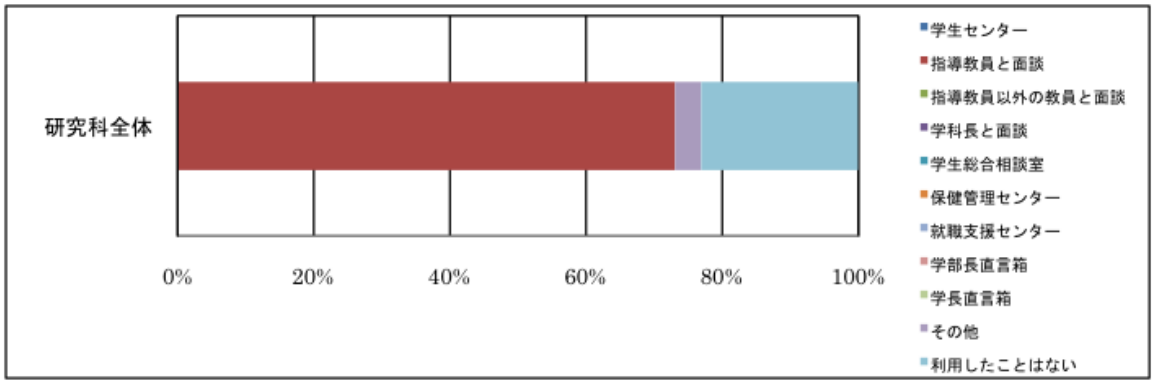

図 11(1)．学業についての利用

研究科全体では「指導教員と面談」が最も多く 73%で，昨年度の 52%から上昇しており，ついで多かったのが「利用したことが無い」で 23%であった。専攻別に見ると，生物機能科学及び地域環境科学科では「指導教員と面談」が 100%となっており，生物機能学は昨年度の 0%から大幅に上昇している。年度により学生気質が異なることがこの結果からも伺われるが，より相談しやすい環境に改善されていると思われる。

（２）学生生活

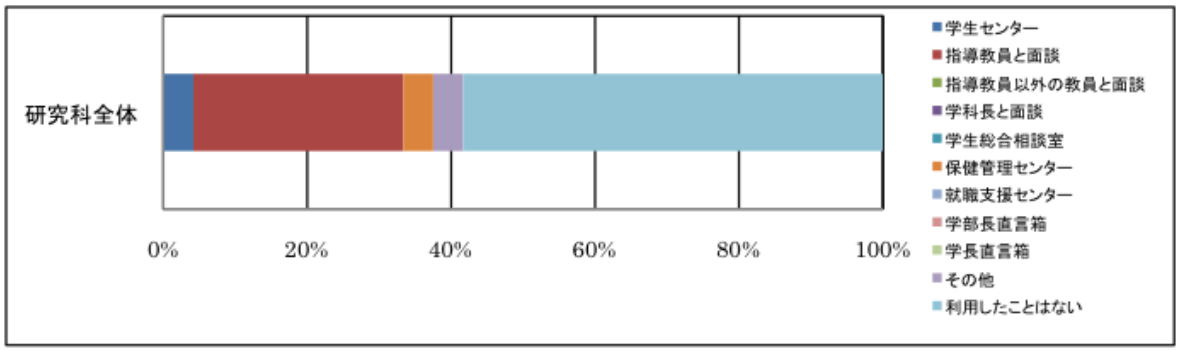

図 11(2)．学生生活についての利用

研究科全体では「利用したことが無い」が 11 ポイント増加の 58%で最も多く，一昨年度から増加傾向であり，ついで「指導教員と面談」が 29%と変化はない。

（３）進路

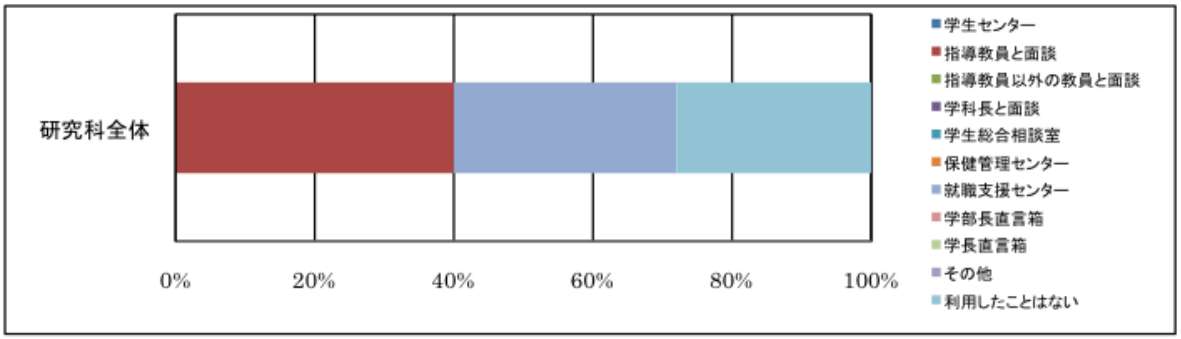

図 11(3)．進路についての利用

研究科全体では「指導教員と面談」が 40%で最も多く，ついで「就職支援センター」が 32%，「利用したことは無い」が 28%であった。一昨年度から「利用したことは無い」が最も多かったが，その割合は減少した。進路についての相談が増加していることになる。今後も相談しやすい環境維持に努める必要がある。

設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。

（１）あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

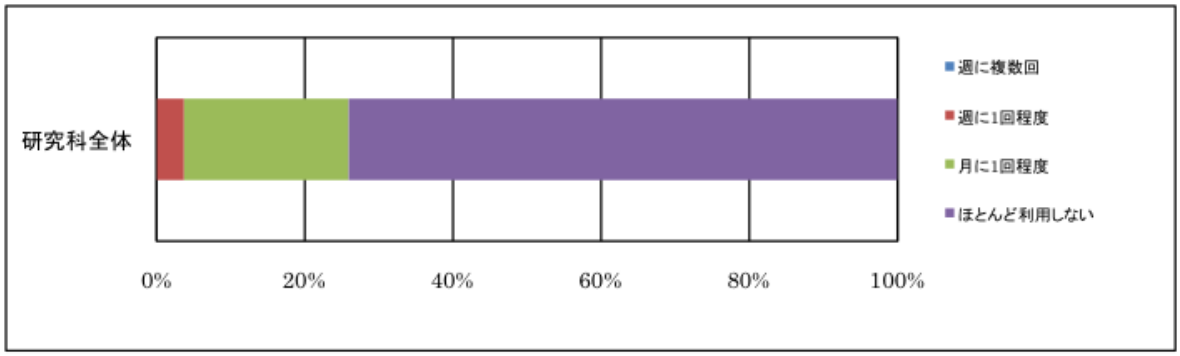

図 12(1)．本学部図書室の利用状況

研究科全体では，「週に１回以上」の回答が 4%，「月１回程度以上」が 22%であったのに対し，「ほとんど利用しない」が 74%と多かった。昨年度より「ほとんど利用しない」が 15 ポイント増え，利用率は低下した。低い利用状況は，学生の意識によるのか，図書の整備状況や情報収集の仕方（インターネットの利用等）の変化と関係するのか調べてみる必要もあろう。

（２）以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

１．所蔵図書（和書および洋書の単行本）

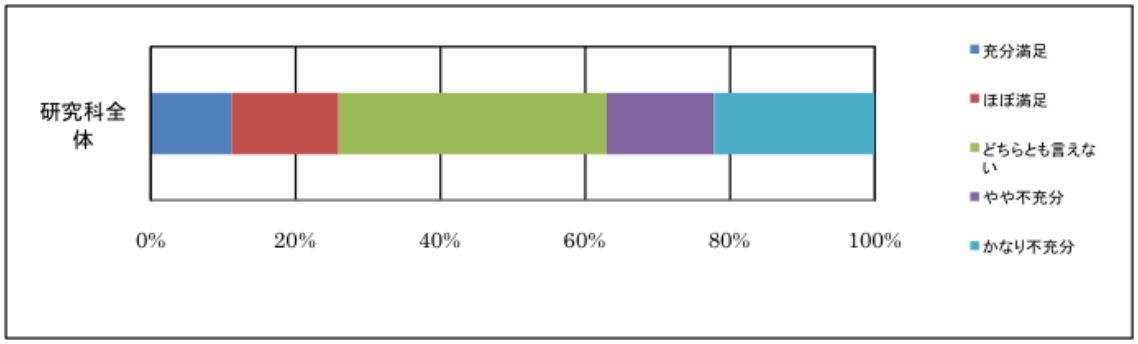

図 12(2)．所蔵図書

研究科全体では，「充分満足」，「ほぼ満足」を合わせた肯定的な意見が 26%であったのに対し，否定的な評価は 37%で，一昨年度と同程度であった。引き続き，学部図書室の蔵書内容は不十分であると感じている学生が多いことが伺われる。

２．閲覧スペース

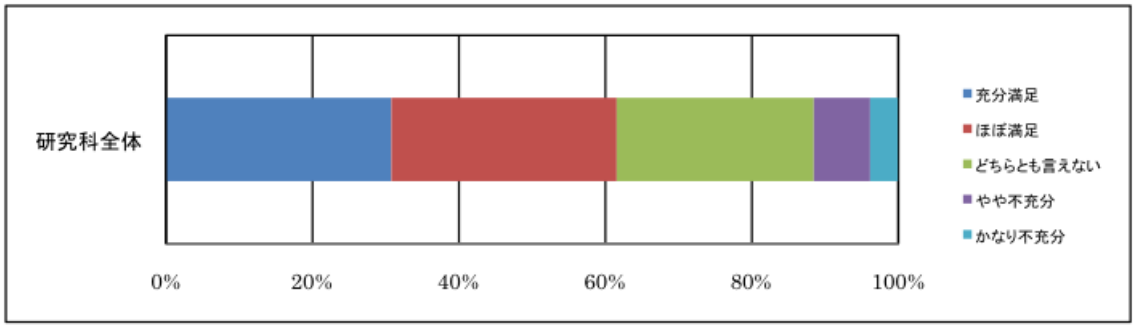

図 12(3)．閲覧スペース

研究科全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が 62%で，否定的評価は 12%であった。昨年より肯定的評価が 6 ポイント増加し，否定的な評価が 13 ポイント減少していることから，関係者による改善が評価されていることが伺える。

３．開館時間

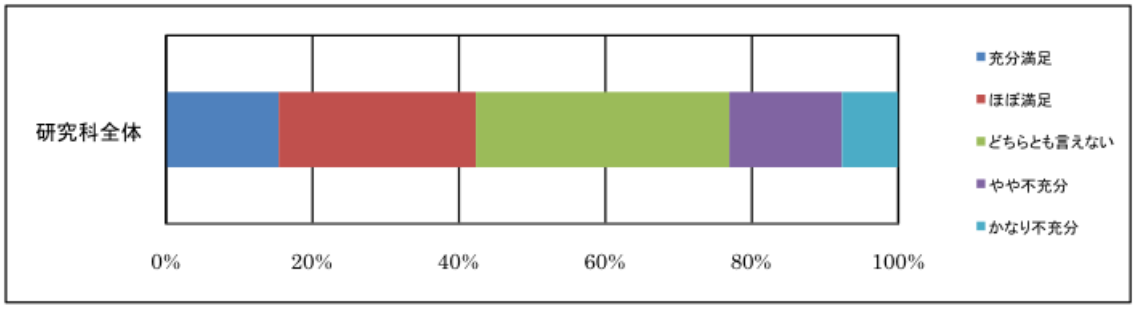

図 12(4)．開館時間

研究科全体では，肯定的評価は 42%で否定的評価は 23%であり，肯定的な評価が 2 倍程度であった。学生によって異なるようであるが，おおむね満足していると思われる。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

（1）該当する欄に○を書き込んで下さい。

1．講義室

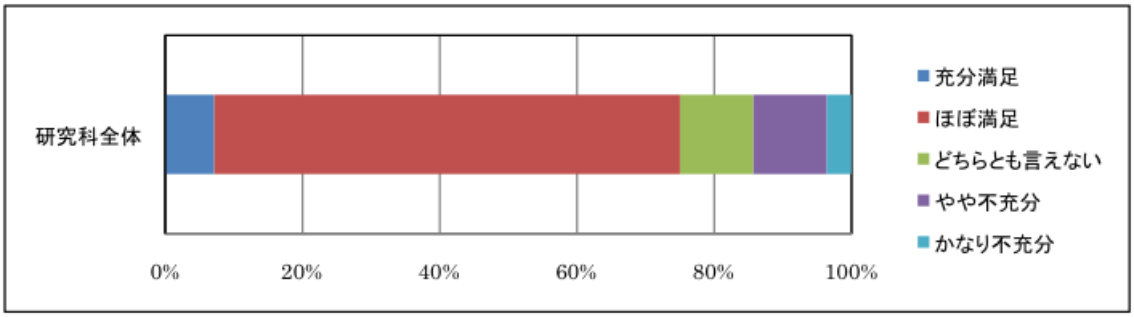

図 13(1)．講義室

研究科全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が 75%で，昨年度より 6 ポイント減少しているが，7 割以上の高い評価をこの 2 年得ている。各種映像機器の設置が進んだためだと考えられるが，今後もこれら設備の維持・更新が望まれる。

2．実験・実習室

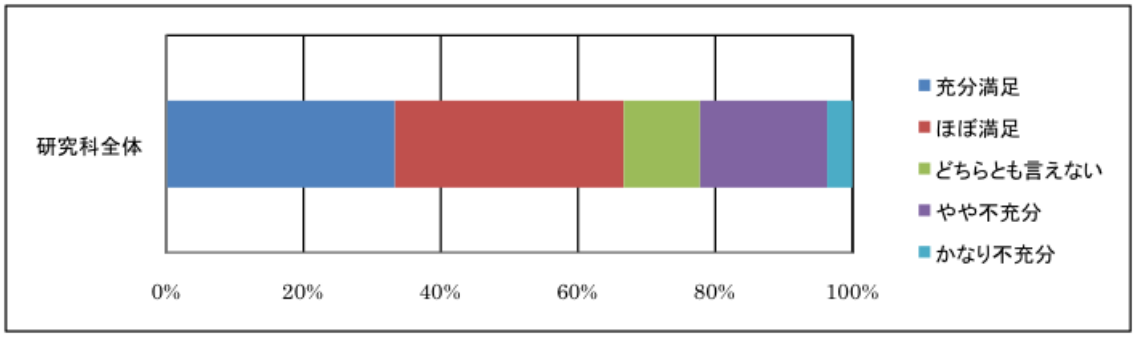

図 13(2)．実験・実習室

研究科全体では，肯定的評価は 67%で 11 ポイント増加し，否定的評価は 22%で 7 ポイント減少した。平成 19 年度から空き室の利活用がはかられており，少しずつ改善されてきていると思われる。

3．情報処理演習室

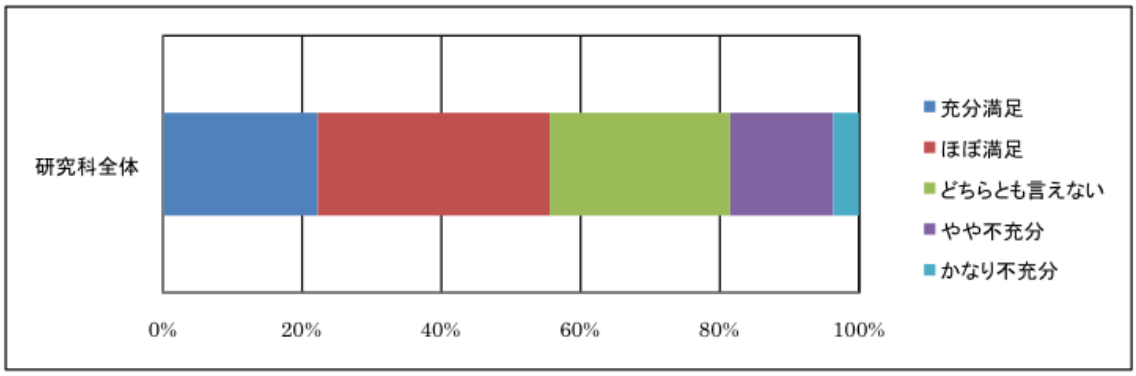

図 13(3)．情報処理演習室

研究科全体では，肯定的評価が 56%で，昨年度より 7 ポイント増加し，否定的評価は 19%で昨年度より 4 ポイント増加した。

４．修士研究を行った研究室

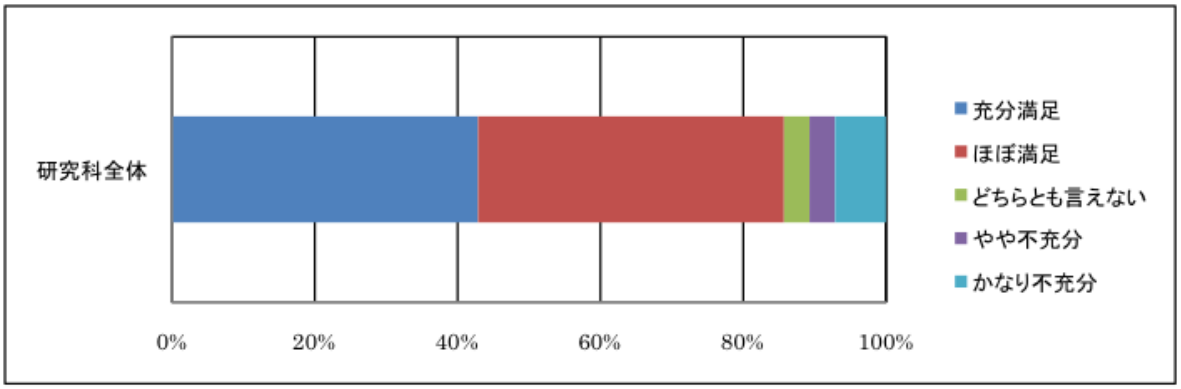

図 13(4)．修士研究を行った研究室

研究科全体では，肯定的評価が 86%で，昨年度より 17 ポイントと大きく上昇した。肯定的評価が最も多かったのは生物機能科学及び地域環境科学で 100%，ついで応用生命工学が 89%，生物生産科学は 75%であり，全ての専攻で評価が上昇していた。

（２）各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

［応用生命工学専攻］

- エアコンを入れてほしいです
- 冷暖房について，土日祝日も入れてほしい　特に土曜日は大抵の研究室は実験しているし，ゼミもしているから
- 汚い（窓が），暖房が消えるのが早い
- 講義室で，寒い部屋が多い
- 寒い

［生物生産科学専攻］

- 標本室が作業スペースと兼ねられているが狭い　駐車スペース不足　便座が冷たい
- 可動式の机が便利だが授業に向かない
- 情報処理演習室の PC の起動が遅い

昨年度と比較して，研究室や実験・実習のためのスペースなどについての要望は減少したようだが，引き続き，暖房や冷房設備についても不満は多いようである。

［修士研究について］

設問 15.（１）修士研究に満足していますか。

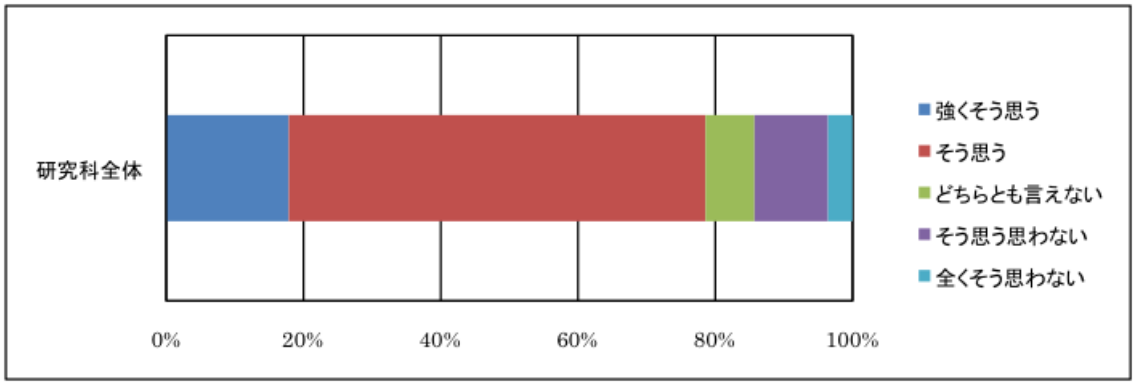

図 14. 修士研究に満足か

肯定的な評価は，研究科全体では 79%であり，昨年度の 66%よりも 13 ポイント上昇した。研究に満足した学生が昨年より増加したことになる。専攻別にみると，3 専攻（生物機能科学は 60%から 75%，応用生命工学は 50%から 89%，地域環境科学は 70%から 100%）は昨年度より増加し，生物生産科学だけ昨年度の 75%から 67%にわずかに減少した。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない

４．そう思わない　５．全くそう思わない

［生物機能科学専攻］

2　求めた研究ができた

3　就活をすると研究が進められない　大学院に進んだのに進学前も就活したので，研究室に所属してから，就活ばかりしていた印象がある

［応用生命工学専攻］

1　結果を出すことができた　学会発表など，多くの経験ができた　つらい研究生活を乗り越え，達成感を得た

2　部屋・設備ともに充実しているため

2　器具や試薬などに不自由することなく研究に取り組めたため

2　指導教官のおかげで，十分満足いく研究ができました

2　やりたい事はすぐ出来た

4　色々ありすぎた

［生物生産科学専攻］

1　楽しかったから

1　目標を決めて取り組みある程度達成できたから　やりたいことがやれたから

2　満足ではあるがもう少し頑張れたかもしれないという思いがある

2　研究について満足しているが，自分のいたらなさが，研究に影響したと考えられる
2　やりたいことをやらせていただいて満足です　強いて言えば，もっと勉強するのだったと思います
2　より深く研究できたのは良かった　結果が伴わなかった所もあるので，そこが残念だった
2　ある程度研究ができました
3　勉強不足
4　あまり時間を費やさなかったから　充分な研究を行ったと思えなかった
5　そもそもやりたくもない事をやらされている　指導教官が指導してくない

［地域環境科学専攻］
2　自分で考える事で勉強になったことがたくさんあった
2　挫折もあったりして苦労もしたが，大いに勉強になった
2　学部時代とは異なり自分の考えや意志が論文に反影されているため

修士研究に満足したという肯定的評価の回答には，研究を十分に行なうことができた，学会発表もできたなどの理由があげられている。また，苦労は伴いながらも成果を得る過程そのものに満足感を得ていることも伺えた。一方，「どちらとも言えない」や否定的評価では，期待したような成果が得られなかったことや研究時間の不足・自分の努力不足などの理由があげられていた。大学院生として研究成果が求められることへの意識の現われや自己評価が，この理由に出ていると思われる。

設問 16.（1）研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。

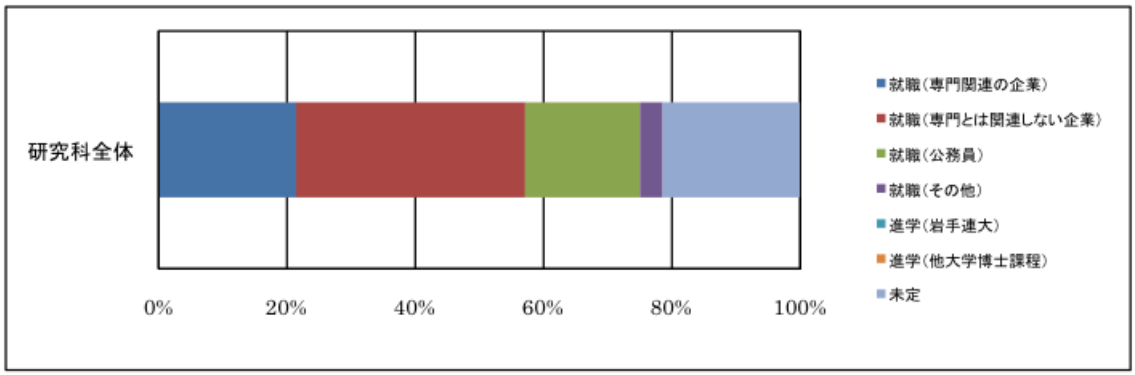

図 15(1)．進路

研究科全体では，「専門関連の企業」21％「非関連企業」40％で企業への就職が 6 割を占め，「公務員」18％で，昨年度に比べると専門関連・非関連を合わせた企業への就職は減少しているが，公務員が 9 ポイントも増加した。しかしながら，進学者がおらず，昨年度は該当者がいなかった「未定」が 21％であった。公務員への就職率が高まった一方で，昨年度より企業への就職がより困難であったことが伺われる。就職や進学へ向けた改善が重要な課題であろう。

（２）　本研究科のカリキュラムで学んだことは，進路にどのように影響しましたか。

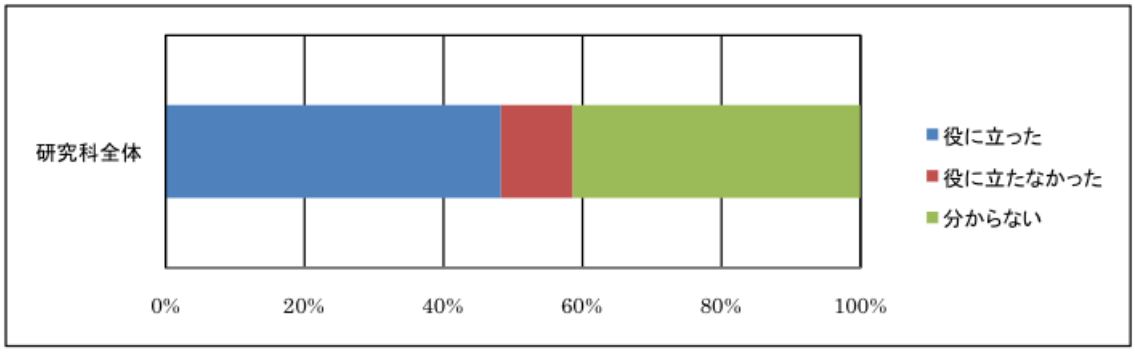

図 15(2)．研究科で学んだことの進路への影響

「役に立った」の回答は研究科全体の約半数の 48%で，「役に立たなかった」が 10%であった。研究科全体ではこのような傾向はここ 4 年間続いている。専攻別に見ると，年によって差が見られるが，応用生命工学では「役に立った」が減少し続けていたが，31 ポイント増の 56%と大幅に増加していた。生物機能科学，生物生産科学，地域環境科学では，それぞれ 40%から 50%，58%から 31%，60%から 100%が役に立ったと回答している。

（３）本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

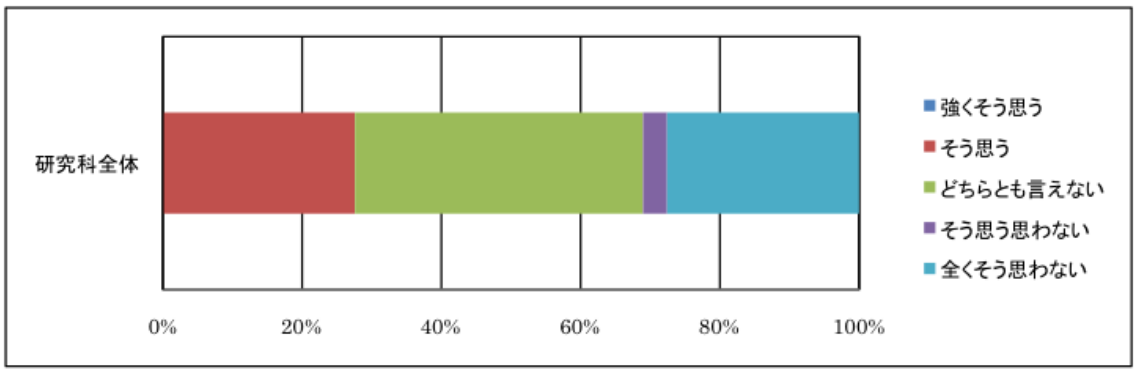

図 15(3)．進路支援の取り組みは十分か

研究科全体では，肯定的な評価が 28%，否定的な評価が 31%で，昨年と比べ肯定的な評価は同程度であったが，否定的な評価が 18 ポイント減少していた。引き続き，まだ肯定的な評価が回答数の３分の１以下であることから，研究科として進路支援に対する取り組みの改善を図る必要がある。

[本研究科の教育のあり方について]

設問 17.（１）あなたが本研究科を修了するに当たり，大学院修了者としての知識及び学力を身に付けたと感じていますか。

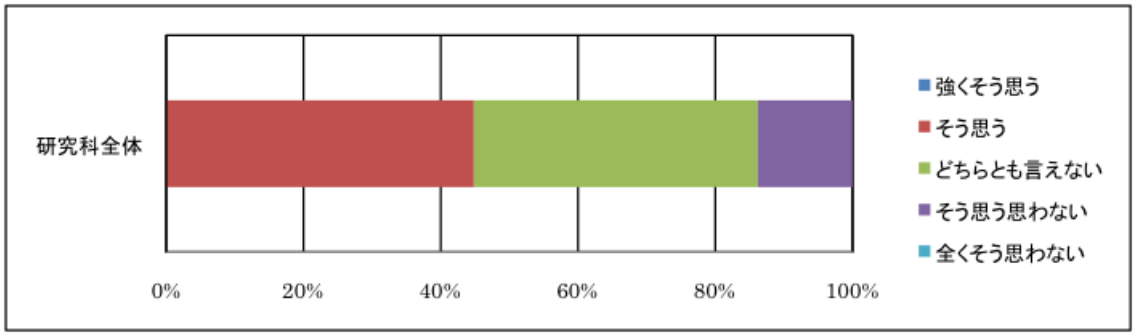

図 16.　大学院修了者としての知識および学力を身につけたか

研究科全体では，肯定的な評価が約 45%，「どちらとも言えない」と否定的な評価がそれぞれ約 41%，14%であり，肯定的な評価が昨年度より 7 ポイント増加し，「どちらとも言えない」が６ポイント減少，否定的な評価も１ポイント減少した。昨年度比べ肯定的な評価が増加する一方で，「どちらとも言えない」が 4 割回答している。これらの回答者の（２）の理由記述をみると，全般的に自身への評価を厳しくして判断している学生が多いようである。学生自身の努力は勿論であるが，教員の方も学生が自信を持てるような工夫する必要がある。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない

４．そう思わない　５．全くそう思わない

［生物機能科学専攻］

2　自分で考えるという点が足りないと思うから

3　学部のころよりは知識が身についたと思うが，修了者として充分なほどかと考えると，基準がわからない

［応用生命工学専攻］

2　より深く物事を考える時間がとれた　勉強できる時間もたくさんあり，知識も増えたと感じる

3　就職活動の時期が長引き，研究に集中できなかったため

3　自分の勉強不足を強く感じるため　専門分野については，ある程度知識案身につけることができた　しかし，他の専門分野についての知識は，授業で少し得ただけなので自信はなし

3　もっとやりたかった　でも，もうしたくない気持ちも大きくある　複雑

4　自分の勉強不足を強く感じるため

4　専門知識だけに偏っているため

［生物生産科学専攻］

2　入学前に比べスキルが上がったと思うから

2　自力で頑張ったが，就職できなかったです

2　学部生の時に比べたら確実に知識は増えた　英語論文も苦手だったが，以前より読めるよう

になった
2　専門知識が結構勉強になりました
3　何も学ばなかったわけではないが他の学生に比べ不足しているという思いもある
3　スキルは身についた気がする　（プレゼンや計画→実行→反省の流れとか）
3　授業はためになった
3　研究に身が入らなかったから
4　専門外の知識が身に付いていない
4　自分の分野についてのことしかわからないし，活かすこともなさそう

［地域環境科学専攻］
2　視野が広がり，様々な視点からものを見られるようになった
2　学部時代にわからなかったことが大学院で勉強したことで理解できるようになったから
3　自分の先輩はもっと勉強していたため

肯定的評価の回答では，研究面での専門知識や成果に基づく理由やプレゼンなどのスキルアップを挙げられているのに対し，「どちらとも言えない」や否定的評価では，「学部のころよりは知識が身についたと思うが，修了者として充分なほどかと考えると，基準がわからない」や他者と比較し努力不足である等，厳しく自己評価をして「どちらとも言えない」と答えた学生も多くいたと思われる。

設問 18.（1）本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を次の項目の中から一つ選んで下さい。
1. 学生に対する教員の指導方法　2. 授業の方法　3. 成績評価の方法
4. 補習授業　5. 教育・研究設備　6. 就職支援　7. 生活相談
8. 経済支援（奨学金など）　9. 健康相談　10. 留学生への援助
11. 身体障害者への支援　12. その他（　　）
13. 特に問題は無い

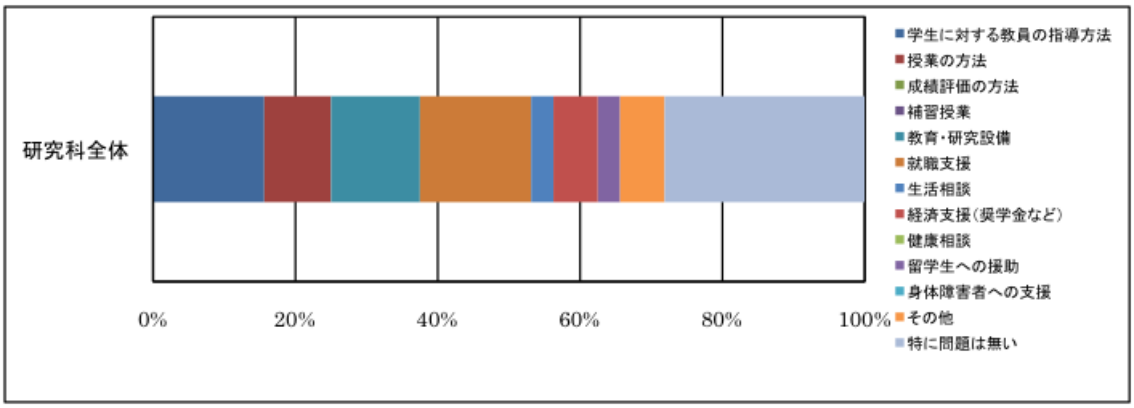

図 17. 早急に改善すべき点

研究科全体で見ると，「特に問題は無い」が 28%で最も多かった。改善すべき点としては，「1.

学生に対する教員の指導方法」「6．就職支援」がともに 16%で最も多く，次いで「5．教育・研究設備」をあげた学生が 13%であった。上位 3 項目は昨年度と変わっていないが，特筆すべき点は「6．就職支援」が最も多い項目になったことである。設問 16（1）結果と連動しているが，今後の最重要課題のひとつであろう。「学生に対する教員の指導方法」は昨年度より 7 ポイント減少してはいるが，特に応用生命工学での減少が顕著であるが，上位項目であり改善に努めなければならない課題である。

（2）上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

［応用生命工学専攻］

1　傷つけることは言わないでほしい　人によって態度がちがいすぎる　もう思い出したくもない

6　特に何もしていただかなかったため

6　就職支援といっても，実際活用できるものがなかった　就職支援センターでは，就職活動の情報が，自分よりも少なかった　就職支援センターの使い方がわかりづらかった　教員の学生の指導について，教員はもっとかんがえるべき　就職活動への理解がまだ低い

7　何か問題が起きたとき，きちんと双方の意見を聞いて解決に導いてほしい　話を聞く気もなくただ謝罪がほしいのであれば，最初にそう言って欲しかった　（個人的な意見です）

8　事務の対応が雑

［生物生産科学専攻］

1　もっと厳しく指導すべきだ

1　事務的な連絡ぐらいはせめてもっと早くしろ

2　その年の学生のレベルに合わせて下さい　先生方が毎年同じことを教えるのはいかがなものかと

2　もっと詳しいガイダンスが欲しいです

5　実験室がもっと欲しい

5　標本室が狭い

5　もっと厳しく指導すべきだ　強制的に勉強せざるを得ない環境にいたら，勉強してたのかなと思うので，環境から整えていただけると良いかと思いました

6　専門分野関係（環境コンサル etc）が少ない　根本的に求人が少ないのも分かるが，もう少し情報が欲しい

6　就職情報はメールで送ってほしいです

10 留学生の経済支援がもっと多くして欲しいです

12 どの分野の単位をどの時期にどのようにどれだけ取得すればいいかが学部生・院生時代どちらにおいてもすさまじくわかりづらい　シラバスを読んでもよくわからない

13 （研究施設は研究室単位になってしまうので）所属した研究室に特に不満はありませんでした

［地域環境科学専攻］

6　情報が掲示板だけというのは足りないかと

大学院生としての厳しさのある指導を求める声や学生に対する言動への批判等が見受けられ，教員は指導に関してさらに努めていかなければならない。また，事務連絡，就職支援，経済支援に関しての批判にも耳を傾けなければならない。いずれも重要な課題であり，得られた傾向を踏まえて改善を図る必要があるだろう。

設問 19. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために，希望する点や，大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

［応用生命工学専攻］

- 夏場は冷房を入れるべき
- 事務の対応が雑
- 本大学は，他大学との交流が地理的に少ない　そのため，情報が非常に少ないと感じた　大学生だからこそ挑戦できる事などに出会う機会が少ない　就職活動を通して，そういった貴重な経験が，大事であることに初めて気がつかされた　これは，学生本人の問題であるかもしれないが，大学側としても，何か出来る事があると思う　（例えば，留学をすすめる，他大学の情報提供，イベントへの参加など）本研究科としては，活発に研究が行われていると思う　研究室や選考をこえた交流が出来れば，さらに良い研究生活が送れると思う
- 教員も就活の勉強をすべき　結果だけで評価しないで

［生物生産科学専攻］

- 修了単位の認定基準をもっと厳しくするべき
- もう少し学業以外（サークル，部活棟）の分野にも目を向けてほしい　有名な所はともかくマイナーな所はほぼ目が向けられていないと思う　私は活動に当たり駐車場関係でとても困った
- 無駄な設備にお金をかけすぎだと思います
- 必修科目で卒業単位をおとすことで卒業出来ない人を減らす手助け（本当は本人がやるべきですが）をして欲しい
- その学生次第だと思うので，多様性があるといいと思います　特に不自由と思ったことはありません
- 先生を替える
- コラボ弘大をもっと有効活用できればいいのにと思います　（飲食店のテナントや本屋，より広い図書室が入るなど）・ネット上で読める論文が限られている　もっと読めるようにしてもらいたい（最新の研究データが知りたいので）

回答は多種多様であるが，冷暖房の利用の要望や大学が行っている組織改革や設備投資（コラボ弘大）の方向性に疑問を感じている学生もおり，より充実した学生生活をおくれるような大学運営上の課題も指摘されている。また，地理的な不便さを埋めるような大学側の運営課題もあげ

られている。

設問 20.（１）総合的に判断して本研究科・専攻の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

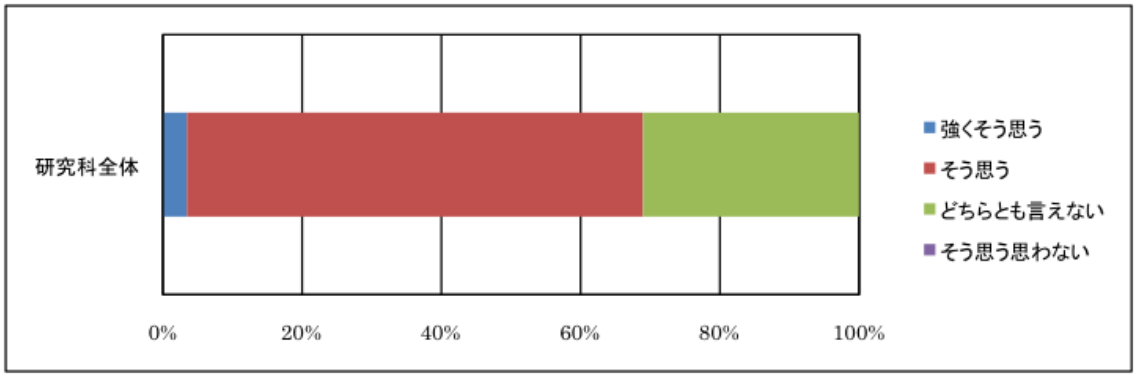

図 18. 本研究科の教育研究に対する取り組みに満足か

肯定的評価は，研究科全体では 69%，「どちらとも言えない」が 31%であった。肯定的評価は昨年度，一昨年度とほぼ変わっておらず，一方で昨年度 11%であった否定的評価は今回みられなかった。

（２）上記のように回答した理由を記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない
４．そう思わない　５．全くそう思わない

［生物機能科学専攻］

3　研究してないとこはもっとやった方がいいと思う　週一とかありえない

［応用生命工学専攻］

2　互いに，いい刺激を与えあえるような環境だったため
2　特に不満はないため
2　実績も上げている研究室もあるので，いいと思う　あとは教員とそこの学生のやる気の問題だ
2　大学としては充分だと思う
2　研究については，非常に良い環境　研究設備が整っており，人が少ないので，思う存分使える　また，あすなろ賞があることで，さらに研究の意欲がわく　学会参加も積極的で良いと思う　他の専攻での研究などについて知る場があれば，さらにおもしろいと考える
2　互いに，いい刺激を与えあえるような環境だったため
3　教員のあり方をもっとしっかり

［生物生産科学専攻］

1　添付資料で知りましたが，壮大なスケールの目標があって，それに向けて研究できたことは満足です

2　不満はあまり感じていないため　設問 18 くらい
2　先生方の指導が良いから
2　良い指導教員，副指導教員に研究に関する意見をもらえ，恵まれていたと思うから
2　他大学院を知らないので，学生からみると良かったと思います
2　大学一年生の時に比べたら，学生実験室の設備が充実し学生実験にも力を入れるようになったと感じた
2　勉強になった学生生活でした
2　特に問題になることが見当たらないから
3　閉鎖的

［地域環境科学専攻］
2　地域社会に貢献する様な取り組みも数々あり，そのような姿から様々学べた
2　有意義な大学院生活を送ることができたため

肯定的評価では，「良い環境・研究設備で研究できた」「互いに，いい刺激をうける環境」「自身の充実感」等，教員の研究指導の良さ，設備や人の周辺環境の良さあるいは自分の努力に対してなど総合的な充実感，という観点から捉えた回答理由が多いのに対し，「どちらとも言えない」と答えた学生は，他の研究室として比べて，研究活動への取り組み姿勢に温度差があると感じているようである。一方で否定的評価は見受けられなく，総合に判断して満足している学生が多かったことが伺える。

Ⅲ．教員対象授業アンケート（学部授業および研究科授業）

１．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部および研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，学部および研究科の授業に関する教員の意識について調査することを目的にアンケート調査を実施した。

調査方法：各教員にアンケート用紙を配布することで調査を行った。各教員が担当している授業のうち最も重要と考えられる学部専門教育科目，研究科講義科目それぞれ１科目の合計２科目について回答してもらった。

調査対象：平成 24 年３月に学部，研究科および生物共生教育研究センターに所属の教員とした。

調査期間：平成 24 年３月 19 日～３月 30 日

教員数：70 人　回答者数：　52 人(学部)，66 人　回答者数：44 人(研究科)

調査項目：設問は以下の通りである。

『学部授業および研究科授業に関する調査』

設問 1．あなたが所属する学科等を選択して下さい。

設問 2．授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

① 予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます）

② 実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます）

設問 3．休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

設問 4．① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

② 上記で，「３.」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

設問 5．① 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

② 上記で，「２」または「３」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

③ 上記の場合で，シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

④ 上記の設問③で「１」と回答した方は，その具体的な事例を教えて下さい。

設問 6．学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

設問 7．学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

設問 8．成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

設問 9．教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

設問 10．このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

２．学部授業に関する調査結果

設問１．　あなたの所属学科をお答え下さい。

表 1．回答率

	教員数（人）	回答数（人）	回答率（%）
学部全体	70	52	74
生物学科	14	8	57
分子生命科学科	14	10	71
生物資源学科	13	8	62
園芸農学科	15	13	67
地域環境工学科	10	9	90
生物共生教育研究センター	4	4	100

学部全体の回答率は 74%で昨年度（77%）より 3 ポイント低下した。

設問 2．授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

(1)　予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

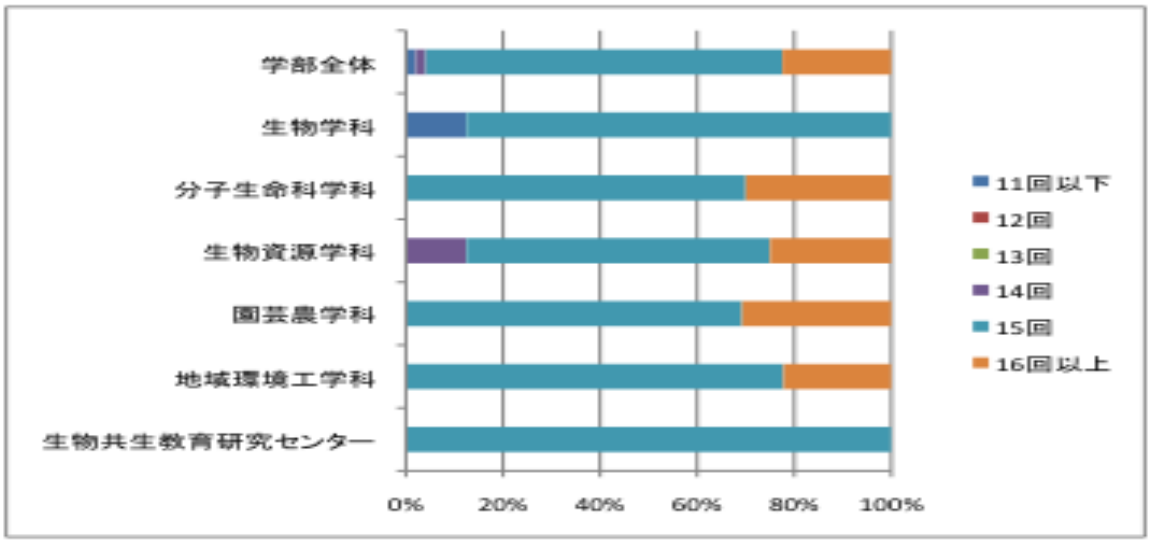

図 1(1)．授業予定回数

毎週定期的に行う授業の規定回数は 15 回となるが，学部全体では 74%がその通りの回答となった。また，16 回以上とした回答が，昨年度では 3 件であったが本年度では学部全体で 11 件あり 22%であった。14 回とした回答は，生物資源学科で 1 件あった。また，11 回以下とした回答は 1 件であった。

(2)　実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

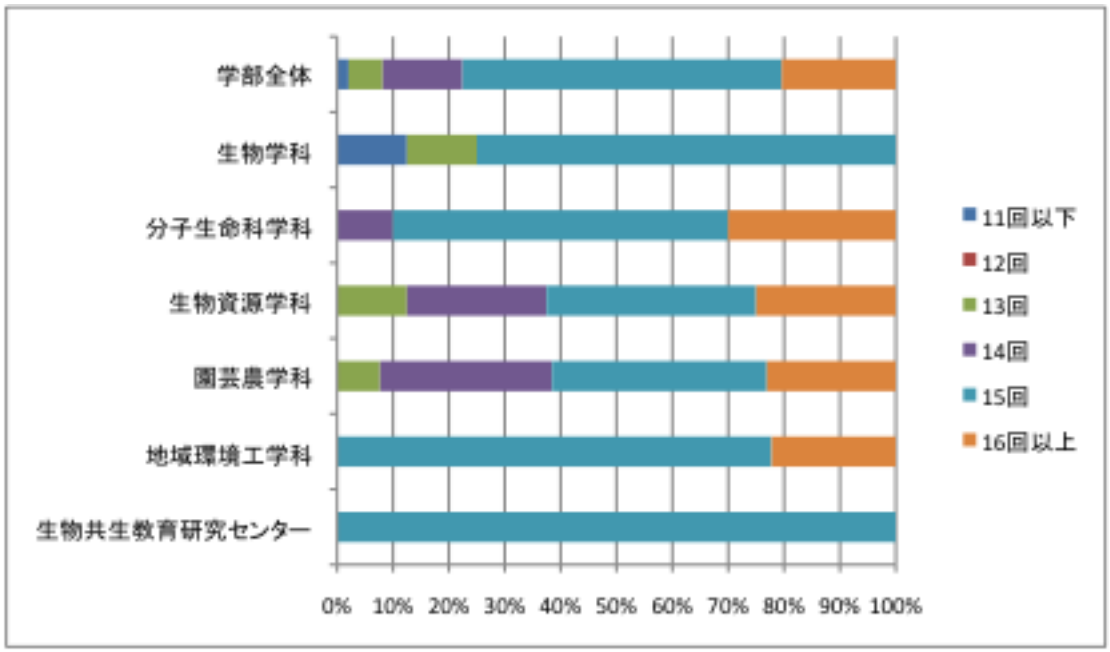

図 1(2)．授業実施回数

授業実施回数が予定回数に達していない科目は，地域環境工学科を除くすべての学科で認められた。学部全体で 15 回実施された講義は 57%であり，昨年度(77%)より 20 ポイント下がった。16 回以上とした回答が昨年度では 3 件であったが，本年度では学部全体で 10 件あり 20%であった。きちんと 15 回あるいはそれを上回って 16 回以上実施された講義は，生物学科では 75%，分子生命科学科では 90%，生物生資源学科では 63%，園芸農学科では 62%，地域環境工学科では 100%であった。なお，14 回とした回答が 7 件，13 回とした回答が 3 件、11 回以下とした回答が 1 件あった。

設問 3．休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

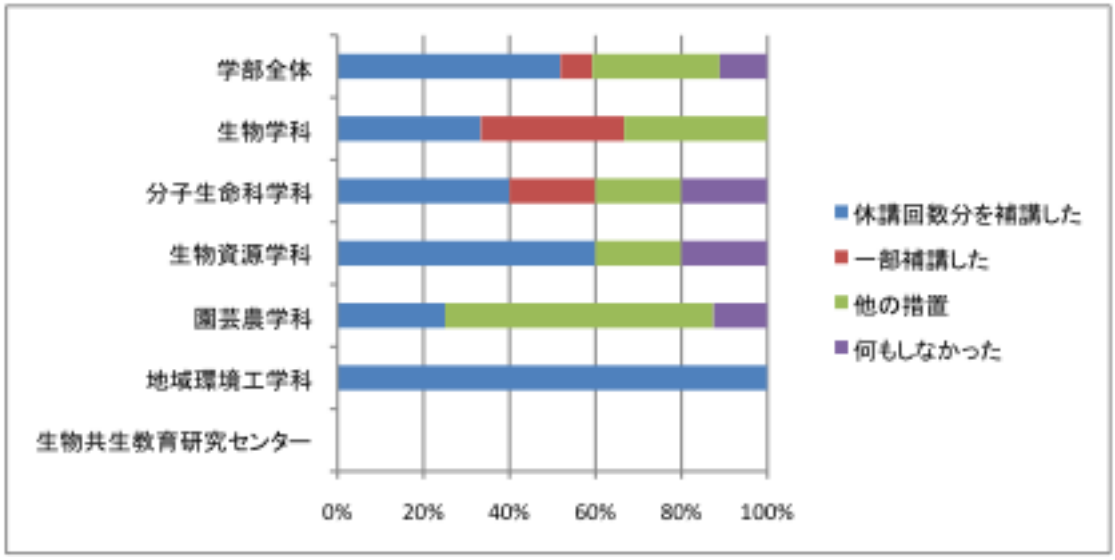

図 2．休講の代償措置

休講にした場合，補講などの代償措置がとられたのは，学部全体では約 89%であった。この比率は昨年度（約 91%）より約 2 ポイント減少したが，休講した場合は何らかの代償措置を講じることが望まれる。また一方で，16 回以上実施された講義があったため，講義を規定回数で実施することも望まれる。

講じた代償措置

［生物学科］

・　課題を出し，調査させレポートを提出させる形の自主研究にとりくんでもらった

［生物資源学科］

・　課題を与えた

・　レポート

［園芸農学科］

・　レポートを課した

・　課題を課した

設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

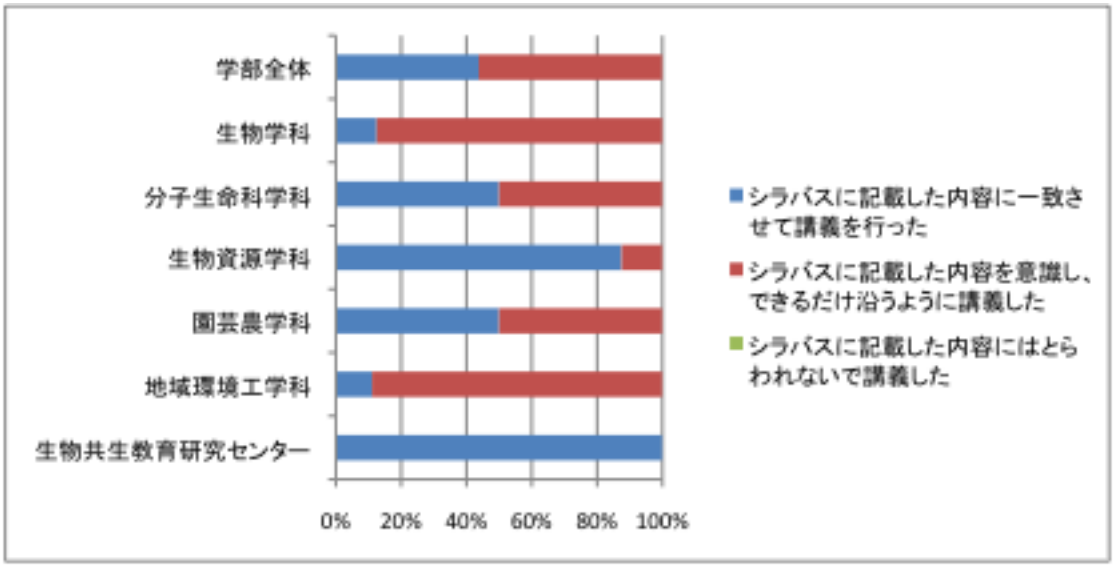

図 3. シラバスと実際の授業の一致度

学部全体でみると，「一致」と「できるだけ一致」の回答は，それぞれ 44%と 56%であり，シラバスに沿った講義が概ね行われている。なお，「とらわれない」の回答は 0%であった。「一致」の回答が，生物資源学科で 88%と最も高く，地域環境工学科では 11%であり，学科間で大きな差が認められた。

(2) 上記で，「3. 内容にはとらわれないで講義した。」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

・　（回答なし）

設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。

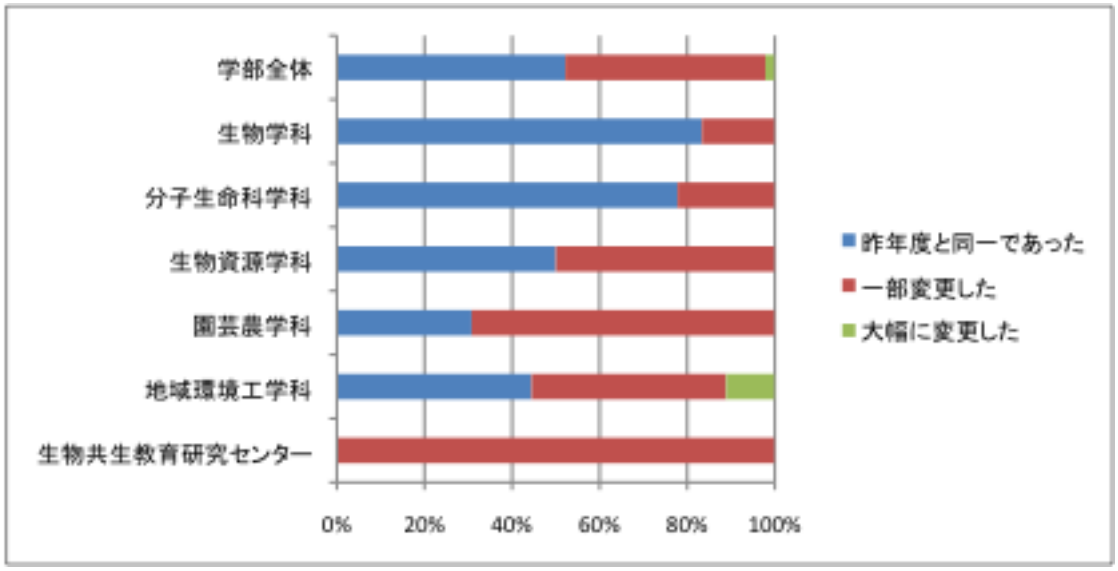

図 4(1)．昨年度のシラバスとの比較

シラバスが昨年度と「同一」であった授業の割合は学部全体で 52%と昨年度(約 57%)と比べて約 5 ポイント減少した。また，「一部変更」の回答は，学部全体で 46%であり，昨年度(約 43%)よりも約 3 ポイント上昇した。「大幅な変更」との回答は 1 件のみであり，これらのことから昨年度のシラバスをあまり大きくは変更していない傾向が認められた。

(2) 上記で，「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

［分子生命学科］
2　より学生の理解が容易になるよう内容を整理し，順序を変えたりした
2　学生の興味・理解度向上のため

［生物資源学科］
2　新たな重要項目をそうでなくなった項目と入れ換えた
2　最新の分析技術の原理を説明するため
2　新しい内容を入れた

［園芸農学科］
2　新しい情報を取り入れた
2　科目に関連した情勢の変化に対応した
2　16 回にしたのでその対応
2　昨年度の進捗に合わせて修正しました

2　16 回授業に対応させたため
2　最新の内容を追加した
2　授業改善のための変更を行ったため

［地域環境工学科］
2　より内容が適切になるよう改善するため
2　数・物理科目の高校時の履修状況や学生の習熟度をもとに内容の入れ換えを行った
2　休日との関係で講義の進み方が違う　正月向けのレポートを課しているので，その説明をしなければならず，一部変更した
3　担当教員が変更したため

［生物共生教育研究センター］
2　授業回数が 14 回から 15 回に増えたのに伴い，授業内容を増やしたため

以上から，シラバスには大幅な変更は加えられていないものの，学生の理解度やこれまでの履修状況あるいは学問分野の進展や現状を踏まえ各教員が適宜改訂しているものと判断された。一方，単位の実質化に伴う 16 週授業展開に対応するための変更が行われていたことも本年度の特徴といえよう。

(3) 上記の場合で，シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

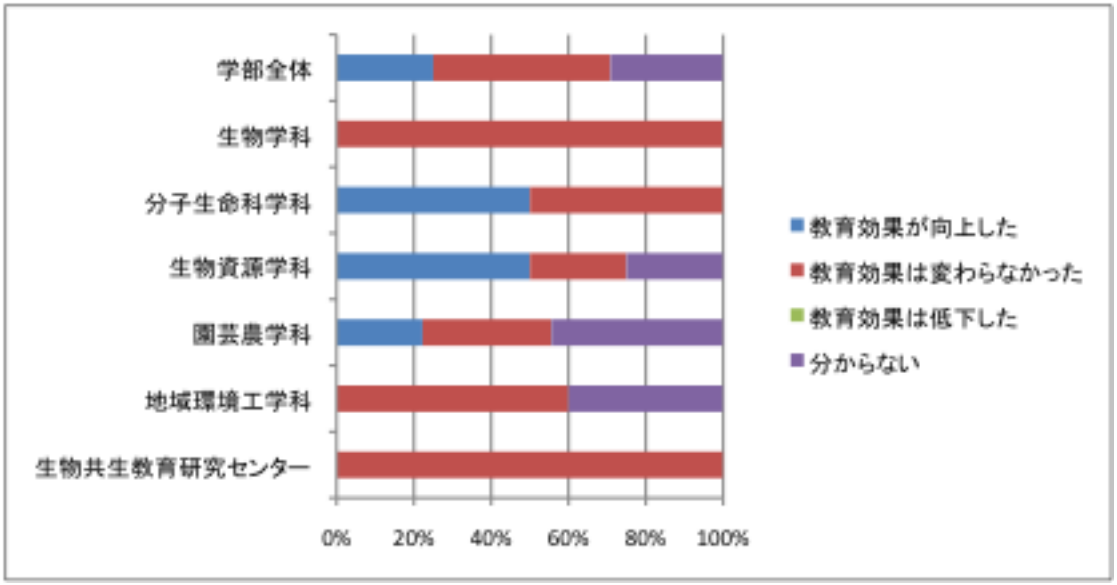

図 4(2)．シラバス変更の効果

シラバス変更の理由・目的は，その多くが授業改善にあるが，「教育効果向上」の回答は，学部全体で 6 件(25%)である。学部全体での「変わらず」と「わからない」との回答は，それぞれ 11 件(46%)と 7 件(29%)であり，シラバスの変更が教育効果向上に寄与していない場合もあることが認められた。

(4) 上記の設問３で「１．教育効果が向上した」と回答した方は，その具体的な事例を教えてください。

［分子生命科学科］
- 試験の正答率が上がった
- 期末試験の記込内容が良くなった

［生物資源学科］
- 大いに興味を示して聴講してくれた

［園芸農学科］
- 学生のアンケート・自由記述で評価する記載があった

一方，4. 分からないと回答し，以下のような意見も出された。

［地域環境工学科］
- 学生にシラバスを説明してるが，学生自身がシラバスをどのようにとらえているのか？
- 1 年では結論はでないと思う

設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

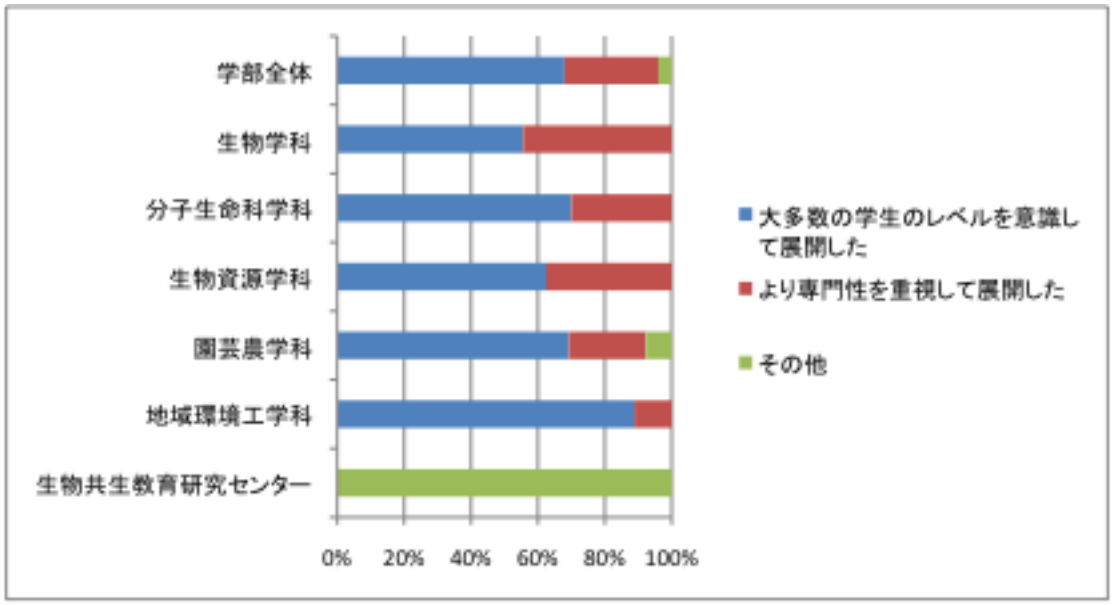

図 5. 講義展開の考え方

学部全体では，「学生のレベルを意識して講義を展開した」との回答が 68%で，「専門性を重視」の 28%よりはるかに高く，学生のレベルを意識している傾向が強い。

「その他」の回答

［生物資源学科］
・　他大学と同程度のレベルとした

［園芸農学科］
・　必要と考えることを優先して展開したつもりです

［生物共生教育研究センター］
・多くの学生にとって将来基礎知識として役立つかどうか意識した

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

1. **視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用**
2. **画像データ（OHP，スライドプロジェクター，プレゼンテーションソフトなど）の提示**
3. **授業の合間に質疑や討論の時間を設けた**
4. **小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた**
5. **宿題（レポートを含む）を課した**
6. **その他（　　）**

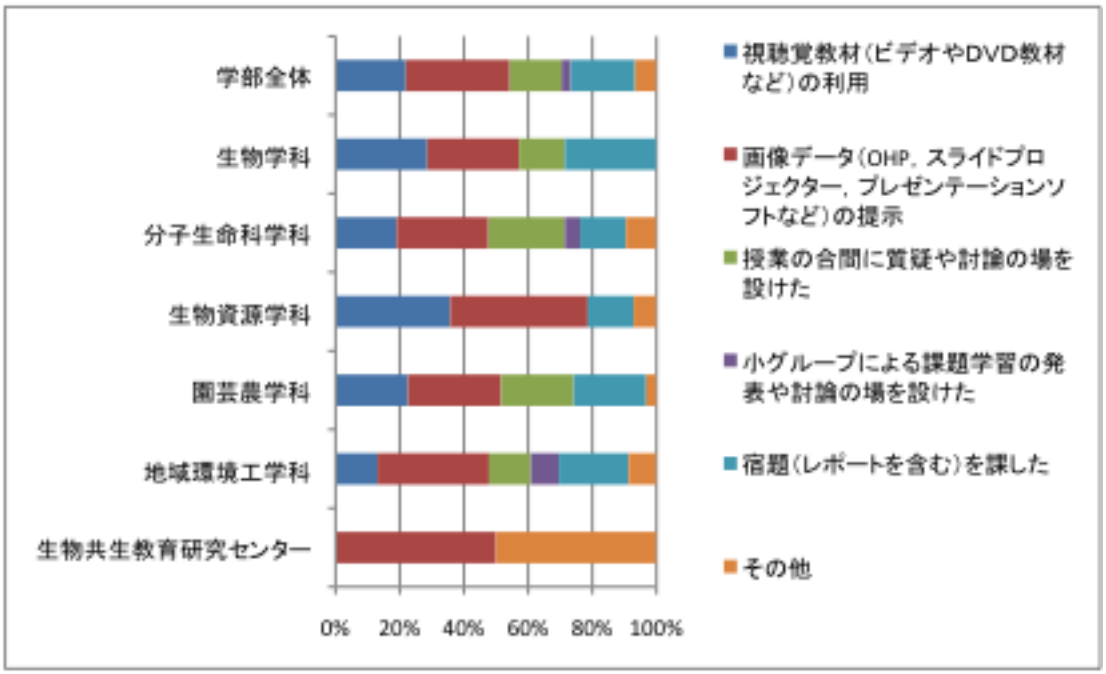

図 6．授業の工夫

全体として授業の工夫は行われており，学科全体では，「画像データ」(32%)，「視聴覚教材」(22%)の利用，宿題（レポートを含む）を課す(21%)が多かった。学科別では，園芸農学科で「質疑・討論」が講義において他学科よりも多くなされていた。また，「発表・討論」が，地域環境工学科および分子生命科学科で僅かではあるが実施されていた。

「その他」の回答

［分子生命科学科］
・　3 次元表示など，きれいなスライドを作って興味を引かせる事を目指した
・　配布資料（プリント）配布

［生物資源学科］
・　Web 情報での予復習

［園芸農学科］
・　小テストを実施した

［地域環境工学科］
・　模型の利用
・　可能な限り速やかに総合成績の基礎になる個別の成績を学生に伝達する
・　学生の目の前で簡単な実験や実演をさせた

［生物共生教育研究センター］
・　授業の終わりに，キーワードを 3 つ記入させ提出してもらっている

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

［生物学科］
・　レポート評価，テスト等のデータを保管して対応している
・　話を聞く
・　学部のとりくみに従っている　（特に前例がないので対応経験はない）
・　問い合わせに来た学生には丁寧に点数の理由を説明

［分子生命科学科］
・　具体的にデータを示し，説明している
・　本年度は問い合わせ等はなし　講義の中で異議申し立てができる制度がある事は話している
・　疑義の申し出に対しては，内容を聞き必要とあれば答案を再度本人の前で採点する　こちらに落ち度があれば速やかに修正を申し出て本人に納得してもらう
・　答案を見せて説明する
・　納得する説明を心がけている
・　物事の表面にとらわれることなく，本質を追求するように指導する
・　答案はすべて返却

・　答案を見ながら（示して）出来なかった所の説明をし，どこが悪かった点について指摘する　文章問題では，ほとんどの学生は日本語ができていないので，そのことを注意するよう促している
・　試験解答用紙を見せながら解説し，理解できていない部分を指摘する
・　点数の公表と解説

［生物資源学科］
・　疑義を持つ者には，答案を示して説明する
・　試験の解答用紙を返却してるため，採点に疑問のある場合は，回答用紙を示しながら説明・解説している
・　テストの返却
・　答案を返却するとともに，正解と採点基準を説明し，疑義照会と遠慮無く行うよう案内している
・　採点基準を明確に最初の講義で学生に伝えるようにしている　今のところ成績評価について疑義を受けたことはない
・　実際に採点したテスト回答を見せて，配点内容を説明する
・　そのような経験は今までにない
・　基準の明確化

［園芸農学科］
・　これまでに直接疑義を持つ学生はいなかった
・　出席状況とテスト結果について，説明できるようにしている
・　評価の元となるデータ（根拠）の管理
・　学部の規程どおりに対応している
・　採点基準などを開示する
・　口頭で詳しく説明する

［地域環境工学科］
・　成績を返却，説明している
・　教務の相談窓口に行かせている（シラバスに記載させている）＊アンケート設問を変更する必要がある
・　学期末に 1 人ずつ試験結果と評価の理由を説明し，答案等を返却しているので，疑義は受けたことがない
・　答案を返却し，かつ授業基準の解説等を行った
・　15 週目に試験を行い，16 週目に答案返却　その説明を行っている　疑問があれば，その時に受け説明（点数も含め）している
・　当該表に至った理由をきちんと学生に説明した

［生物共生教育研究センター］
・　本人のテストの成績を，平均点・得点分布などと共に説明している

昨年同様，成績評価に疑義を持つ学生に対して評価基準を示して説明する等多くの教員は積極的に対応している。しかし学生アンケートの結果では，教務窓口での対応や制度あるいは教員の対応などに対して問題点の指摘や不満も認められるため，今後も制度の確認や見直しも含めた検討が必要であろう。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

［生物学科］

・ 不正〇為対策（重要だと思う）筆記試験，レポートとも

［生物資源学科］

・ このままでよい

［園芸農学科］

・ 学生の能力をはじめとする様々な変化への対応や工夫

［地域環境工学科］

・ この講義で取り扱わなければならないテーマを意識しているか学生が興味を持ったテーマ，パワーポイント事例等

設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

［応用生命工学科］

・ 「卒業・修了生アンケート」結果が一方的なので，それに対する反論を書きたいと思うことがある
・ 講義の内容を「廊下」等から見られるようにすれば，人の講義の良いところを盗む事ができる

［生物資源学科］

・ 実施する必要はない　ムダである

［地域環境科学科］

・ 学生が感じている講義内容，進み具合，やり方等は講義する例との隔たりや誤解がある学生もいる。教員と学生のデスカッションも必要かな？

３．研究科授業に関する調査結果

設問 1．あなたが所属する学科等を選択して下さい。

表 1．回答率

	教員数（人）	回答数（人）	回答率（%）
研究科全体	66	44	67
生物機能科学専攻	12	6	50
応用生命工学専攻	15	9	60
生物生産科学専攻	24	16	67
地域環境科学専攻	15	13	87

研究科全体の回答率は，67%であり，一昨年度(77%)や昨年度（76%）よりも低かった。今後，回答率を高めるための工夫が必要である。

設問 2．授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。

(1) 予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

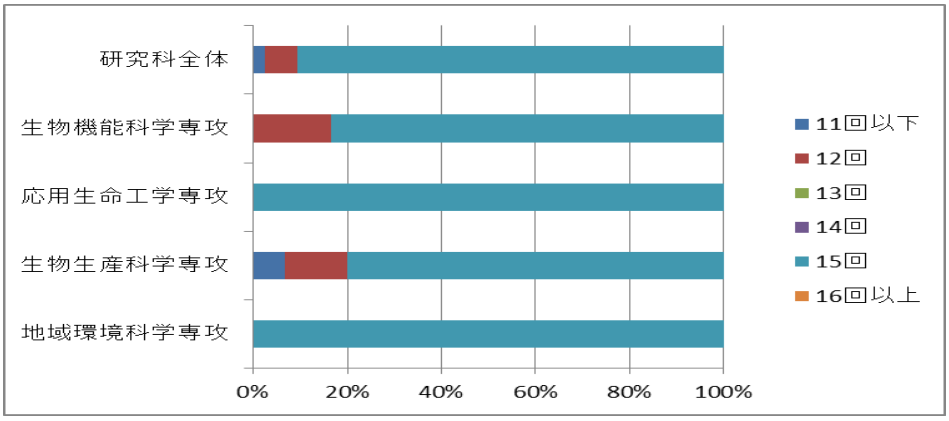

図 1(1)．授業予定回数

授業予定回数を規定回数である 15 回と回答した教員は，研究科全体では 91%で，昨年度(85%)よりも 6 ポイント高くなった。

(2) 実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）

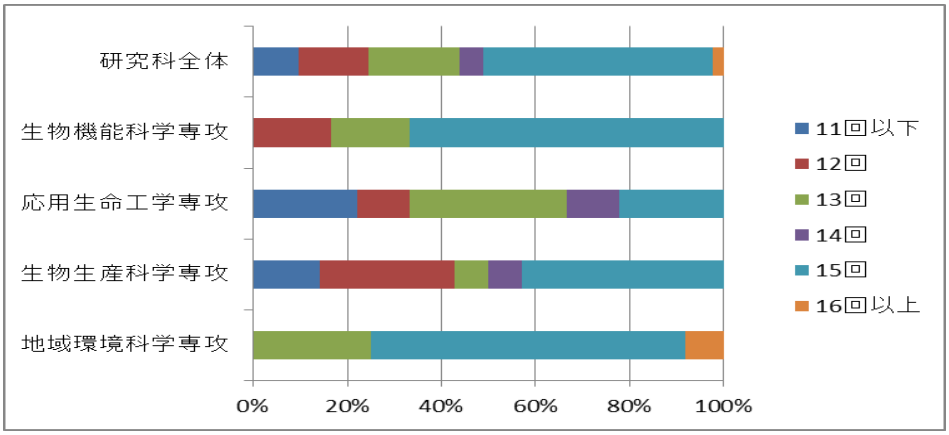

図 1(2)．授業実施回数

授業実施回数が 15 回の割合は，研究科全体では 49%であり，昨年度(40%)より 9 ポイント上昇した。研究科全体で，14 回が 5%，13 回が 20%，12 回が 15%，11 回が 10%，16 回以上が 2%であり，学部と比較して規定回数通りに講義が実施されていることが多かった。専攻別では，15 回の実施率が，地域環境科学で 67%と最も高く，応用生物工学で 22%と最も低く，学科間で大きな違いがあることが認められた。

設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。

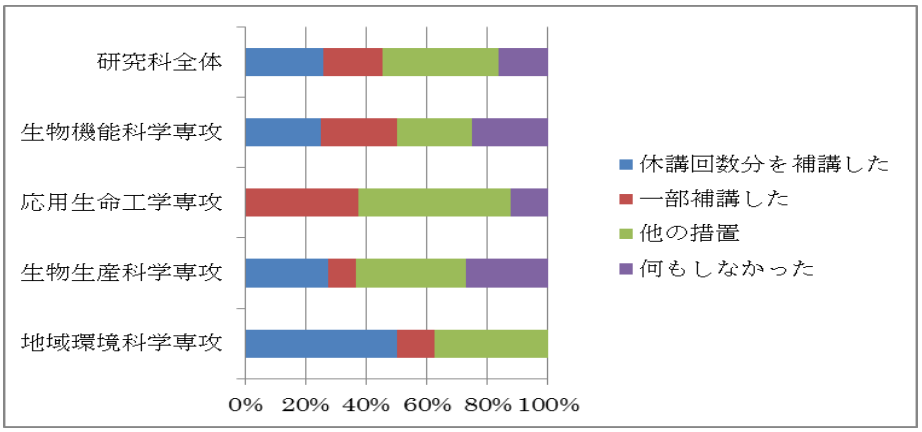

図 2．休講の代償措置

研究科全体で「補講した」との回答は，45%であり，昨年(77%)と比較して 32 ポイントも低下した。しかし，「4．何もしなかった」とした回答は，16%であり，昨年(23%)と比べて低下，「3．他の措置」とした回答は，39%であり，昨年度よりも増加した。

[生物機能科学]

- レポート。

[応用生命工学]

- 希望者に分析器機を使わせ，分析させた。
- レポート提出。
- 5 回分に相当するように課題をだしてレポートを提出させて評価した。
- 就活で出席不可。
- 発表の準備。

[生物生産科学]

- レポートを課した。
- 課題の提示。
- 課題を与えて自習させた。

［地域環境科学］

- 課題を出した。
- レポート。
- 現地の見学等。

設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。

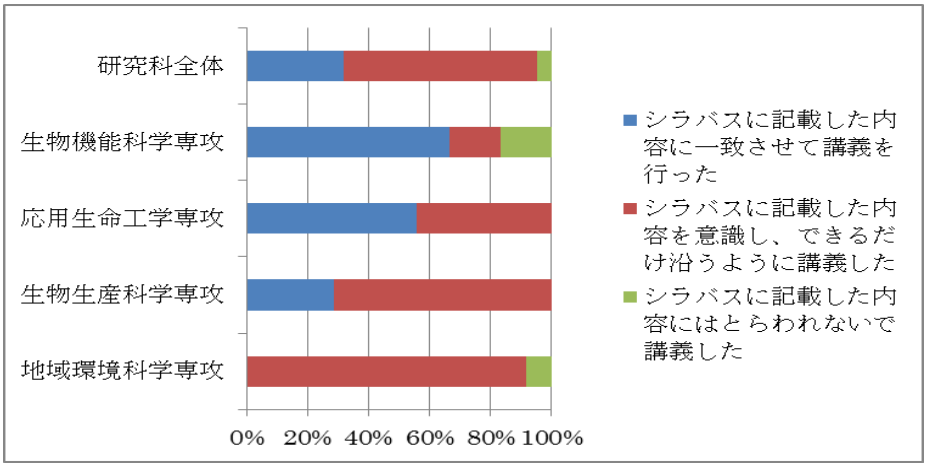

図 3. シラバスと実際の授業内容との一致度合

研究科全体で見ると，「シラバスと一致」，「できるだけ一致」と合わせると 95%となり，昨年度(96%)と同様に概ね教員がシラバスに準じた講義が行われていた。

(2) 上記で，「3. 内容にとらわれないで講義した」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。

［地域環境科学］

- 基本的な知識が低かったため学部学生の講義を聞かせた。その上で調査データの整理方法などを指導した。

設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は前年度と同一でしたか。

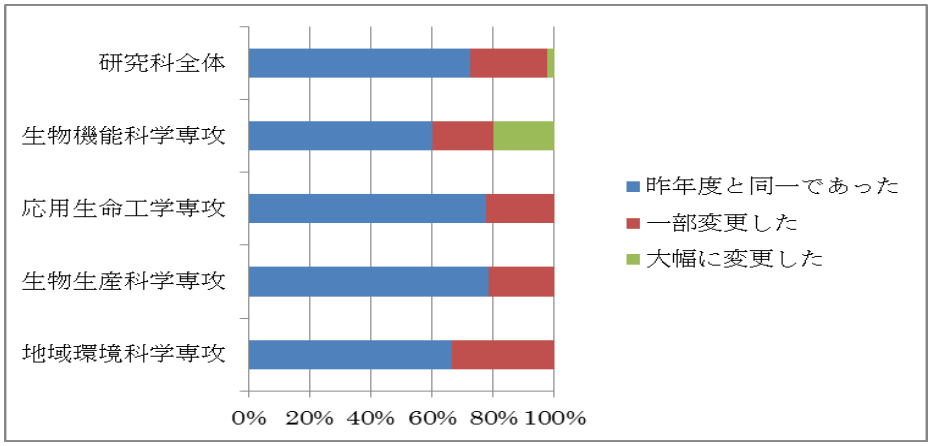

図 4. 前年度のシラバスとの比較

研究科全体では，「昨年度と同一」と「一部変更」がそれぞれ 73%，25%であった。それらの合計は 98%であり，昨年度(96%)と同程度であった。「大幅に変更」は全体で 1 件(3%)であり，作年度と同様にシラバスを大きく変更しない状況が認められた。

(2) 上記で，「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。

［生物機能科学］
2　新しい話題を加えた。

［応用生命工学］
2　学生の専門性に配慮し，より親近感のある話題を選んだ。
2　新しい論文，方法論などを取り込んだため。

［生物生産科学］
2　最新の内容を追加した。
2　実情にあわせた。

(3) 上記の場合で，シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。

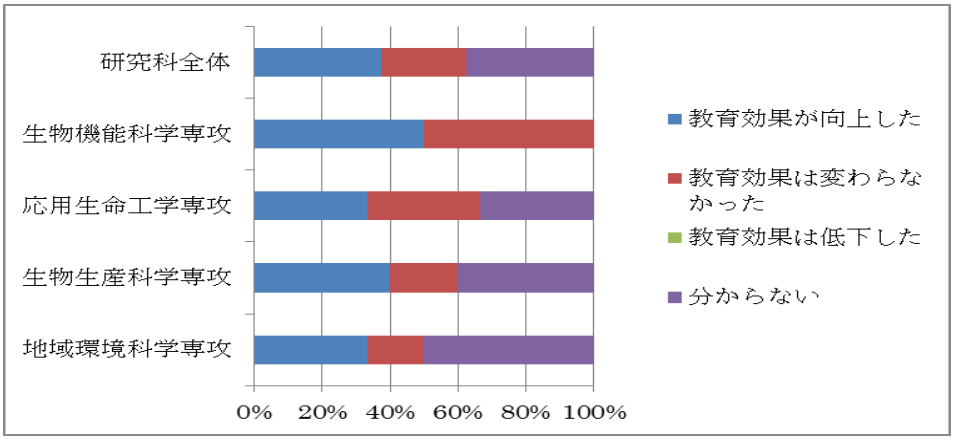

図 5．シラバス変更の教育効果

シラバスを変更した理由・目的の多くは授業改善のためであるが，「教育効果が向上した」と回答した件数(率)は，研究科全体で 6 人(38%)であった。「変わらなかった」および「分からない」と回答した件数(率)は，それぞれ 4 人(25%)と 6 人(38%)であり，シラバスの変更が必ずしも教育効果の改善に寄与していないことが認められた。

(4) 上記の設問(3)で「１．教育効果が向上した。」と回答した方は，その具体的な事例を教えて下さい。

［生物機能科学］

・　興味を示した学生が増えた。

［応用生命工学］

・　授業の参加態度（Q&A など）が向上した。

［生物生産科学］

・　担当科目の内容に対応させるために，特に必要性を感じなかったため。

設問 6. 大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。

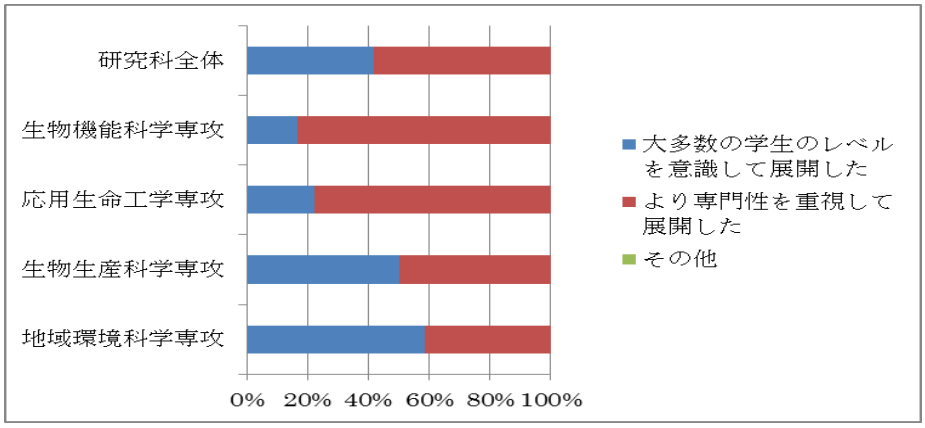

図 6. 講義についての考え方

研究科全体では，「専門性を重視」とした回答が 58%であり，昨年度(48%)と比べて 10 ポイント上昇した。研究科では，学部(28%)と比較してより専門性を重視して授業が行われていることが認められた。特に，生物機能科学専攻と応用生命工学専攻では，「専門性を重視」とした回答が，それぞれ 83%と 78%であり，他の専攻と比べて高かった。

「その他」の回答

［生物生産科学］

・　学生の希望やアイデアなどもとり入れるようにしました。

設問 7. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。

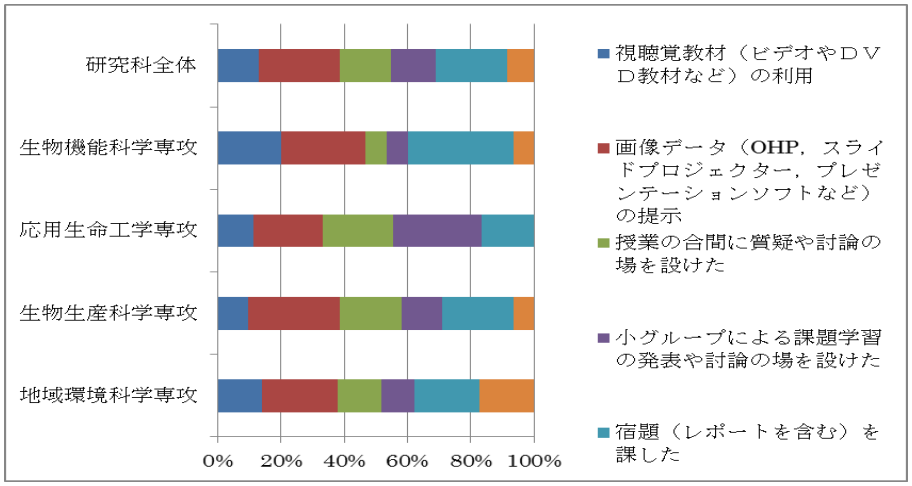

図 7. 授業の工夫

研究科では「質疑や討論」と「発表や討論」が，合わせて 30%であり，昨年度(38%)と比べて 8 ポイント減少したが，学部(19%)と比較して重視されていることが認められた。「画像データ」が研究科全体で 26%と最も多いが，全体として学生の理解度の向上を図るための諸種の工夫が行われているようである。

「その他」の回答なし。

設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。

[生物機能科学]

- 情報開示。
- 低い成績評価であった理由を具体的に説明する。

[応用生命工学]

- その様な学生に会ったことがないのでわからない。
- 大学院の場合は試験はやらずレポートなので申し出の内容を聞き，本人と話し合い納得してもらうようにしている。
- 出席やプレゼンテーションなどの内容について授業ごとの記録にもとづいて説明する。
- 学問の本質を追求するよう指導する。
- 講義の後半で，自分で調べた内容に関して発表させている。他の人の発表と自分の発表を比較すれば，自分の評価はおのずから明らかになる。
- 公開と解説。
- 修士課程でそのような例を聞いたことがないので何もしていない。
- 評価については特に疑義を受けたことがないが，受けた時のことを想定して，明確に点数化している。

［生物生産科学］

- 疑義ともつ院生に対しては，出席データ・レポートの添削を示して対応していく。
- 例なし。
- 出席状況とテスト結果について，説明できるようにしている。
- 評価方法についての説明をガイダンス時にしっかり行い，評価の根拠となる元（生）点を求められれば提示出来るようにしています。
- 学生が 2，3 人しかいないので，具体的に説明します。
- 口頭でくわしく説明する。
- 学生同士の発表の時間で，自らのおかれている相対的なレベルを意識させる。

［地域環境科学］

- 特に疑義が出たことはなかった。
- 平常より速やかに成績を伝達する。

設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。

回答なし。

設問 10. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。

回答なし。

Ⅳ　教員対象教育評価アンケート

１.アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，学部教育に関する教員の意識について調査することを目的とした。

調査方法：アンケート用紙を各教員に配布して調査を行った。学生に対するアンケートの設問と共通項目を設けた。

調査対象：平成 23 年 3 月の時点で学部・遺伝子実験施設および生物共生教育研究センターに所属する教員とした。なお，23 年 3 月で退職される教員は含めなかった。

調査期間：平成 24 年 3 月 19 日～3 月 30 日

有効回答者数：54 名

調査項目：設問は以下の通りである。

設問 1.　あなたの所属学科等をお答えください。

設問 2.　本学部および本研究科の理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3.　あなたが所属する学科・専攻等の教育目標を知っていますか。

設問 4.　本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

設問 5.　あなたが所属する学科・専攻等の教育目標は学部ホームページにあるとおりですが，学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）および専攻のカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。

設問 6.　あなたはシラバス作成時に，学科・専攻等の教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。

設問 7　① 授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。

② 何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合，あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。

設問 8.　本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。

① 学生による授業評価の信頼性についてどのようにお考えですか。

②授業評価の結果を授業の改善に利用していますか。

設問 9.　本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。

① この 1 年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい。

② 参加された活動は，教育改善に役立ちましたか。

設問 10.　担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をていますか。

設問 11.　① 本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

② 上記で「4.やや不充分」と「5.かなり不充分」を選択した場合，その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

設問 12.　① 卒業研究は必要であると思いますか。

② 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

設問 13. ① あなたの学科の大多数の卒業生は，本学部での教育により大学卒業生としての知識と学力を身に付けたと思いますか。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

設問 14. ① あなたの専攻の大多数の修了生は，本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

２．調査結果

設問 1. あなたの所属学科等をお答えください。

表―１　　回答率

	教員数(人)	回答数(人)	回答率(%)
学部全体	69	54	78
生物学科	13	8	62
分子生命科学科	14	11	79
生物資源学科	13	9	69
園芸農学科	15	13	87
地域環境工学科	10	9	90
生物共生教育研究センター	4	4	100

学部全体の回答率は 74%で昨年度（83%）より 9 ポイント下がった。今年度より 5 学科体制となったため，昨年度との学科別の比較はできない。

設問 2. 本学部および本研究科の理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

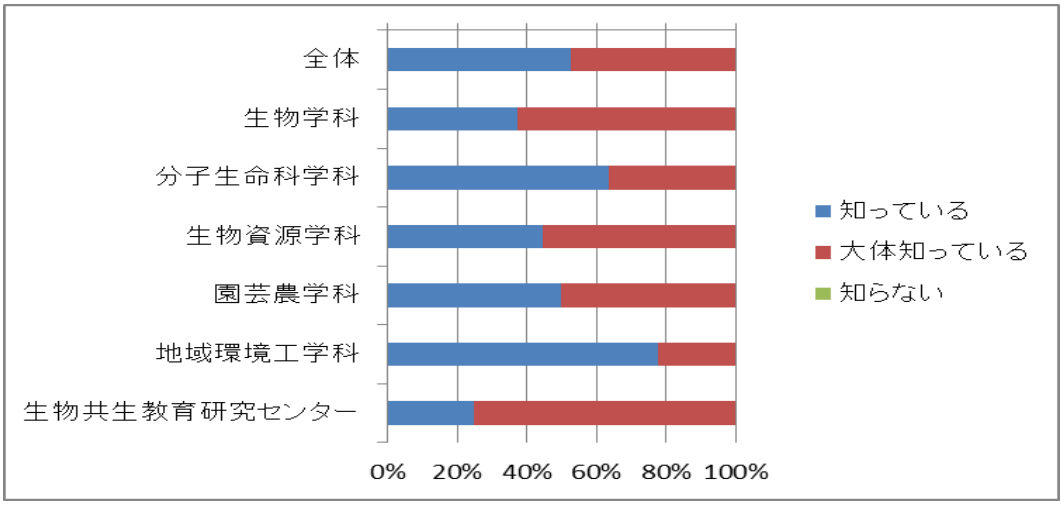

図１　本研究科の理念等の認識

学部全体で，「知っている」は 53%であり，「知らない」とする回答はなく，昨年度とほぼ同様である。その中で，生物学科は，「知っている」の割合が 38%，生物共生教育研究センターは 25%と低くなっている。しかし，昨年度に引き続き全教員が教育目的・目標を基本的に理解している結果となっている。

設問 3. あなたが所属する学科・専攻等の教育目標を知っていますか。

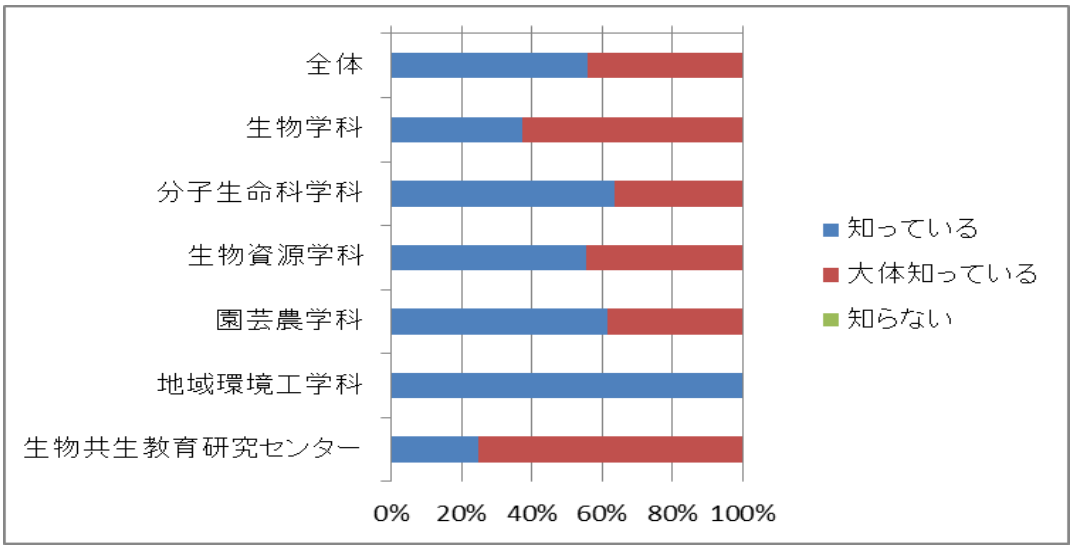

図 2　所属学科・専攻の教育目標の認識

「知っている」が学部全体で 56%であり，昨年度よりさらに 5%上昇した。昨年度に引き続き，すべての教員が所属学科・専攻の教育目標を知っていることになる。その中で「知っている」の割合が低いのは生物学科の 37.5%であり，地域環境工学科では今年度 100%となった。

設問 4. 本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

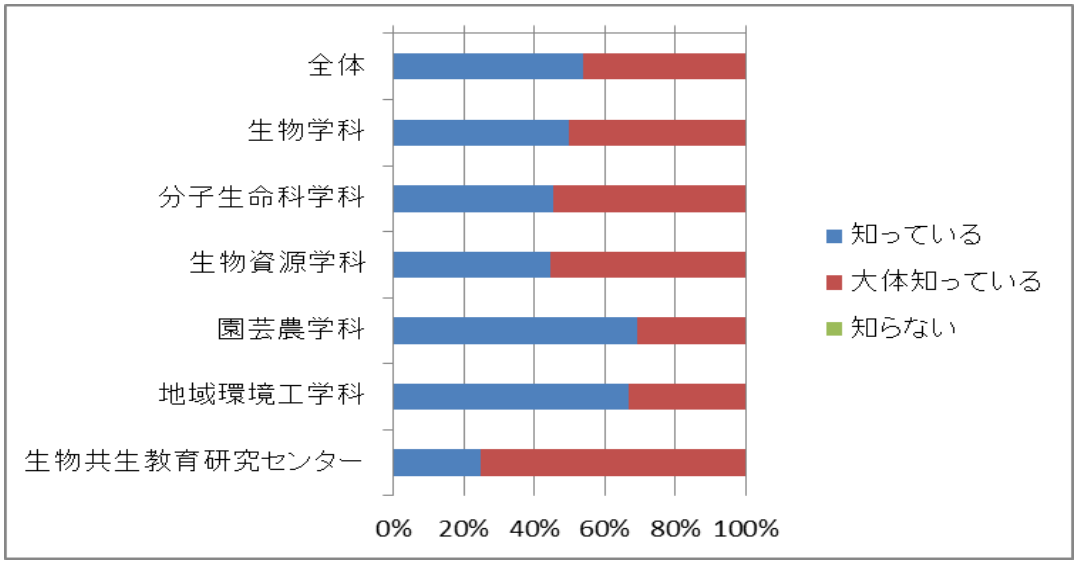

図 3　入学者受け入れ方針の認識度

昨年度と比べ「知っている」の割合は 53.7%と同程度であり，「知らない」はいない。とくに，園芸農学科と地域環境工学科では「知っている」が約 65%と高い。生物共生教育研究センターは，入学者受け入れに直接関わっていないせいか，「知っている」の割合は 25%(４人中１人)と低い。

設問 5. あなたが所属する学科・専攻等の教育目標は学部ホームページにあるとおりですが，学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）および専攻のカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。

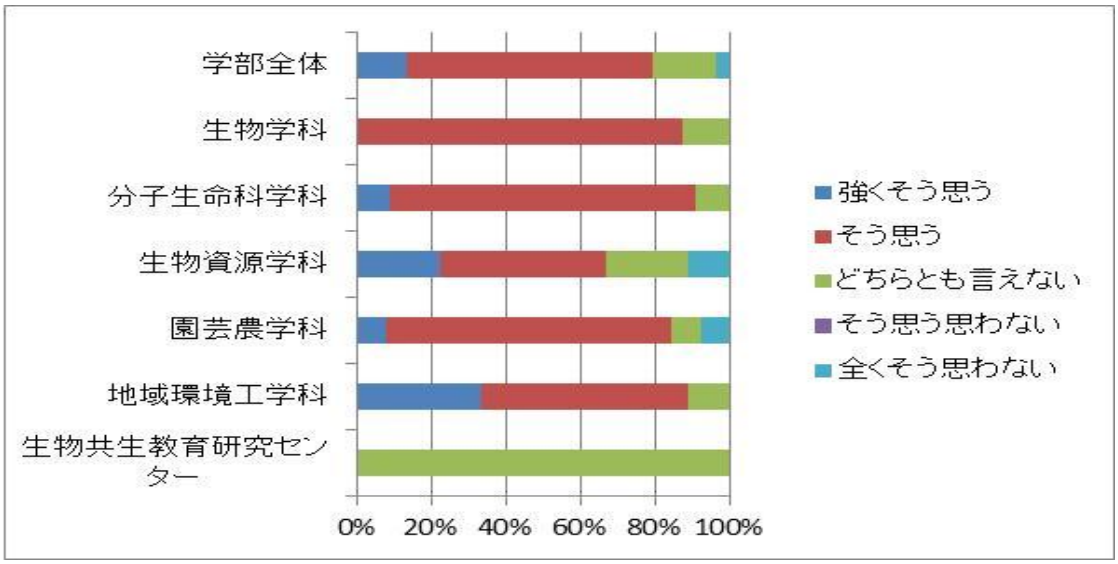

図４　教育目標とカリキュラムの一致

学部全体では，79%が「そう思う」「強くそう思う」としており，5 年間ほぼ同じ結果となっている。学科別では，生物資源学科で肯定的評価が 67%とやや低く，昨年度生物生産科学科が他学科より肯定的評価が約 20%低かったのと対応しているように見える。また，生物共生教育研究センターでは肯定的評価は無かった。同センターで全員が「どちらとも言えない」としているのは，主な科目である農場実習が，学科ごとの教育目標とカリキュラムの中で組まれているため，そう判断されたとみられる。

設問 6. あなたはシラバス作成時に，学科・専攻等の教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。

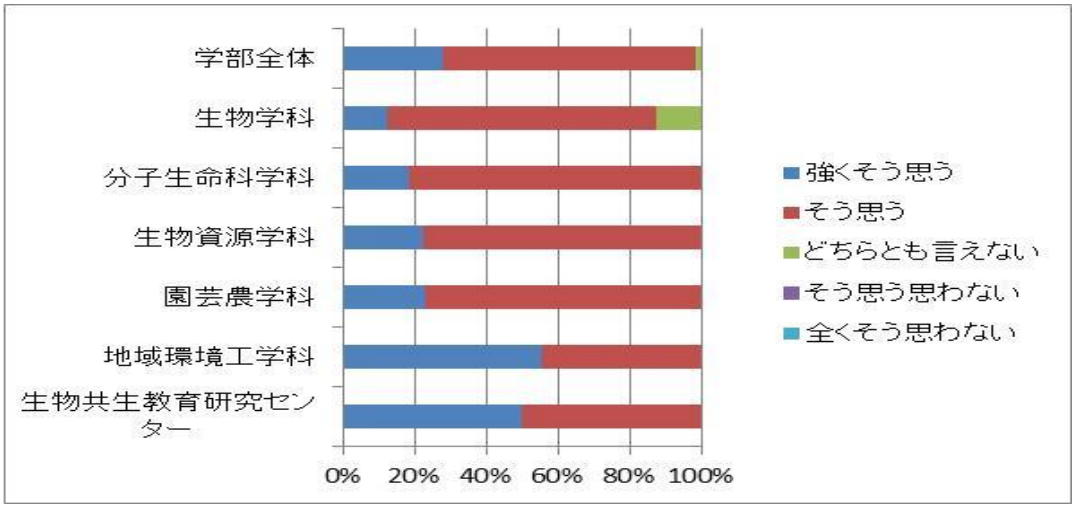

図 5　教育目的・目標に従ったシラバスの作成

学部全体として，昨年度より約 7%増加し 97%が「そう思う」「強くそう思う」としており， 1 人を除いて教育目的・目標に沿った講義を行っている。シラバス作成は学科・専攻等の教育目的や教育目標に従った講義を意識して行われている。その中で，地域環境工学科と生物共生教育研究センターで約半数が「強くそう思う」としており，その意識が高い。

設問 7. ① 授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。

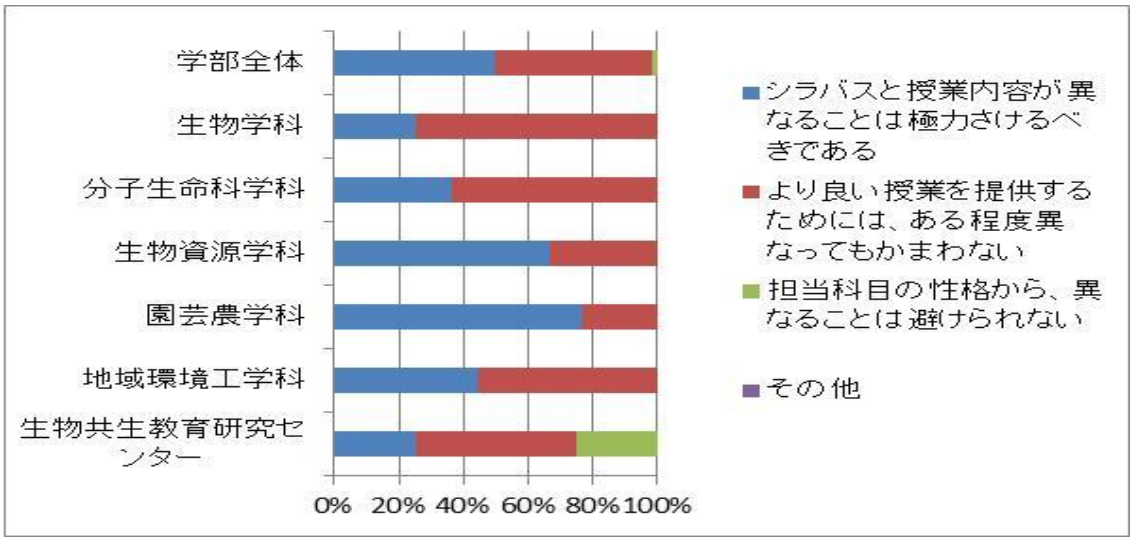

図 6(1)　シラバスと実際の授業内容の不一致

学部全体では，シラバスと授業内容の不一致は避けるべきとの意見が全体で 50%となり昨年度より 10%増加した。多少の変更は良いとするものも 50%であるが，生物資源学科・園芸農学科では 60～70%が極力避けるべきと高くなっている。全体として，シラバスに沿った授業を進める意識は高いが，受講者の反応など状況に応じての変更はやむを得ないと考えているようである。なお，生物共生教育研究センターでは,「担当科目の性格から異なることは避けられない」としているが,

これは，実習内容が天候や作物の生育状況などで変更を余儀なくされるためとみられる。

② 何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合，あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。

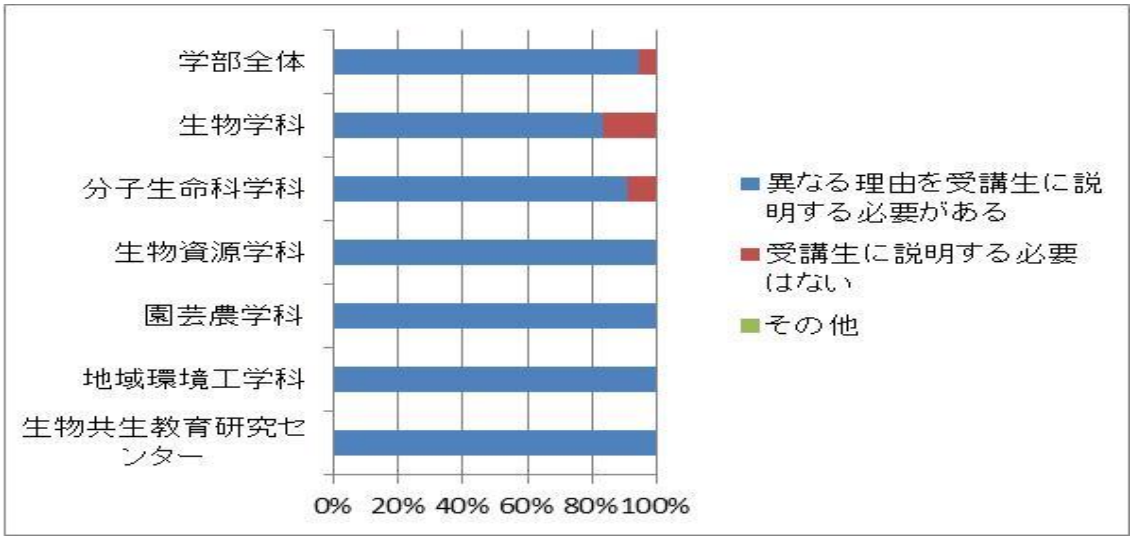

図 6(2)　シラバスと授業内容が異なる場合の説明

学部全体では，95%が「理由を説明する必要がある」としている。「受講生に説明する必要はない」が生物学科・分子生命科学科でそれぞれ 1 名あった。全体として，ほとんどがシラバスと異なる授業はその理由を説明するべきと考えている。

設問 8. 本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。

① 学生による授業評価の信頼性についてどのようにお考えですか。

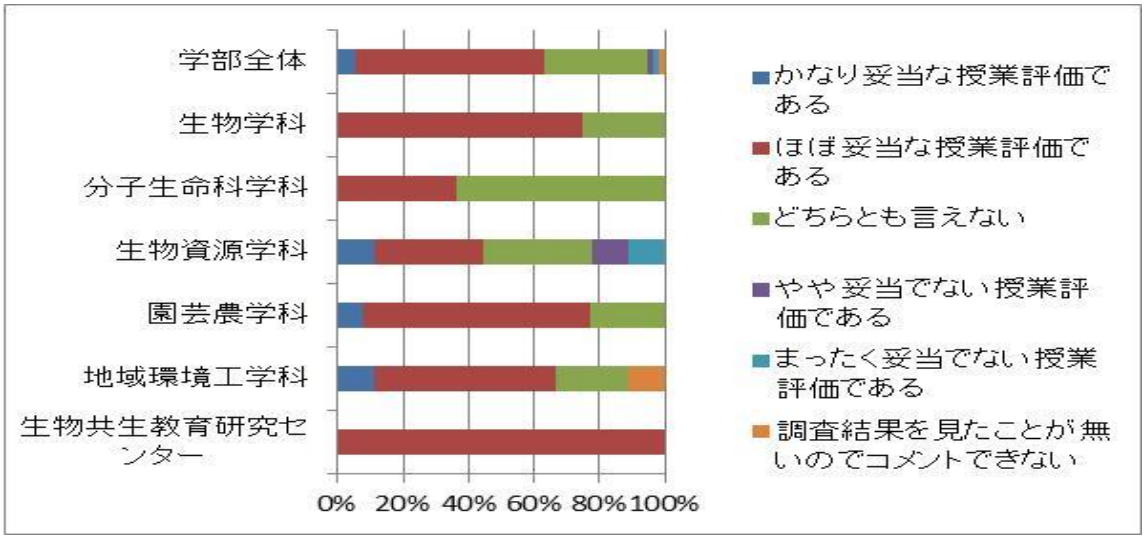

図 7(1)　本学の授業評価アンケートの信頼性

肯定的評価が全体で 63%と昨年度とほぼ同じ結果となっている。生物学科では肯定的評価が

75.0%と昨年度の生物機能科学科の 55%よりかなり増加した。分子生命科学科と生物資源学科では肯定的評価がそれぞれ 36%，44%と低い。後者では 2 名が否定的評価をしている。

全体としてアンケート結果を授業改善に活かすシステムが機能していきつつあると推定されるが，アンケートのどのような点が否定的と捉えられているか学科での意見交換も必要である。

② 授業評価の結果を授業の改善に利用していますか。

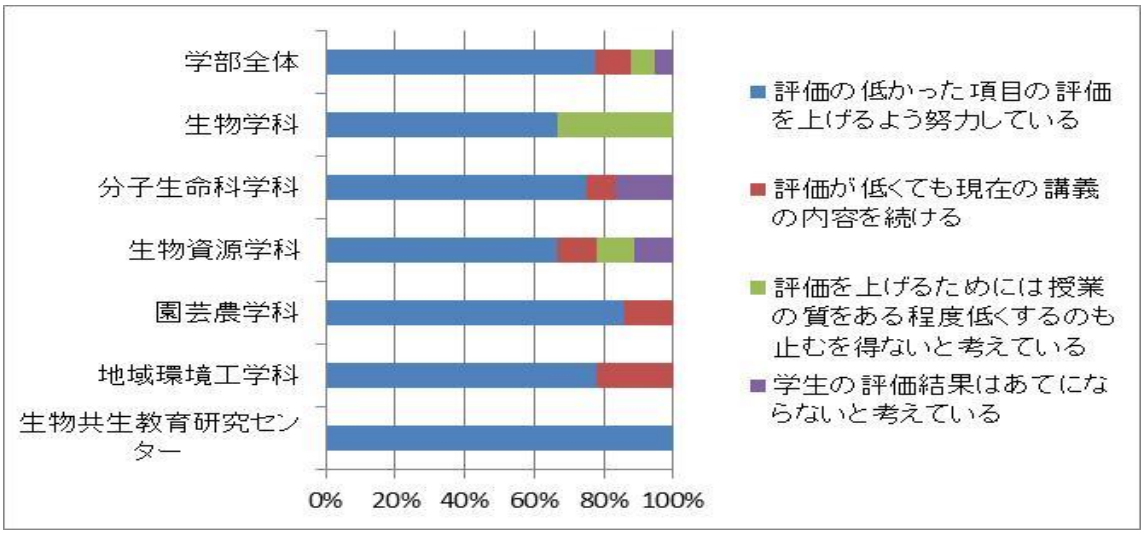

図 7(2)　授業評価の結果に対する対応

学部全体で 77%がアンケート結果を授業改善に活かしている。なお，評価を上げるのに「授業の質を下げる」という回答が生物学科で約 33%ある。また評価結果をあてにならないとする回答が分子生命科学科・生物資源学科で 10～18%みられる。全体としては授業改善に授業評価アンケートの結果を活かしていることが伺われるが，昨年度もあったアンケートを信頼できないとする理由を，各学科で確認してみる必要がある。

設問 9. 本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。

① この１年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい。

1. 学部主催のＦＤ活動　　（　　）回

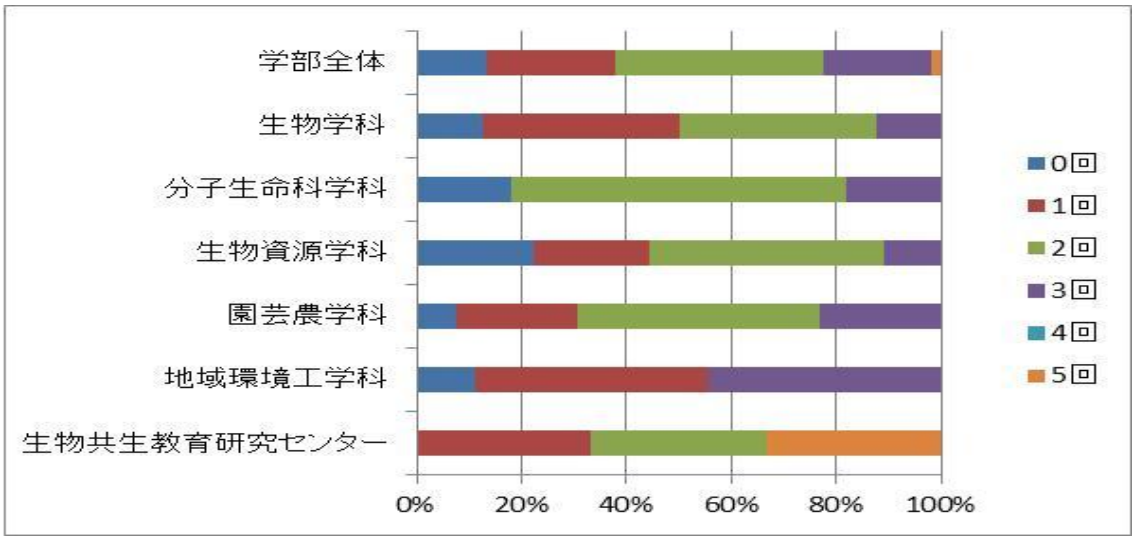

図 8(1)　学部主催のＦＤ活動

学部主催のＦＤ活動への参加回数は，1 回～2 回が 64%で前年度とほぼ同じであり，3 回以上が 23%で昨年度より 7%減っている。 前年度は 4 回以上の参加者が学部全体で 15%あったが今年度は開催が 3 回となっている。 また一度も参加していない教員が 7 名いるが，これは昨年度と同じである。

2. 学科主催のＦＤ活動　　（　　）回

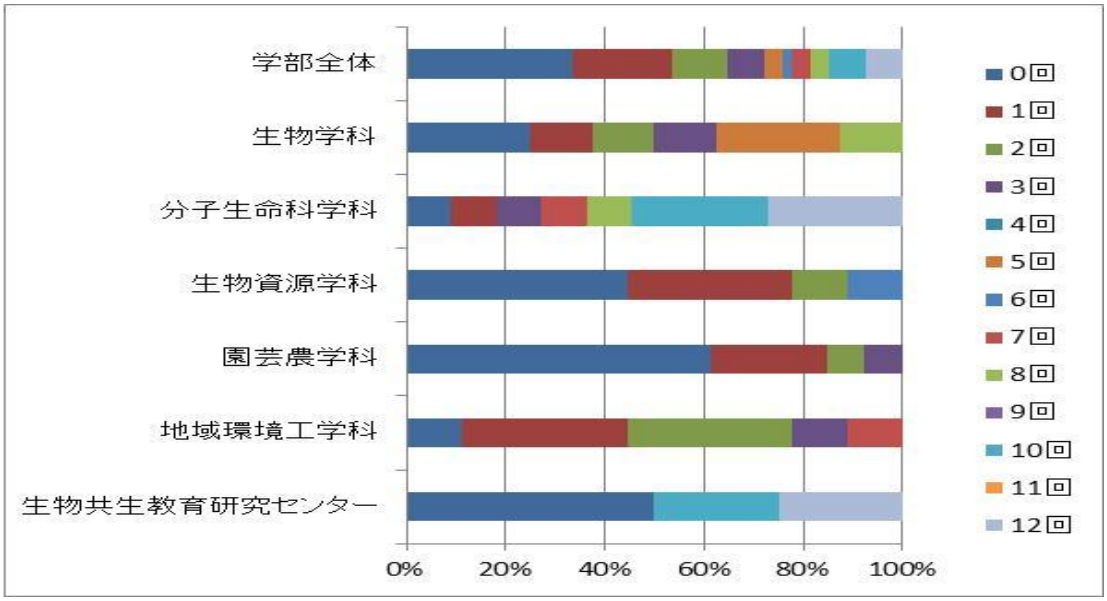

図 8(2)　学科主催のＦＤ活動

学科主催 FD では参加 0 回が全体で 33%と昨年度と変化はない。その中で，生物学科・分子生命科学科で FD 活動参加回数が他より多い。とくに，分子生命科学科では，54.5%が 10 回以上の参加

をみている。これは，同学科で学科会議に合わせて毎回教育事例について FD を行っているためである。

3. その他の活動　　（　　）回

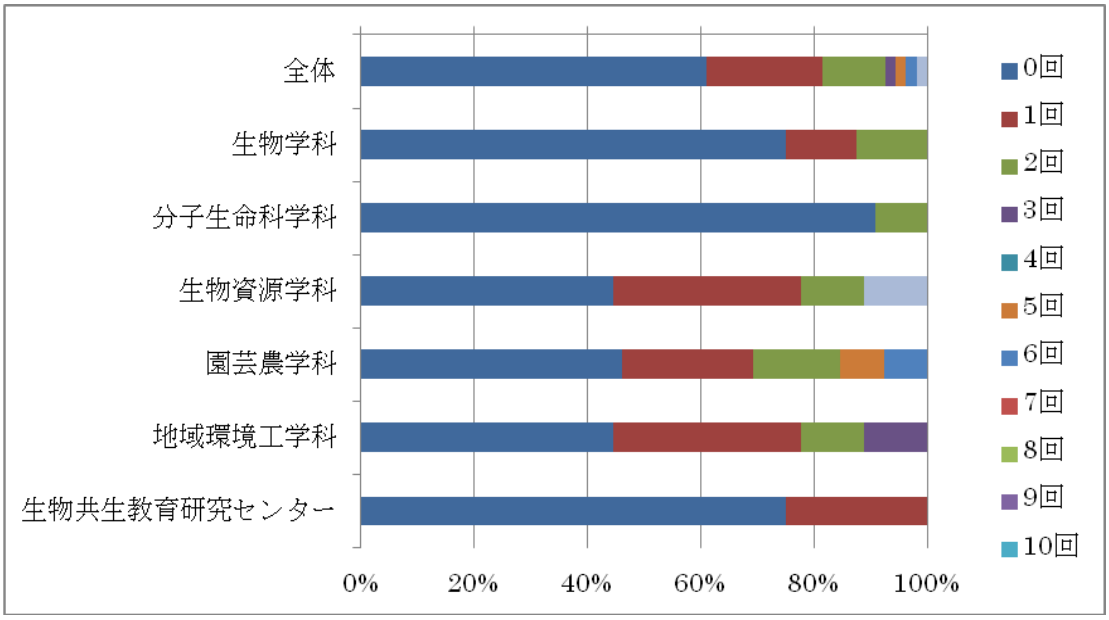

図８(3)その他のＦＤ活動

その他の活動への参加は 61%が 0 回と少ないが，学部全体で 2 回以上の参加者が 19%あった。学部・学科全体としては，FD 活動に積極的に参加していると言ってよい。

② 参加された活動は，教育改善に役立ちましたか。

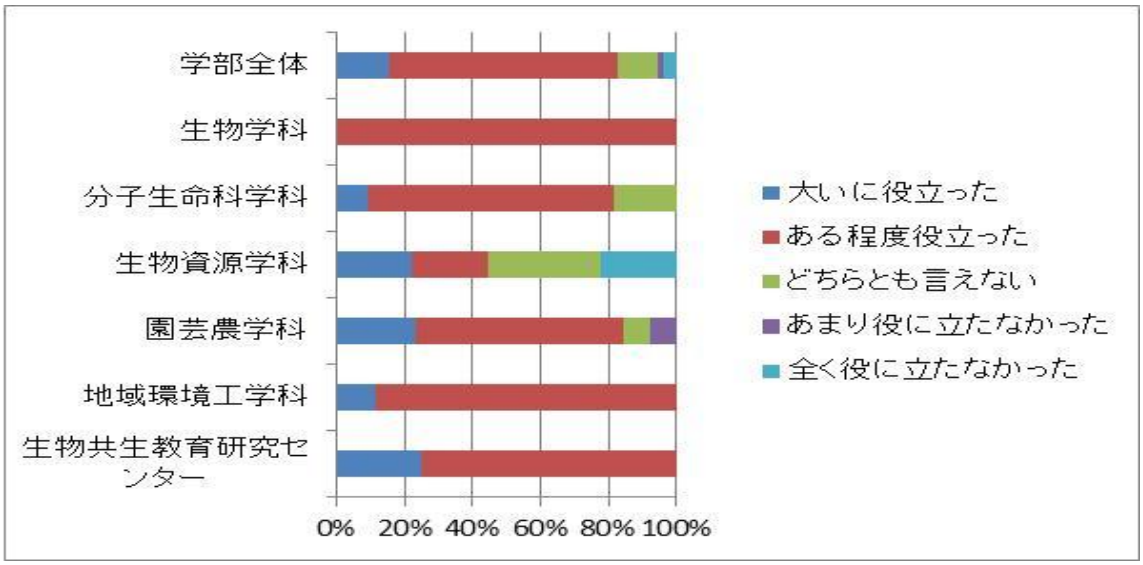

図８(4)　教育改善効果

「ある程度役に立った」以上の肯定的評価は，全体で 83%と昨年度と同程度である。生物学科・地域環境工学科・生物共生教育研究センターでは，すべての回答が肯定的評価となっている。一

方，生物資源学科では，「全く役に立たなかった」とする回答が２名あった。この点は，どのような点に問題があったか当該学科で討議も必要であろう。

設問 10. 担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。

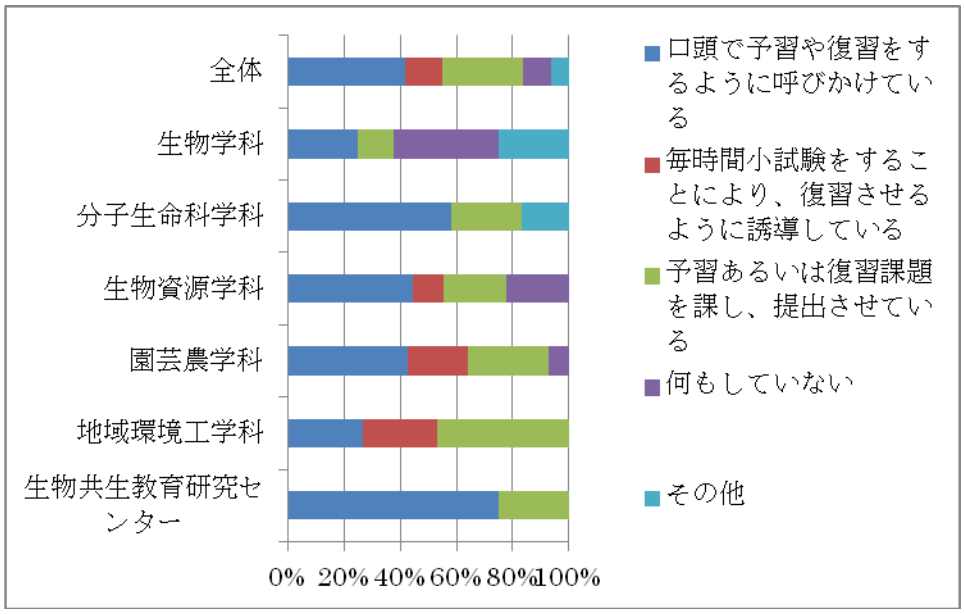

図９　学生に対する時間外学習の促進方法

「その他」の内容

[生物学科]
・関連する書籍の紹介，読書のすすめ
・関連書籍の紹介

[分子生命科学科]
・予習のために授業終了後，次回の講義箇所を示し予習を呼び掛けるようにしている
　復讐のためには授業に即した手作り問題集を配布してあるので，それをやるよう指導している
・毎回ではないが，適宜小テストや課題を課している

[生物資源学科],[園芸農学科],[地域環境工学科],[生物共生教育研究センター]※該当者なし

全体では，昨年度よりも「口頭での予習復習の呼びかけ」が減り４割となり，「予習復習の課題を課す」教員が増加し３割となった。学部学生の予習復習にあてる時間が昨年度より増加傾向にあるのは，このことの反映と考えることが可能である。とはいえ，６割の学部学生の１日１時間未満の予習復習時間であるので，より一層学部学生に時間外の学習を誘導する努力が必要である。また，単位の実質化が強く求められる状況下であるにもかかわらず，「何もしていない」という教員が少数存在している。

学科別に見て特徴的な点として，生物学科では「何もしていない」教員が３割を上回っていること，地域環境工学科においては「予習復習を課す」教員が半数近く存在していること，が指摘

できる。

設問 11. ① 本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。

1. 講義室

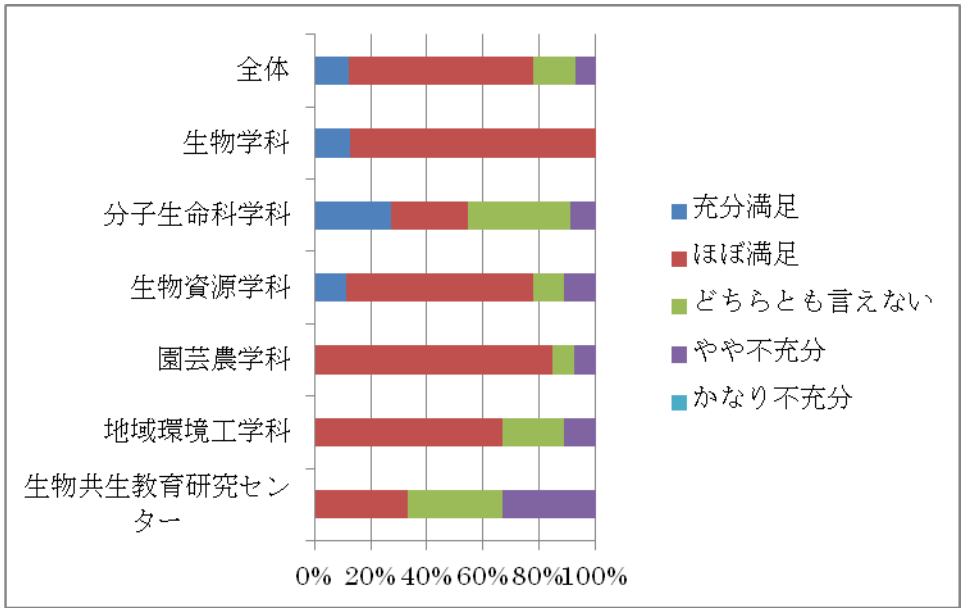

図 10(1)　講義室

講義室については，昨年度と同様，８割の教員が「充分満足」あるいは「ほぼ満足」と回答している。学部学生では肯定的な評価が５割にとどまっていて、見解が乖離している。学科別にみると，生物共生教育研究センターにおいては，「ほぼ満足」と「どちらとも言えない」と「やや不充分」に３分されており，もっとも満足の度合いが低い。また分子生命科学科では，「充分満足」という回答が２割を上回る一方で，「どちらとも言えない」という回答も３割を上回り評価が分かれている。

2. 図書閲覧室

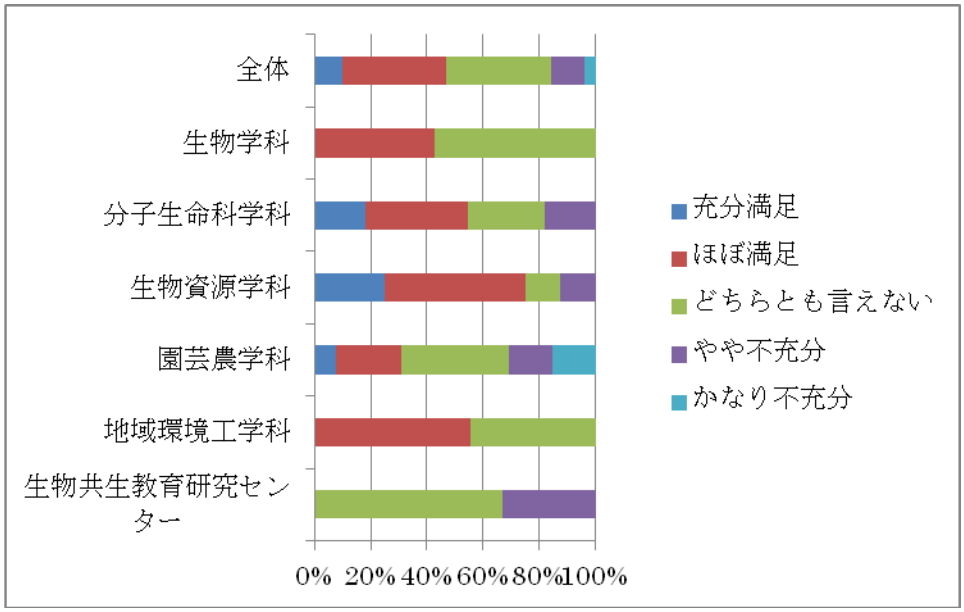

図 10(2)　図書閲覧室

全体では，「充分満足」あるいは「ほぼ満足」を合わせても過半数に達せず，昨年度に比べやや「どちらとも言えない」が増加した。学部学生の所蔵図書に対する肯定的評価が４割，閲覧スペースに対する肯定的評価が５割であることとほぼ対応している。学科別では，生物共生教育研究センターにおいては，「充分満足」「ほぼ満足」とする回答が皆無で評価が低い。また，分子生命科学科，生物資源学科，園芸農学科では「充分満足」という回答がある一方で「やや不充分」という回答も存在し，評価が分かれているのに対し，生物学科と地域環境工学科では，「ほぼ満足」あるいは「どちらとも言えない」という回答になっている。

3. 実験・実習室

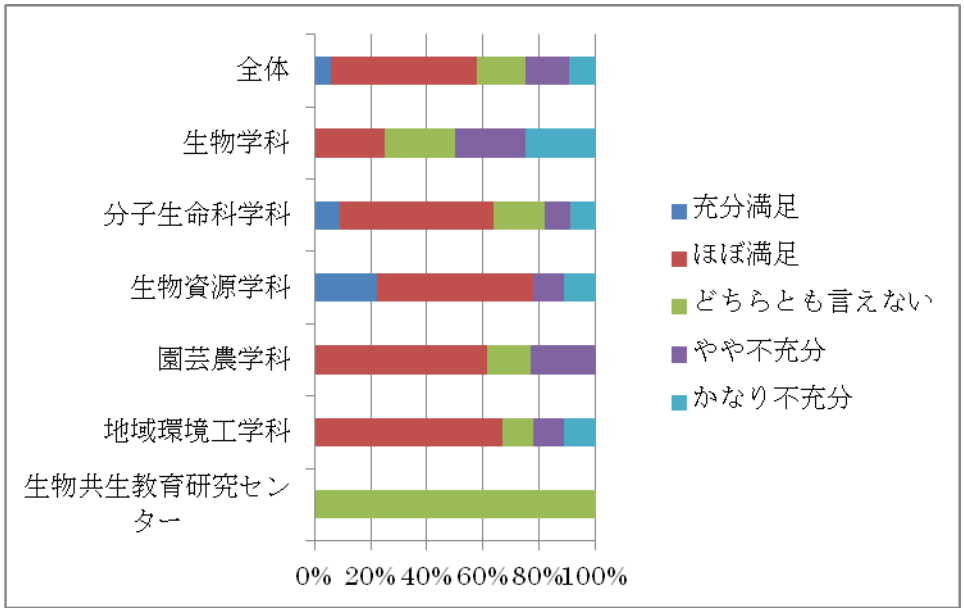

図 10(3)　実験・実習室

全体では５割強が「ほぼ満足」と回答し，昨年度とほぼ同様の傾向である。学部学生も肯定的評価が３分の２であり，同等の評価である。学科別にみると，生物学科において「やや不充分」と「かなり不充分」を合わせ半数近くに達しており，問題を有している。また生物共生教育研究センターでは，全員が「どちらとも言えない」と回答している。

4. 情報処理演習室

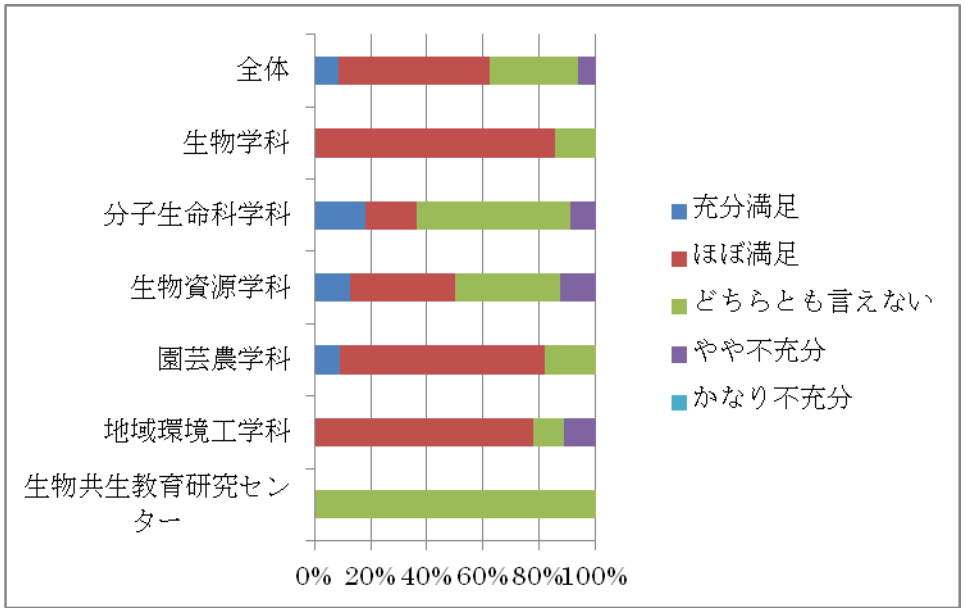

図 10(4)　情報処理演習室

全体では５割強が「ほぼ満足」と回答しているものの，昨年度と比べると満足の度合いがやや低くなっている。学部学生の肯定的評価は７割で同等の評価である。学科別にみると，分子生命科学科，次いで生物資源学科において，「充分満足」という回答が存在する一方で，「やや満足」を合わせても過半数に達していない状況がある。逆に，生物学科，園芸農学科と地域環境工学科では，「充分満足」と「ほぼ満足」を合わせて８割前後である。生物共生教育研究センターについては，全員が「どちらとも言えない」と回答している。

5. 研究室

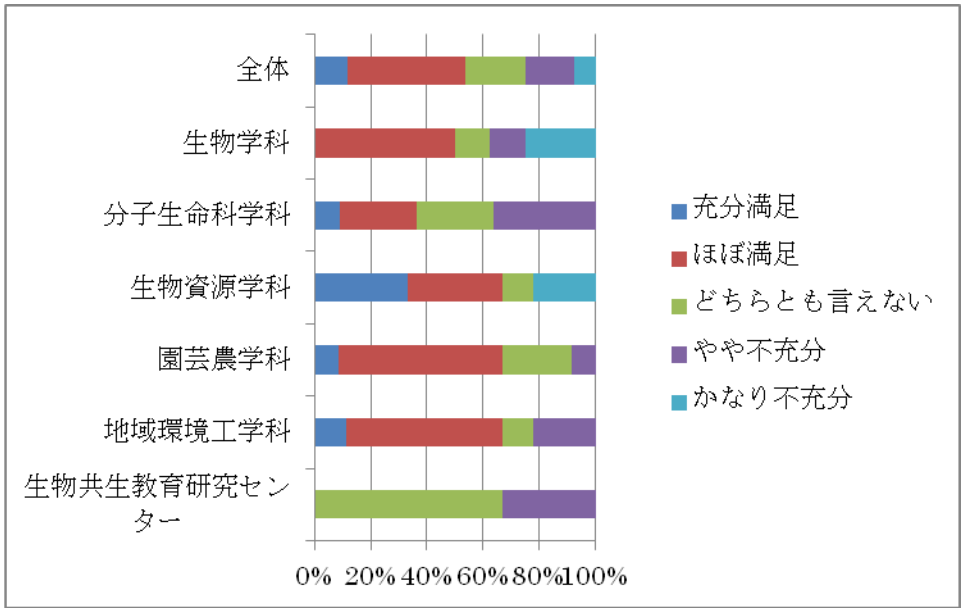

図 10(5)　研究室

全体では「充分満足」と「ほぼ満足」を合わせて５割強であり昨年度とほぼ同様である。学部学生の肯定的評価は８割であり，教員に比べかなり評価が高い。学科別にみると，分子生命科学科では満足度合いが最も低く，「充分満足」と「ほぼ満足」を合わせて４割に達しておらず，「やや不充分」が４割近く存在している。生物学科も「ほぼ満足」が５割存在する一方で，「やや不充分」と「かなり不充分」を合わせて４割近く存在している。生物資源学科は「充分満足」と「ほぼ満足」を合わせ７割近い一方で「かなり不充分」が２割存在している。生物共生教育研究センターでは満足側の回答が皆無である。

この設問で不充分という回答の具体的な内容については，次の設問の回答を次に列記するので，これを参考にされたい。

(2) 上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合，その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。
回答中の番号は以下の施設を表している。
1. 講義室，2. 図書閲覧室，3. 実験・実習室，4. 情報処理演習室，5. 研究室

[生物学科]

・3　生物実験において机からはみ出る学生がでているのはかなり問題だと思う。もっとよく見える顕微鏡でなければ観察の練習にするのもむつかしい。顕微鏡によってレンズのセットがことなることも問題。

・3, 5　①いつも同じだが，前任者の都合にあわせて部屋がつくられているため，使いにくい　②生物の実習室は非常にせまく 45 名を収容できない

・3, 5　狭いため

・3, 5　狭い

［分子生命科学科］
・1,5　講義室はせまくて椅子（本人）が小さい　研究室は狭い
・1,2,5　学生実験を行うには装置が不足しており，持出で教えざるをえない　図書が充実していない　研究室が狭い
・2,3,4,5　質・量ともに少ない
・5　大学院生が連大生を含めて 6～7 人いると 4 年生，3 年生が実験できるスペースが不足する
・回答不要者(前問で 4,5 を選択していない)　備品（黒板拭きなど）が不充分，部屋が汚い　狭い，こみすぎ

［生物資源学科］
・1,2,3,4　黒板消しなどの状態　本の質量　広さ
・3,5　せまいから
・5　前任の設計した実験室で学生控室もなく，とても使いづらい　各教員で同じ実験室にすべきである

［園芸農学科］
・1,3　講義室の資料提示装置が古すぎる　スクリーンの装置が悪い
・2　蔵書数が少ない
・2　利用価値が小さいため
・2　図書の整理がされていない　閉館時間が短い
・3　せまい
・3,5　スペースがも少し必要である

［地域環境工学科］
・3,4,5　PC の起動に 7 分間を要する　教員の実験室が狭く，学生実験を行うために，他の教員の実験室を使わせてもらって学生実験を行っている
・5　新しい実験器具の購入で狭くなっている

［生物共生教育研究センター］
・1,2,5　IT 環境のさらなる充実が必要

設問 12. (1) 卒業研究は必要であると思いますか。

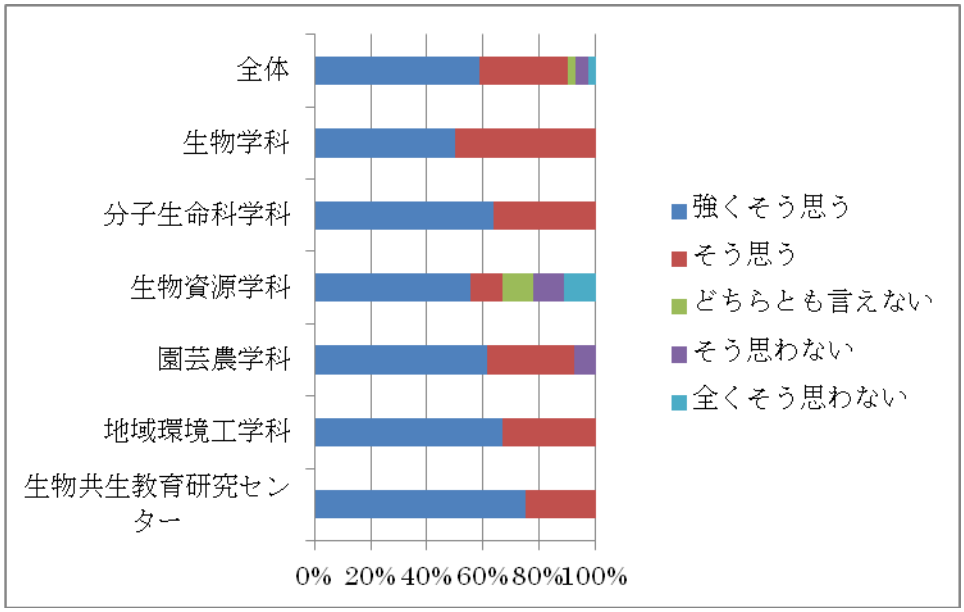

図 11　卒業研究は必要か

全体では，６割が「強くそう思う」と回答しており，「そう思う」を加えると９割の教員が卒業研究を必要と考えている。この傾向は昨年度とほぼ同様である。また，学部学生の卒業研究に対する満足についての肯定的評価は８割を上回っていて，教員の思いに対応している。学科別では，「強くそう思う」教員が生物共生教育研究センター，次いで地域環境工学科で多く，逆に生物学科，生物資源学科ではやや少ない。また生物資源学科と園芸農学科においては，卒業研究の必要性について「そう思わない」「全く思わない」教員が存在している。

この設問の回答理由は，次の設問で問われていて，次項で具体的な回答を列記するので，これを参考にしていただきたいが，次項の回答を集約すると，卒業研究を必要とする教員は講義だけでは養うことの困難な総合的な問題解決能力などの育成を期していて，必ずしもそう思わない教員は，必修にする意義を感じていない，となる。これらの回答理由についても，学部学生の卒業研究に対する満足についての回答理由と対応している。

(2) 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない

4. そう思わない　5. 全くそう思わない

[生物学科]

・1　社会に出る前に自分で事案をどの程度まとめられるかを知ることは大切だと考えるから

・1　卒論で多くのことを身に

・1　卒業研究を通じて研究のおもしろさを実感できるから　また，社会で活躍できる人材を育てるのに役立つ　（講義では無理）

・1　自分自身のテーマをもって自主的に仕事をとる大事な機会　学生自身も卒研は重大視している

・2　研究にとりくむことが一番具体的な問題解決能力を育てる効果があると思う　大学院に進む

学生が大半なら卒研なしでもよいと思うが，大半が社会に出る現状では卒研をして世に出す方がよい

［分子生命科学科］
・1　学生の人間的成長を促している　専門に関係なく総合的に修養の場となっている
・1　人生経験としても重要だと思う
・1　学部で一括して論文の検印をすべきである
・1　卒論は大学の単位の中で教育上最も価値ある有益な授業科目と認識している
・1　大学では自分で考えてチャレンジすることが必要
・1　自分で勉強して仕事を進めていくから
・1　卒業研究をすることによって，論理的な思考，積極的な研究への取組の姿勢，学科に対する興味が養われる　大学院への進学者も増え，就職率も向上すると思われる
・2　理系であるので
・2　物をまとめる，書くことは output になるので，自分の行っていることを整理し論理的に展開し他者に理解させる訓練となる

［生物資源学科］
・1　学生による創造活動の最も適当な場であるのと教える
・1　卒研を通して，文章力・プレゼン力・思考力をつけてくれる　指導も行える
・1　理系の学部として，研究しその結果を考察したうえでまとめることは最も大事な卒業生としての能力であると考えるから
・1　大学生として卒業研究がなければ，高校生と同じになってしまう
・2　教育効果が講義科目よりも大きいと思うから
・3　全員が卒業研究を行うことで進めてきたが，実験技術は修士学生から始めて，学部生は勉強に専念しても良いかもしれない
・4　やる気のある学生のみにすべきである
・5　卒業単位数のみでもいいと思う

［園芸農学科］
・1　一番勉強することなし　研究の面白さがわかる
・1　企画→実行→まとめ→発表→記述という一連のプロセスを学ぶことは社会に出ても有益であると思う
・1　在学した証として必要性を感じます
・1　実験スケジュールを自分で管理できるようになる　論文としてまとめることで，文章を書く力をつけられる
・1　学生が企画・実施・まとめ・執筆を体験する唯一の科目であり，これを達成することの教育効果は非常に大きいと考えている
・1　学生に主体的なとりくみを実行させるには，卒業研究が最適と考える
・2　問題解決能力の修得や責任ある行動の体得に役立つと考えているため
・2　研究を経験することは学生が進路を考える上で有意義である

・4　学生によって，その効果は異なるので，必修にする必要はない　もって卒研以外で教育効果をたかめるべきである

［地域環境工学科］
・1　卒業研究に取り組むことで，4 年間身に付けた学力を発揮・努力するために最適な科目と考える　社会人として巣立つためには必要と考える
・1　知識の総合化，応用力の形成
・1　ある課題について調査・実験し，まとめあげる能力が身につくため
・1　授業科目を体系化し，4 年間の総まとめを行う意義は欠かせないと思う
・1　学生自ら問題点解決のためのプロセスを構築すること，研究目的を明確にして，調査・実験とそのまとめ，その結果をプレゼンするという一連のプロセストレーニングが大切　（デザイン能力の育成）
・2　問題解決能力を養うためには必要だと思います
・2　ある課題について探し掘り下げて考えさせることができる

［生物共生教育研究センター］
・1　実験と理論の両方ができるので，必要である
・1　卒業研究を通じて学生が成長するのがわかる　私学のように教員 1 人で学生を 10 人以上担当する大学と差別化を図るためにも必要
・1　自ら考え学習する力が身につく
・2　研究内容より学生へ思考力の養いはもっと重要

設問 13（1）あなたの学科の大多数の卒業生は，本学部での教育により大学卒業生としての知識と学力を身に付けたと思いますか。

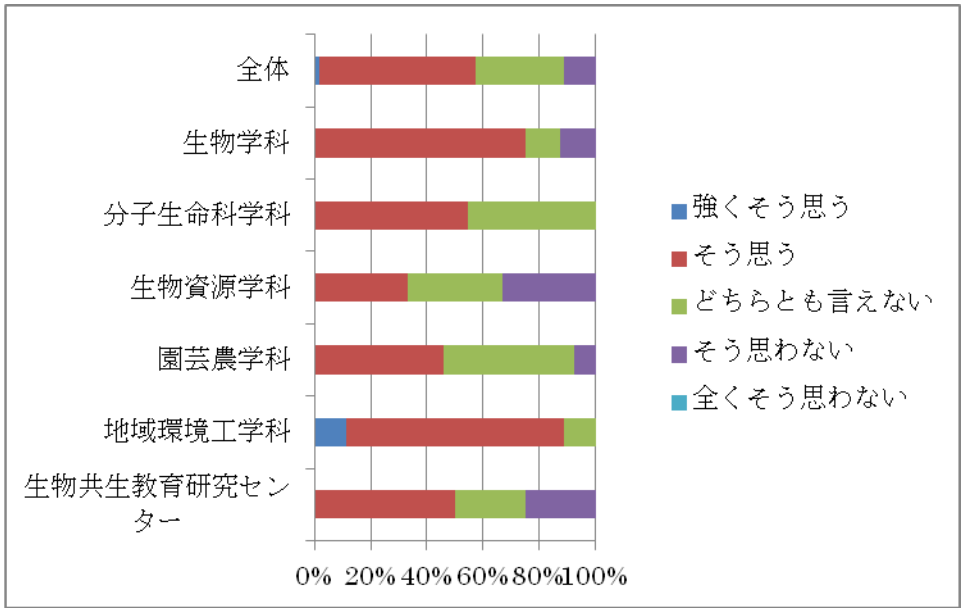

図 12(1)　教養および専門知識を身につけたか

全体では，「強くそう思う」と「そう思う」を合わせて 6 割弱である。昨年度より 1 割低くなっ

た。学部学生の回答でも肯定的評価は５割とほぼ同等である。学科別にみると，地域環境工学科では９割の教員が，「(強く）そう思う」と回答している。次いで生物学科でも「そう思う」が８割に近く高い。逆に，「そう思う」が３割と低いのが，生物資源学科で，「そう思わない」も同程度存在する。分子生命科学科，園芸農学科，生物共生教育研究センターでは「そう思う」が５割前後である。

(2) 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

1. 学生に意欲が無い　2. 学生の基礎学力不足　3. 講義内容が高度過ぎた
4. 教員に問題　　5. その他（　　）

表 12(2)　身についていない理由

理　由	回答数（学科）
学生に意欲がない	2（生物資源, 共生センター）
学生の基礎学力不足	5（分子生命 1*, 生物資源 3, 共生センター1）
講義内容が高度過ぎた	0
教員に問題	2（生物, 共生センター）
その他	1（園芸農学**）

＊ 分子生命１は，前問で 4, 5 を選択しておらず回答不要なのに回答
** 「その他」の内容　カリキュラム等の教育システムの問題

「学生の基礎学力不足」を指摘する回答が５件と最多であった。「学生の意欲がない」という回答も２件であり，学生側の問題とする意見が多い。しかし，「教員に問題」という回答も２件，また「その他」で教育システムの問題という意見も存在した。

設問 14(1) あなたの専攻の大多数の修了生は，本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。

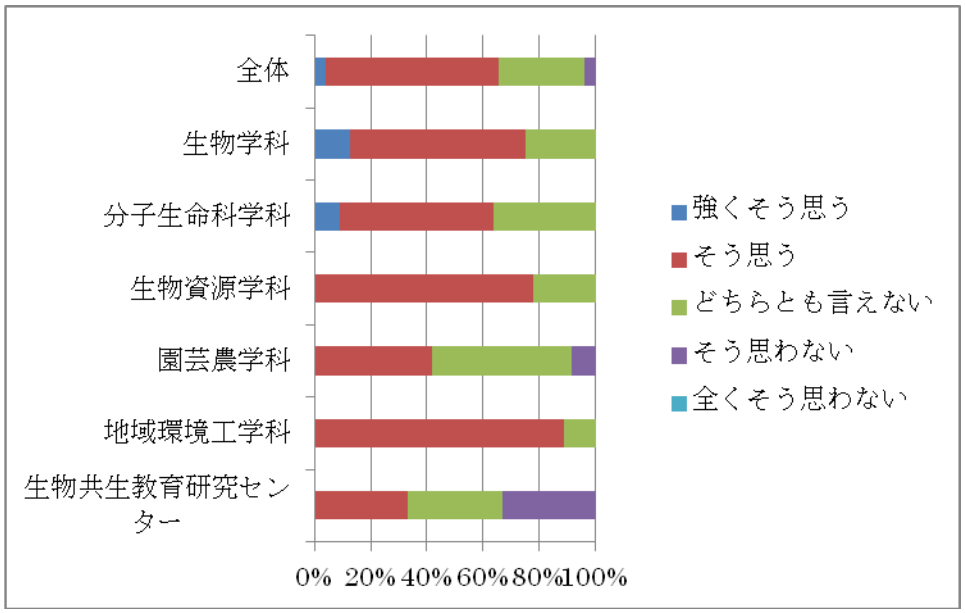

図 13(1)　大学院修了程度の専門知識

まず，専攻別の集計は，修士課程は改組前であるので，４専攻に区分して集計すべきであるけれども，アンケート用紙には教員所属について新学科での記入欄しか作成しなかったので，便宜的に学部と同様に５学科に区分して集計した。

全体では,「強くそう思う」と「そう思う」を合わせて６割強である。昨年度とほぼ同様である。修士学生では肯定的評価が５割であることと比べるとやや高い。

学科別にみると，地域環境工学科では９割の教員が学部と同様に「そう思う」と回答している。次いで生物資源学科，生物学科で「(強く）そう思う」が８割に近い。逆に,「そう思う」が４割前後と低いのが生物共生教育研究センターと園芸農学科であり,「そう思わない」教員も存在している。

(2) 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか．以下の中から選んで下さい。

表 13(2)　大学院修了程度の専門知識が身についていない理由

理　由	回答数（学科）
学生に意欲がない	0
学生の基礎学力不足	2（分子生命*, 共生センター）
講義内容が高度過ぎた	0
教員に問題	1（共生センター）
その他	1（園芸農学**）

＊ 分子生命は，前問で 4, 5 を選択しておらず回答不要なのに回答
** 「その他」の内容　カリキュラムの問題，教員が好きな講義をやるだけでは不充分

「学生の基礎学力不足」を指摘する回答が 2 件,「教員に問題」という回答と教育システムの問題という回答がそれぞれ 1 件ずつ存在した。

Ｖ．アンケート調査結果に対する各学科の見解

生物学科

学科の教育目標にカリキュラムが合致しているかのアンケート調査結果は教員の方では肯定的な意見が多かったが、学生の調査結果では肯定的な意見の割合は低く、他学科と比べても低い結果だった。これは教員のガイダンスなどでの説明不足やシラバスに記載した内容に一致させて授業を行った割合が低かったこと、また、大多数の学生のレベルを意識し授業を展開した割合が６割弱あったものの、より専門性を重視して授業を展開した割合も全学科の中では最も高く４割以上あったことなどが原因として考えられる。また、自由記述の調査結果をみると、教育研究に関する学生の興味の持ち方の違いもこの結果に反映されたものと思われる。

授業の予習や復習にあてた時間では１時間以上２時間未満の割合がおよそ４割と学部の平均より高く、これは教員が自主的な勉強を必要とする授業を比較的多く行っていたことを示している。一方、教員の試験やレポートなどの成績評価については疑問や異議をもつ学生の割合は低く、教員による成績評価が適切だったと感じている学生が比較的多かったことを示している。授業における学生への指導や対応についての満足度はおよそ 50%と高くないが、この結果は、自主的な勉強を必要とする授業が比較的多かったことや、既に述べたように、大多数の学生のレベルを意識した授業が多くなされたものの、より専門性を重視した授業の割合も多かったことに関係していると思われる。

最も自主的な勉強を必要とすると考えられる卒業研究に対する満足度については、「強くそう思う」と答えた割合は全学科で最も高く、およそ５割であった。これは自主的な勉強が必要であっても、少人数で指導が行き届いていたことや学生の希望する研究が結果的にできたこと、また、問題・課題解決へ向けた演習やセミナーなどでの討論の機会も充実していたことなどが原因として考えられ、知識や研究の面での充実感や達成感を反映した結果と考えられる。

大学院の調査結果は全体の結果であるが、専攻の教育目標にカリキュラムが合致しているかに関する肯定的な意見の割合は学部の結果より高くおよそ７割であった。また、受けた教育の満足度、教員のガイダンスや指導、対応についての肯定的意見の割合も学部の結果より高くおよそ７割であった。また、成績評価に疑問や異議をもった割合は学部の結果より低くおよそ１割であった。大学院の教育研究に対する満足度は学部より高いと言える。

教育研究が実施された実験室、実習室のスペースなどの満足度については特に教員の方でまだ十分と言えないとする意見が多かった。

学科の調査結果は４学科体制から５学科体制に組織改編してからはじめの調査結果である。また、大学院の方（生物学コース）の組織改編後のはじめの調査は来年度行われる。したがって、今後の調査結果の動向も把握しながら教育研究に対する改善の努力をしていくことが重要である。

分子生命科学科

授業評価のアンケート調査における学科の調査結果については、アンケートの正確性から高い回収率が好ましい。そこで学科としても回収率の向上に努力が必要である。

学部改組により教育目標及びアドミッションポリシーが明確になり、分子生命科学科においても、入学時また新学期のガイダンス等でそれらを説明していることもあり、それらの理解は昨年度より上がっている。しかし、教育目標を「知っている」と「ある程度知っている」は 50%台、またアドミッションポリシーのそれは 40%以下であまり芳しくない。当学科の教育目標のカリキ

ュラムが合致しているかについては、概ね肯定的であった。しかし、学生の意見を見ると全く理解していない学生がいることも事実で、このことを考慮すると、もう少し学科の教育目標及びアドミッションポリシーを学生に周知する必要があると思われる。また、毎年行っているガイダンスの内容も学生に理解してもらい、また授業科目の選択に当たってもシラバスが有効に利いていることが示されており、今後も継続することが良いと思われる。

専門教育に対する満足度は学科全体の平均よりわずかに高かったが、成績評価に対する疑問・異議を持った学生が他学科に比べて高かった。しかし、それに対して質問した学生は少なかった。授業外の 1 日の学習時間も 1 時間未満が大半で、2 時間以上学習している学生は 10%以下（4 名以下）であった。他学科の学生よりも自習時間が少なかった。アンケートからも分かるように、授業科目の「単位」の定義を理解しておらず、学生の勉学に対する認識が甘く、授業外での学習を怠っていると推察される。

学生への教育支援，施設・設備について、 分子生命科学科では研究室内での実験研究が常であり、研究室の実験設備は重要である。その実験設備に対する学生の満足度は 80%以上であった。これは各教員の努力で年々設備の充実が図られてきたことにあると思われる。また、卒業論文研究に対する満足度もかなり向上しているが、卒論に対する否定的な不満の意見も見られた。これは、卒業論文研究の目的を理解していないのではなく、研究室内の教育・研究環境によるものが多く、今後改善する必要があると思われる。

教育活動の改善すべき事項では、教員側の指導と授業の方法が他学科に比べて特に高く、それに対して、教育・研究に対する取組み・姿勢は 67%で全学科中最高であった。このことを考えると、当学科の学生が全体的に満足いく教育を受けたと考えて良いと判断できる。

卒業するに当たり，大学卒業者としての知識や学力を身に付けたかについては 32%で全学科の中で最低であった。これは、学生自身が自習時間の減少と意欲の欠失による勉強不足を挙げていることと関係していると思われる。勉学に対する意欲の向上と自習時間の増加について、学科としても検討する必要があると思われる。

大学院学生に対するアンケート結果では、学部学生と同様、授業外での学習時間は少なく、また実験研究に充てる時間もそんなに多いとは思えない。設問に対する意見の自由記載から判断すると、個人差もあるが、当専攻の学生は実験が好きで設備の整った研究環境で思う存分実験をすることができ、修士研究に満足していると評価できる。一方、実験研究以外の勉強をあまりしておらず、勉強不足を感じていることも事実であった。また、一部の学生ではあると思うが、研究指導に対する不満を持っている学生がいたことは残念である。学科としての今後の検討課題のひとつになると思われる。

生物資源学科

学科学生に対するアンケートでは，教育目標やアドミッションポリシーに対する認知度は，学部平均と同様に例年通り低かった．今後，ガイダンス等において学生の記憶に残るような提示の仕方を検討する必要がある．

学科の専門科目の満足度，および，教員の講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応についての満足度は，他の学科と比較して最も高かった．しかしながら，大学卒業者としての知識や学力を身に付けたと感じているかとの問い対しては，昨年度と同様に他の学科と比較して肯定的な回答が最も少なく，且つ，昨年度より肯定的な回答が減少していた．このことから，「講義

内容と学問・社会との関連」,「講義内容の学問・社会的な意義」についてより詳しく説明するなどの工夫が必要であると考えられた.

また，当学科の本年度の総合的満足度は，学部平均並みであったが，昨年度の満足度と比較すると大きく減少していた．他の学科と比較して，就職支援について早急に改善してほしいとの要望が多く，図書関連や講義室・情報処理演習室などの施設面において満足していない傾向が認められた.

これらのことから，総合的な満足度を向上させるためには，上記に挙げた大学卒業者としての自信を持たせる工夫に加え，就職支援，図書や施設に関する改善についても力を入れて検討していく必要があると言える.

園芸農学科

本学科の学部学生に対するアンケートの回収率が，5 学科の中で最も低い 50%で，今後実施方法などを工夫する必要がある。

学部・学科の教育目標等の認識については，他学科と比較して評価の低い項目が多い。その一因として，入学時や 2 年生のガイダンス等で周知しているが，研究室所属後の 3，４年生に対しては特に実施していないことにあると考えられ，今後周知方法などを検討する必要がある。ただ学科の目標についての認識は低いものの，学科目標を提示した上でその目標に学科カリキュラムが合致しているかを聞いた場合，合致しているとの回答割合が高いこと，その理由として幅広く勉強できる，実学的との評価が多い。

学科の専門教育については，満足したとの肯定的な評価が，他の項目での低い評価と異なり学部平均より高く，研究室所属後の専門教育や卒業研究などがうまく機能していると考えられた。このような専門教育についての満足度の要因としてあげられているのは，幅広い，面白いなどであった。他方カリキュラム編成についての要望もある。2 年生までに専門基礎を出来るだけ多く受講したいとか，経済関係の科目が少ないなどがあげられている。これらの意見が妥当かどうかも含め，カリキュラムの再検討が必要と思われる。

教員の指導については，肯定的な評価が学部平均程度である。肯定的評価として丁寧，積極的との評価がある。他方，全く満足していないとの回答が学部の中で最も多い数%あり，“学生のことをあまり考えていない教員が多い気がする”，黒板に書くだけ，研究自慢をするなどが意見として出されている。教員の指導に対して両極端な意見が出される背景や要因も含め，原因究明及び対策等を講じる必要がある。

成績評価への疑問について，ないとする回答が学部内で一番多い。また実験・実習室や卒業研究を行った研究室の施設に十分満足とする回答率も学部で一番高い。しかし，学生の勉学スタイルには問題があるようで，それは 1 日あたりの予習･復習時間が 30 分以内とする割合が学部で一番多いことである。この点も検討が必要である。

卒業研究については，肯定的な評価が約 80%であるが，あまり満足していない回答が 5%ほどある。その理由として，“つらい,気づくのが遅かった”“理解不十分のまま進めてしまった”などの回答に対して，研究テーマの意義などの説明をより丁寧に行う必要がある。

本学部の教育のあり方については，“大学卒業者としての知識や学力を身に付けたか”の項目での肯定的な評価が学部平均より低く，“自主学習が足りなかった”との回答が数名あった。また改善してほしい点については，教員の指導方法と回答した人数が最も多いだけでなく，教員の指導

方法に具体的かつ厳しい指摘がいくつもあり，これらの解決策について学科会議等で検討する必要がある。なおこのような否定的な評価項目がある一方，総合的に満足している回答者が約 65%で，多数の学生にとって満足できた大学生活であったと推察される。

前述したように大方は教員の指導に対し満足としているものの，少数ではあるが全く逆の評価があることについて，その要因を正確に把握しておくことが必要である。

大学院については，各項目とも総じて学部平均的な評価であったが，回答数が少ないが，“自分の勉強不足”“そもそもやりたくもない事をやらされている。指導教官が指導してくれない”“閉鎖的”との指摘もあり，自主学習を促す工夫や学習意欲，研究者意識を向上させるための対策を講じる必要がある。

地域環境工学科

当学科学生の学科での教育目標や入学者受け入れ方針などの理解度は当学部の中で最も高い。これはここ数年共通しており、ガイダンスや JABEE プログラム等でのそれらの明確化・周知徹底が図られていることによると考えられる。また、教員の指導への満足度も平成 22 年度より約 10%増えて 70%強と比較的高い。これは、当学科の教員アンケートで、ほとんどの教員が休講への代替措置を確実に行っている、 学生のレベルに合わせた講義を行っている、としている点と整合している。また、減少傾向が懸念されている 1 日当たりの予習・復習時間でも 1 時間以上の割合が平成 22 年度より約 10%増えて 60%を超えており当学部で最も高い。教員アンケートからは、課題や小テストを課す教員が多く、そのことが自主学習時間の増加に繋がっていると考えられる。

施設・設備については、当学科では、図書室閲覧スペース不足の評価が大きいようであるが、研究室の設備不十分との評価は少ない。これは、当学科の特徴として、卒業研究等で学外に出る機会も多く学内設備への不満は出にくいこともあると思われる。

本学部ではフィールドを活かした研究や教育も実施しており、魅力の一つになっていることから、今後これらについての満足度を問う質問も、教育効果評価の点で必要である。

一方、当学科では大学院進学者が他学科よいかなり少ない状況が続いている。これは、70%の学生が本学科の専門性を活かせる公務員採用職種や建設・土木分野などに就職しており、学科としての特徴が表れているためと思われる。また、卒業者としての知識・学力を身に付けたかの問いに対しては、平成 23 年度では平成 22 年度と違い 65%が肯定的評価をしている。大学院修了生からは、「視野が広がった」、「いろんな視点からものを見られるようになった」、「学部時代にわからなかったことが大学院で勉強したことで理解できるようになった」との意見もあることから、大学院で学んだことの意義が見られており、より専門的な人材を育成させるためには積極的に学生の進学を促す努力が教員側に必要と思われる。

教員の授業に関するシラバス記載の内容と実際の授業内容との一致について、本学科では 11%であり、他の学科と大きな差が認められた。この要因としては、学生の習熟度や履修状況などを考慮したことが上げられる。

Ⅵ. 教育改善委員会（平成２３年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見）

学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて

（１） 学部理念，教育目的，教育目標，およびアドミッションポリシーに関して

学部の理念，目的，目標に対する認知度は，前年度に比較し改善傾向にあり１割程度上昇傾向にある。本年度の卒業生は，学科改組後の第一期生にあたり，改組によって各学科の方向性が明確になったことと，入学時教育やガイダンス時に新学科の教育理念・目的・目標の説明を徹底した結果と思われる。アドミッションについても前年度に比較して認知度が 2 倍以上に増加し，改組により学科の方向性が明確されたメリットが現れている。理念，目的，目標とカリキュラムとの整合性については 7 割が肯定的な意見が得られており，改組後の新学科体制が順調なスタートをきったといえる。一方で，理念，目的，目標に対する認知度は５割強，アドミッションポリシーについては４割程度と，未だ半数以上に十分な理解が得られておらずさらなる徹底が求められる．

研究科では，目的，目標，アドミッションポリシーに関する認知度は上昇傾向にあり，大学院説明会等の活動が成果をあげているものと思われる．

（２） シラバスに関して

シラバスの有用性に関し，8 割以上の肯定的な意見が得られている。ここ数年にわたるシラバスの改善の徹底によって内容が充実し，学生の科目選択に有効に機能していることを示している。その結果を受けた専門教育に対する満足度については，6 割強と昨年度に比べ増加している。一方で学科によるバラツキが大きく，5 割～8 割強と大きな差が生じている。否定的な意見の要因を見ると「〇〇をもう少し勉強したかった」など入学時に抱いていたイメージとのズレを指摘するものが中心となっていた。アドミッションポリシーの徹底や入学後のガイダンス等を通じ，さらなる授業情報等の周知が求められている。

（３） 教員の指導や対応に関して

教員の指導や対応に対する評価は，肯定的な意見が昨年度と比較し１割増加した。しかし，５割程度から８割近くまでと学科によるバラツキが大きく，もっとも低い学科では約半数が教員の対応に対し十分に満足していない。コメント等をみると，概ね教員の対応を評価する意見が多かったが，否定的な評価をした学生の回答として，教員による対応のばらつきや一部の講義などでの対応への不満がみられ，継続的な検討が求められている。

（４）成績評価について

昨年同様に約３割の学生が成績に対し疑問や異議を抱いていた。しかし，94%の学生が問い合わせ等の対応をとっておらず，具体的な手続きをさらに分かりやすく示し，説明する必要があると思われる。また，新学科体制への移行時に一部対応がスムーズにいかなかった事例があったようであり，状況を継続的に確認する必要がある。

（５）講義への取り組みに関して

１日の学習時間について４年ぶりに改善傾向を示し，「30 分未満」の回答者が昨年度と比較し１割程度減少した。同時に，「2 時間以上」の回答者が若干ではあるが増加傾向を示した。全体としては予習・復習時間についての改善傾向が見られたが，１日の学習時間が 1 時間未満の学生が６割を占め，更なる学習意欲の向上策を講じる必要がある。同時に，学生の講義に望む姿勢についてみると，受講態度に関するコメントが大多数で，事前事後の予習・復習に関するものはごく

僅かである。講義を受けることが学習であるという認識が感じられ，きわめて受け身の姿勢が感じられる。

一方で，実験・実習に対しては学生の積極的な姿勢が強く感じられた。特に興味深いのが，学科を問わず，グループでの取り組みやチームワークの重要性に関するコメントが数多く見られる点である。仲間と協力し体験しながら学習する仕組みが，専門教育に対する学生の意識向上と主体的な学習意識の醸成に好結果をもたらしている。講義と実験・実習の連動性をもった実施が，学生の主体的な学習意欲の形成のきっかけとなる可能性がある。

（６）施設等に関して

実験・実習室，情報処理演習室については７割程度の満足度が得られている。一方，講義室の満足度が５割程度と昨年度に比べ約１割低下した。コメントを見ると，その要因の多くは冷暖房に関する不満にあるように思われる。状況を継続的に確認する必要もあるが，設備の新設や更新などすぐに対応が難しいハード面の対応以外に，講義時間の配置などソフト面の工夫も検討可能ではないかと思われる。図書室の利用割合は５割程度に留まっている。蔵書，スペースの問題もあると思われるが，開館時間に対する不満が相対的な増加傾向を示している点は検討の余地があると思われる。また，実験室や廊下の照明に関する指摘については，安全衛生に直結する問題であり，内容を詳細に検討する必要がある。

（７）卒業研究について

全体を通して８割以上の学生から肯定的な評価が得られた。要因として，長い時間をかけて１つのテーマに取り組み，主体性をもって体系的な学習を行った達成感を感じているものが多く見られる。教員の側も９割が肯定的な評価をしており，相対的に，講義だけでは養うことの困難な総合的な問題解決能力などの育成の場として捉えている。この結果は，他の質問項目に対する評価と比較しても，際だって高い評価が得られており，
今後の教育のあり方を考えて行く上で，重要なポイントと思われる。

（８）本学部の教育のあり方について

約半数の学生が概ね大学卒にふさわしい教養と専門知識を身につけたと感じており，改組前の昨年度と比較し１割程度増加している。否定的な見解の要因としては，自己努力の不足を挙げている例が多く，早い段階からの学習意欲の醸成に向けた対応が求められている。本学部の教育・研究への取り組みには６割程度の満足度が得られているが，改善を要するものとして，就職支援，授業方法，施設・設備が挙げられている。特別な予算措置等の対応が必要な場合もあるが，個々の教員の対応や就職支援センターのさらなる有効利用により改善可能なものもあり，学部全体と同時に各教員が検討する必要がある。

教員対象授業アンケートについて

（１）授業の実施方法について

実施回数が必要回数に達していない授業が２割程度ある。この場合の対応について，休講時に対応について「何もしていない」場合が約１割あり，この点は改善を行う必要がある。

（２）授業内容とシラバスとの一致について

もっとも高い生物資源学科（約９割）と地域環境工学科（約１割）で大きな開きが見られた。この点に関し，担当講義への姿勢という点で「大多数の学生のレベルを意識して展開」が地域環境工学科では９割に達しており，学生の反応をみながら内容を変更していることがうかがわれる。

約半数の教員が授業の向上を目的としたシラバスの変更（修正）を行っているが，その成果を実感している教員は３割程度に留まっており，継続的な対応が求められている。

教員対象教育評価アンケートについて

（１）カリキュラムやシラバスが学科・専攻などの教育目標に合致しているか

カリキュラムに関しては８割の教員が，シラバスに関しては 97%の教員が肯定的に回答している。カリキュラムに関する同様の質問で、学生の肯定的回答が約７割と改組前に比べ３割程度増加していることから，新学科体制への移行により，教員・学生間でカリキュラムの重要性の認識が共有できたものと思われる。シラバスと授業内容の一致については，学科間で大きな考え方の違いがあるが，95%の教員が内容変更時には「学生に説明するべき」と答えており，シラバスの重要性は強く認識されている。

（２）「学生による授業評価」のとらえ方に関して

アンケートで評点の低かった項目の評価を上げるよう努力していると回答した教員は約８割に達している。アンケートに否定的な見解の教員も見られるが，授業評価アンケートを授業改善のきっかけにしようとする意識が相対的に広まっていると思われる。

（３）ＦＤについて

９割の教員が, 何らかのＦＤ活動に参加している。８割の教員が何らかの役立ったとしており，学部におけるＦＤ活動は着実に進展している。

（４）学生の学習促進

８割超の教員が授業時間以外の学習促進に向けた対応を行っている。学生の学習時間が若干ではあるが改善傾向を示した要因の１つと思われる。一方で，単位の実質化が叫ばれている昨今，学生の学習意欲の向上に向けた対応は今後ますます求められる。自発的に学習する形が望ましいものの，より一層、課題等を課すことで学習させるべきなのか？など，この点に関して，今後継続的な検討が不可欠である。

（５）その他

施設・設備に関する質問の中では研究室に対する満足度が最も低く、５割弱の肯定評価にとどまった。研究室が狭く学生が混み合っているという苦情が多い。また、卒業生の質に関する質問では「大学卒に値する」という肯定的評価を行った教員が６割と昨年度までに比べ約１割低下した。否定的回答をした中からは，基礎学力の不足や学生の意欲の低下を指摘する意見が見られ，これらへの対応は今後の大きな課題といえる。

弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科

「平成 23 年度　教育改善に向けたアンケート調査報告書」編集担当者

平成 23 年度　農学生命科学部　自己評価委員

地域環境工学科	檜垣　大助（編集責任者）
生物学科	東　信行
分子生命科学科	姫野　俵太
生物資源学科	前多　隼人
園芸農学科	川崎　通夫
生物共生教育研究センター	房　　家琛

平成 24 年度　農学生命科学部　自己評価委員

分子生命科学科	宮入　一夫（副編集責任者）
生物学科	大河　浩
生物資源学科	比留間　潔
園芸農学科	本多　和茂
地域環境工学科	藤崎　浩幸
生物共生教育研究センター	伊藤　大雄